

V シラバス(2年)

V シラバス(2年)

V シラバス(2年)

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	コミュニケーション理論と実際 (Introduction and Practice to Communication)					ナンバリング	N-CO94	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	小野坂益成								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 看護実践で必要とされる基本的なコミュニケーション能力の修得を目的とする。参加・体験型の授業形態を通じ、コミュニケーション理論ならびにコミュニケーションスキルについて学修する。また、ロールプレイやグループでの話し合いを通して、他者の考え方や自分の中に起こってくる感情や反応を知り、ヒューマンケアを実践する看護専門職者としての言動、傾聴、態度について考察する。									
授業目標： 1. コミュニケーションとは何か、その意味や必要性、重要性について考えることができる。 2. コミュニケーションという日常生活を送る上で必ず行われる事柄を意識し、自己や他者に関心をもち関わるることができる。 3. コミュニケーションの基本的な知識や技術を学び、看護専門職者に必要な基本的な態度について説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		担 当
1	ガイダンス コミュニケーションとは何か			事前：シラバスを確認する。 事後：課題レポート作成			講義		小野坂益成
2	コミュニケーションの種類 ー言語的コミュニケーションー			事前：言語的コミュニケーションについて説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成			講義 グループワーク		小野坂益成
3	コミュニケーションの種類 ー非言語的コミュニケーションー			事前：非言語的コミュニケーションについて説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成			講義・グループワーク・ コミュニケーション ゲーム		小野坂益成
4	コミュニケーションに影響するもの ー自己理解ー			事前：自己理解について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成			講義 グループワーク		小野坂益成
5	コミュニケーションに影響するもの ー他者理解ー			事前：他者理解について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成			講義・グループワーク・ コミュニケーション ゲーム		小野坂益成
6	グループでのコミュニケーション ーリーダーシップとメンバーシップー			事前：司会とファシリテーターについて説明できるように準備する。 事後：理解確認小テストに向けた準備			講義 グループワーク		小野坂益成
7	グループでのコミュニケーション ーグループ間の交流 グループダイナミクスついてー			事前：グループダイナミクスについて説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成			講義・グループワーク・ コミュニケーション ゲーム		小野坂益成
8	看護におけるコミュニケーション			事前：看護におけるコミュニケーションとは？を考え授業に臨む。 事後：課題レポート作成			講義 グループワーク		小野坂益成
9	積極的傾聴と共感			事前：傾聴と共感について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成			講義 ロールプレイ		小野坂益成
10	良好なコミュニケーションに必要な技法 ー質問技法ー			事前：良好な質問について考え、授業に臨む。 事後：課題レポート作成			講義 ロールプレイ		小野坂益成
11	良好なコミュニケーションに必要な技法 ー関係構築の技法ー			事前：良好な関係性について考え、授業に臨む。 事後：課題レポート作成			講義 ロールプレイ		小野坂益成
12	否定的なコミュニケーション ー自己と他者ー			事前：否定的なコミュニケーションをされたらどのように対応するか考え、授業に臨む。 事後：課題レポート作成			講義 グループワーク		小野坂益成
13	看護面接のプロセスと動機付け			事前：看護面接について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成			講義 グループワーク		小野坂益成
14	多職種連携・患者家族とのコミュニケーション			事前：良好な家族とのコミュニケーションについて、説明できるように準備する。 事後：理解確認小テストに向けた準備			講義 グループワーク		小野坂益成
15	まとめ			事前：これまでの講義資料を精読し、コミュニケーションについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：これまでの講義資料、小テストの見直し			講義		小野坂益成
教本： なし 適宜、資料を配布する。					参考文献： 1. 篠崎恵美子, 藤井徹也 看護コミュニケーション 医学書院 2. 川野雅資 看護師のコミュニケーション技術 中央法規				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（60％）等で評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： コミュニケーションは、看護にかかわらず生活していく上で必ず生まれるものです。日常生活をよりよく生きるために良好な人間関係を構築し、また今後の看護師としてのコミュニケーションスキルを、授業を通して学びましょう。									

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための経済学（Economics）					ナンバリング	N-EC23	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちは誰もが日々経済活動をしています。ATMで現金を引き落としてモノを買い、消費すること。会社に行って仕事をする。CO ₂ の減少に貢献するために再生可能エネルギーによる電力を使ったり、その電力でスマホに充電したりすること。これらはすべて経済行為です。経済学はこうした経済行為を一消費者や生産者、あるいは企業・産業、国単位、世界、環境、福祉、エネルギーなどの観点で表現したものです。本講義では主に日常にある経済問題を取り扱います。									
授業目標： 先ず、専門用語と数字になれて下さい。次に経済の関連性についてイメージを作ってください。たとえば、所得と税金、消費と価格、環境保全と電気自動車、為替レートと輸入・輸出などです。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	ガイダンス： 授業の進め方と取り扱う問題の範囲の説明。基本的な経済用語と数値の解説。経済学の歴史の概説。情報収集の方法の提示。					事前：身近な経済問題をメモしておく。 事後：経済用語表を作成（継続）。		講義	宮崎隆
2	世界の中の日本： 日本はどのように成長・発展してきたか。世界の中で日本はどのようなポジションにあるかを解説。					事前：1 回目の講義で 配布された資料を読む。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
3	日本経済のしくみ その(1)：企業・産業 わが国にはどのような企業と産業があり、世界的にみて特徴はあるのか。得意分野と不得意分野、今後期待される産業はあるのか。					事前：関心のある企業・産業の下調べ。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
4	日本経済のしくみ その(2)：政治と行政、経済 行政省庁と民間経済の関係。国と地方の関係性。経済政策の基礎を解説。					事前：行政の下調べ（どんな省庁があるか。） 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
5	日本経済のしくみ その(3)：人口問題 一極集中と過疎化、少子高齢化社会の実態、コロナ禍で地方移住は進むか。					事前：一極集中の弊害を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
6	日本経済のしくみ その(4)：私たちの暮らしと税金 いわゆる「日本の借金問題」について。税金の基礎。					事前：「日本の借金／人口＝〇円／一人」を調査しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
7	日本経済のしくみ その(5)：デジタル経済論 アナログとデジタル、ネットワーク、デジタル産業について。デジタルによる新しい産業。					事前：デジタル用語を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
8	エネルギー経済について：電力 直流と交流、発電と送電、再生可能エネルギーとは。今後の電力政策。近未来の電力システム等について解説。					事前：各種電池の特徴を調べておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
9	環境経済について：IPCCと地球温暖化問題 IPCC「報告書」の概要。地球温暖化の実態、環境政策の概要。					事前：近年のわが国の災害を調べておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
10	交通経済学：電気自動車 なぜ電気自動車か。電気自動車社会になると私たちの暮らしはどう変わるのか。					事前：現行の自動車の構造を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
11	商業経済：流通と物流、マーケティング 私たちの日常の経済生活を支える裏側を見る。成功した戦略と失敗した戦略。企業の栄枯盛衰物語。					事前：近年、注目されている企業をピックアップしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
12	福祉と経済：幸せを考える 厚生経済学の歴史。介護問題の基礎。経済学は人を幸せにするか。					事前：「幸福度調査」を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
13	貨幣的経済学：銀行システムと為替レート 日本銀行と民間銀行。金融政策の基礎。為替レートはなぜ変動するのか。					事前：日本の銀行の歴史を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
14	世界経済論：経済体制の違いと経済発展 資本主義経済と社会主義経済の歴史と特徴。わが国はどのような経済体制か。					事前：発展途上国の概要を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
15	メディアと経済：現代メディアを活用した経済の学び方 テキストや専門書、新聞を読むだけが経済学の勉強方法ではない。TVやインターネットはもちろんのこと、中波ラジオも近年インターネット化され、質の高い情報が比較的簡単に手に入るようになった。					事前：日本のメディアの概要を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1 枚）、 利用可能なメディアの選択。		講義60分 ディスカッション15分 発表15分	宮崎隆
教本：なし。（適宜、資料を配布します。）					参考文献：なし。（関連情報源を随時提示します。）				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20％）、定期試験（80％）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学生へのアドバイス： 経済学の対象は多種多様ですが、皆さんが関係する問題、関心をもっている問題を取り上げます。									
2020、2021年度入学者科目名称			経済学						

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	人間と環境 (Human and Environment)					ナンバリング	N-LI93	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	藤井智恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 人間の健康にとって必要な環境条件ならびに直面する環境問題について、文献ならびに保健統計をもとに考察する。その上で、看護・医療・福祉の現場における生活環境や環境衛生について理解を深める。具体的には、地球温暖化現象、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化現象、公害、廃棄物処理、食品安全、水の安全性、感染症、アレルギーなどについて概説するとともに、看護と生活環境の課題について明らかにする。また、物理的・化学的環境のみならず、心理的・社会的環境のあり方についても言及し、ストレス社会における調整についても学習する。									
授業目標： 1. フロレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」の中で特に人間と環境の関係について述べることができる。 2. 人間の生活環境としての快適環境条件、不適環境条件ならびに環境保全、環境衛生の必要性について述べることができる。 3. 地域環境汚染と公害、地球環境汚染と地球温暖化並びにその他の各種地球環境問題について説明できる。 4. 環境汚染物質の取り込み、代謝、排せつ、並びにその毒性和健康被害について説明できる。 6. 大気環境、水環境、土壌環境の健康影響、関連する感染症、水の安全性、毒性物質の体内蓄積について説明できる。 7. 生物学的環境と病原微生物、食品安全のための食中毒、寄生虫、衛生害虫、アレルギー等について説明できる。 8. 現代社会におけるストレスに起因する心の病について述べることができる。 9. 廃棄物処理、医療廃棄物の処理及び移動について説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当
1	フロレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」から人間と環境について考える				事前：シラバスの内容理解 事後：「看護覚え書」の熟読			講義	藤井
2	環境省の発足から環境基本法～東日本大震災にかかる環境省の対応				事前：第1章「環境問題のあゆみ」の熟読 事後：生活環境についてまとめる			講義	藤井
3	公害健康被害（大気汚染系疾病、水俣病、イタイイタイ病、重金属被害など）				事前：第2章「環境保健の動向」の熟読 事後：公害問題についてまとめる			講義	藤井
4	一般環境における化学物質ばく露の把握 ダイオキシン対策とPCB対策				事前：第3章「化学物質対策」の熟読 事後：ダイオキシンについてまとめる			講義	藤井
5	大気汚染対策の動向				事前：第4章「環境保全対策」の熟読 事後：大気汚染についてまとめる			講義	藤井
6	水質汚濁対策の動向				事前：第4章「環境保全対策」の熟読 事後：水質汚濁についてまとめる			講義	藤井
7	騒音・振動・悪臭対策の動向				事前：第4章「環境保全対策」の熟読 事後：騒音についてまとめる			講義	藤井
8	地球環境 地球温暖化対策、オゾン層保護対策、酸性雨対策				事前：第4章「環境保全対策」の熟読 事後：地球環境についてまとめる			講義	藤井
9	廃棄物対策の動向 廃棄物対策のあゆみ				事前：第5章「廃棄物対策の動向」の熟読 事後：廃棄物対策のあゆみをまとめる			講義	藤井
10	廃棄物対策の動向 一般廃棄物、医療廃棄物				事前：第5章「廃棄物対策の動向」の熟読 事後：一般廃棄物についてまとめる			講義	藤井
11	廃棄物対策の動向 災害廃棄物				事前：第5章「廃棄物対策の動向」の熟読 事後：災害廃棄物についてまとめる			講義	藤井
12	石綿健康被害				事前：第6章「環境要因による健康影響に関する取り組み」の熟読 事後：石綿健康被害についてまとめる			講義	藤井
13	生活環境施設の動向 食品安全行政の動向				事前：第7編第1章「生活環境施設の動向」第2章「食品安全衛生行政の動向」の熟読 事後：食品の安全対策についてまとめる			講義	藤井
14	化学物質の安全対策の動向				事前：第7編第3章「化学物質の安全対策の動向」の熟読 事後：家庭用品中の化学物質についてまとめる			講義	藤井
15	森永ひ素ミルク中毒のDVDを視聴して食品衛生について考える				事前：第7編、第9編の振り返り 事後：授業のまとめ			講義	藤井
教本： 国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計協会 参考文献： フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」小玉香都子・尾田葉子訳 日本看護協会出版会、2015									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加態度等（20%）、レポート（40%）、最終レポート（40%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： この授業を通して、フロレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」に書かれている人間と環境の関りの大切さを学んでください。参考図書をたくさん読んで、積極的に授業内容を理解するように努めてください。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マルチメディア表現 (Multimedia)					ナンバリング	N-IN24	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	鈴木秀顕								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、デジタル時代における他との情報コミュニケーションについて、広報という形からの知見を高める。企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でのコミュニケーションについて、議論により理解を深める。									
授業目標： 現代社会のコミュニケーションについて、広報という立場から理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		担 当
1	産業社会とメディアの変容				事前：精読（11-29） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
2	デジタル時代に問われる広報コミュニケーション				事前：精読（33-45） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
3	コーポレートコミュニケーション				事前：精読（48-62） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
4	広報戦略の立案				事前：精読（66-78） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
5	ICTの活用とコミュニケーションデザイン				事前：精読（81-94） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
6	マーケティングコミュニケーション				事前：精読（97-110） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
7	インターナルコミュニケーション				事前：精読（113-124） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
8	CSRと地域社会への広報活動				事前：精読（127-138） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
9	成功するIR活動				事前：精読（141-152） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
10	グローバルコミュニケーション				事前：精読（156-168） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
11	電子自治体・行政広報の要点と実務				事前：精読（172-184） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
12	危機管理対応とリスク管理				事前：精読（187-197） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
13	コミュニケーション効果と効果測定				事前：精読（199-212） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
14	インターネット広報とオウンドメディアの活用				事前：精読（215-228） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
15	メディアリレーションズ				事前：精読（231-243） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木秀顕
教本： 『広報コミュニケーション基礎』（宣伝会議）					参考文献： 『広報・PR概説』（日本パブリックリレーション協会）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： この科目は定員があります。履修登録をした上で第1週の授業に必ず出席してください。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護英語 B（看護原書講読）（Nursing English B）					ナンバリング	N-LG13	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	垣 内 史 堂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： F・ナイチンゲールの原書を読むことにより、人間の理解、環境の整備の必要性、看護とは何かについての基本を捉えると共に、原著文献の読み方を学修する。									
授業目標： 1. 原著文献の読み方に親しみ、日本語訳を作ることができる。 2. 日本語訳を作成する過程で、授業概要のいくつかの要因に触れつつ、履修者それぞれの目標を達成するための足がかりとなることことができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	Introductory (1) (p1) を精読する。				事前：なし 事後：文法事項の確認		講義	垣内史堂	
2	Introductory (2) (p2) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
3	Introductory (3) (p3) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
4	Introductory (4) (p4, 5) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
5	HEALTH OF HOUSES (1) (p21, 22) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
6	HEALTH OF HOUSES (1) (p23) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
7	HEALTH OF HOUSES (1) (p24) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
8	HEALTH OF HOUSES (1) (p25) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
9	HEALTH OF HOUSES (1) (p26) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
10	HEALTH OF HOUSES (1)(p27) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
11	HEALTH OF HOUSES (1) (p28, 29) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
12	HEALTH OF HOUSES (1) (p30) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
13	HEALTH OF HOUSES (1) (p31) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
14	HEALTH OF HOUSES (1) (p32) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
15	Supplementary Chapter (p131-) を精読する。				事前：原書精読 事後：文法事項の確認		講義		
教本： Nightingale, <i>NOTES ON NURSING</i> 現代社。 ¥1,500					参考文献： その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等・小テスト・レポート等（40％）、定期試験（60％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 原書を丁寧に読むようにしてください。									
2020、2021年度入学者科目名称			看護英語 A（看護原書講読）						

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義	
授業科目(英文)	保健医療福祉行政と政策 (Health and Welfare Administrations, and its' Policies in Japan)					ナンバリング	N-LA63	科目分類	基礎分野	
担 当 教 員	渡邊 良久									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	なし								
授業概要： 保健医療福祉の衛生行政と社会保障について学修し、看護のコーディネーション能力を開発、強化することを目的とする。総論として、保健医療福祉行政制度の変遷、国・都道府県・市区町村による保健医療福祉行政の仕組みと役割などについて学修する。各論として、健康増進・公衆衛生・医事行政、母子保健福祉行政、老人保健福祉行政、障害者保健福祉行政、産業保健福祉行政、日本の社会保障制度とその仕組み・問題点などについて学修する。										
授業目標： 1. 日本の社会福祉・社会保険制度について説明できる。 2. 看護職として地域の社会福祉機能の関わり方について説明できる。 3. 今後必要な社会福祉のあり方について述べるができる。 4. 保健医療福祉分野における各種の制度や関係法令が説明できる。 5. 保健医療福祉行政とその中における看護職の位置づけが説明できる。 6. 今後の保健医療福祉の制度改革の方向性を述べるができる。										
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	社会保障制度と社会福祉に関する法や施策				事前：シラバス熟読 事後：社会保障制度と社会福祉に関する法律についてまとめる			講義	渡邊良久	
2	社会保障制度の基本（小テスト） 医療保険制度				事前：テキスト「医療保障」を熟読 事後：医療保険制度についてまとめる			講義	渡邊良久	
3	所得保障と公的扶助（小テスト） 労働保険、年金、生活保護				事前：テキスト「所得保障」を熟読 事後：労働保険、年金、生活保護についてまとめる			講義	渡邊良久	
4	社会福祉の分野とサービス（小テスト） 障害者福祉、母子福祉				事前：テキスト「社会福祉の分野とサービス」を熟読 事後：障害者福祉、母子福祉についてまとめる			講義	渡邊良久	
5	介護保険制度、高齢者に関する法律（小テスト）				事前：テキスト「介護保障」、「福祉法」を熟読 事後：介護保険制度、高齢者に関する法律をまとめる			講義	渡邊良久	
6	社会福祉の展望 社会福祉の歴史と今後の方向性				事前：テキスト「社会福祉の展望」を熟読 事後：社会福祉の歴史と今後の方向性についてまとめる			講義	渡邊良久	
7	疾病予防に関連する法律（小テスト） 地域保健法、健康増進法、感染症に関する法律				事前：テキスト「保健衛生法」を熟読 事後：地域保健法、健康増進法、感染症に関する法律をまとめる			講義	渡邊良久	
8	学校保健や労働に関する法律（小テスト）				事前：テキスト「労働法と社会保障基盤整備」を熟読 事後：学校保健や労働に関する法律をまとめる			講義	渡邊良久	
教本： 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 看護関係法令④ 医学書院										参考文献： 随時提示する。
成績評価の方法、評価基準： 小テスト（60％）、定期試験（40％）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 看護職として活動する際、保健医療福祉行政との関わりが不可欠です。特に人口の高齢化に伴い、保健医療福祉を取り巻く環境は激変しているため、高齢者福祉の制度や関連する様々な法制度が頻繁に改定されています。法制度やしくみを理解し、地域や患者家族と適切に関われる看護師となることを目指しましょう。										

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	医療と経済 (Introduction to Health Economics)					ナンバリング	N-EC53	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	松浦 広明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要 医療経済学は、医療や医療制度、そして人々の健康に関する様々な事象を扱う経済学の一分野です。ヨーロッパにおいては、医学の分野から、医療技術や診療行為の経済的評価を中心に発達し、アメリカでは、経済学の一分野として、医療制度の経済分析と言う形で大きく発展してきました。本講義では、わが国の医療制度について、特に経済学的側面から考察する。医療サービスの経済学的特殊性、医療保険の理論と実際、医療・看護サービスの経済評価など、医療制度の様々な側面を経済学的手法を用いて検討していきます。									
授業目標： 1. 経済学の基本的な考え方を理解する。 2. 健康の決定要因としての医療の役割を理解する。 3. 医療費の高騰とその原因を理解する。 4. 医療費の高騰を抑えるための政策オプションについて理解する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	医療経済学とは何か？				事前：なし 事後：講義の復習		講義	松浦 広明	
2	健康への需要 v. 医療への需要				事前：1 章 1 事後：講義の復習		講義	松浦 広明	
3	健康の決定要因としての医療の役割				事前：7 章 事後：講義の復習		講義	松浦 広明	
4	医療の供給				事前：なし 事後：レポート 1（翌週提出）		講義	松浦 広明	
5	医療のファイナンス				事前：1 章4-6, 9-11 事後：講義の復習		講義	松浦 広明	
6	医療経済評価Ⅰ：費用対効果分析				事前：4 章（2 章の内容もカバーします） 事後：）		講義	松浦 広明	
7	医療経済評価Ⅱ：効率性と公平性				事前：なし 事後：講義の復習		講義	松浦 広明	
8	まとめ				事前：なし 事後：レポート 2（翌週提出）		講義	松浦 広明	
教本： 津川 友介（2020） 「世界一わかりやすい「医療政策」の教科書」 参考文献： 1 兪炳匡（2006）『「改革」のための医療経済学』メディカ出版 2 マーク・ロバーツ，ウィリアム・シャオ，ピーター・バーマン，マイケル・ライシュ（2010） 「実践ガイド 医療改革をどう実現すべきか」日本経済新聞出版社 3 WHO（2000）The World Health Report 2000 – health systems: improving performance, Geneva: World Health Organization 4 Drummond MF. (2005) Methods for the economic evaluation of health care programmes. 3rd ed. New York: Oxford University Press 5 Cookson, R., Griffin, S., Norheim, O. F., & Culyer, A. J. (Eds.). (2020). Distributional Cost-Effectiveness Analysis: Quantifying Health Equity Impacts and Trade-Offs. Oxford: Oxford University Press その他は随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 2 回のレポート（各50％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 全ての重要な連絡はメールでします。大学のメールの使えない方は、初日までに使えるようにしておいてください。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	演習
授業科目(英文)	健康障害 C (Helth Disorders C)					ナンバリング	N-MS23	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	成尾宗浩・中 正剛・福島裕之・蜂屋留見・関口 剛								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他	なし							
授業概要： 1. 運動器系の病態の特性：①骨の構造と機能、②腱・筋肉の構造と機能、③関節靱帯の構造と機能を学修し、運動器が人間の日常生活（QOL）に強く影響していることを理解し、さらに運動器疾患の各病態メカニズム、検査、症状および治療について学修をする。また、回復期におけるリハビリテーションの実践について、その適応や実技、装具などについても学ぶ。 2. 小児の健康障害：人間の成長と発達より、乳児期、幼児期、学童期、思春期各期の身体的・精神的発達について理解し、小児期特有の症状（発熱、脱水、呼吸困難、けいれん、嘔吐、下痢、湿疹、食欲不振など）や疾患のメカニズム、検査、治療について学修する。また、小児疾患の疾病の定義、病態、診断、症状、検査、治療について、事例などを紹介しながら学修する。また、救急救命の必要な事故・外傷、虐待、ハイリスク新生児、先天性疾患、心身障害のある小児の治療などについても学ぶ。小児の慢性期および終末期の治療についても学修する。 3. 精神・心理の健康障害：精神の構造と機能を理解し、それぞれの健康レベルと障害との関連、精神の不健康状態について理解するための知識を学び、今日の精神医学の知識を学修する。									
授業目標： 1. すでに学んだ人体の構造と機能（運動器系）を想起できる。 2. 各ライフステージによる運動器系の疾病の特徴を説明できる。 3. 運動器の症状とその病態について説明できる。 4. 運動器の検査及び診断について説明できる。 5. 運動器の治療の特徴を踏まえ、治療の説明ができる。 6. リハビリテーションの実践についてその適応や実技について説明ができる。 7. 小児疾患全般についての知識を獲得する。 8. 小児看護の果たすべき役割を学習する。 9. 精神症状の理解 10. 主に統合失調症、気分障害の理解 11. 主に薬物療法の理解									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1～5	運動器の構造と機能 骨折・脱臼・捻挫 骨の腫瘍 廃用症候群 変形性関節症 筋ジストロフィー、重症筋無力症 骨粗鬆症 腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）					事前：本日の講義範囲の教本を読む 事後：ノートの記録をしながら本日の講義内容を確認する		講義	成尾中
6	先天異常、染色体異常、新生児疾患、低出生体重児					事前：講義範囲の教本を読む 事後：ノートの記録をしながら本日の講義内容を確認する		講義	蜂屋
7	感染症、呼吸器・免疫・アレルギー疾患								福島
8	代謝、内分泌、糖尿病								蜂屋
9	循環器、先天性心疾患、川崎病、消化器・腎臓・泌尿器科疾患								福島
10	血液疾患、悪性新生物、神経、運動、けいれん、筋疾患、発達障害								福島
11～15	精神症状論と状態像 統合失調症 気分障害 神経症その他 精神治療学					事前：テキストを読んでおく 事後：		講義	関口
教本： 1 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学10「運動器」医学書院 2 系統別看護学講座 「小児臨床看護各論」 医学書院 3 系統別看護学講座 精神看護の基礎 「精神看護学①」 医学書院					参考文献： 1 新体系 看護学全書 成人看護学11「運動器」メジカルフレンド社 2016年度版 2 ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑤ 「運動機能障害」 MCメディカ出版 2016年度版 その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）を原則とし、出席状況等を加味して判断する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 人体の構造・機能の運動器や神経系及び血管系の復習を十分してから、この授業に参加することで、よりいっそうの学習成果を得ることができます。									
2020、2021年度入学者科目名称			運動器系の健康障害、小児の健康障害、精神・心理の健康障害						

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	薬物や放射線による人間の反応 (Human Response to Draugs and Radioactive Substances)					ナンバリング	N-MS33	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	垣内史堂・吉井信哉								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 多くの疾患において治療の中心となるのは薬剤である。この授業では、薬理学総論として薬物の基本的な知識・法・規則などを概略的に学習する。(具体的な作用・副作用など各論的な部分は健康障害A,Bで学ぶ。) また、現代の医療では、腫瘍に対する放射線治療だけでなく、放射線を使った検査機器の発展とともに放射線の医療に果たす役割はますます大きくなっている。この学科目では放射線の医療利用(放射線診断、放射線治療、輸血用の血液に対する放射線照射等)、人間への放射線の作用と健康への影響・リスク、放射線利用の際の医療者の被ばく防護対策を学ぶ。									
授業目標： (薬物による人間の反応) 1. 薬物の作用点(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)を説明できる。 2. 薬理作用を規定する要因(用量と反応、親和性等)や薬物動態(吸収、分布、代謝、排せつ)を説明できる。 3. 薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。 4. 薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる。 5. 薬物の投与方法(経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等)の違いによる特徴を説明できる。 6. 薬物作用の個人差に関与する因子を説明できる。 (放射線による人間の反応) 1) 放射線の種類、作用、単位を列挙し、説明できる。 2) 「放射線」と「放射能」の違いを説明できる。 3) 放射線被曝の種類を列挙し、説明できる。 4) 防護の三原則を説明できる。 5) 各種画像検査を列挙し、その特徴、必要な前・後処置、禁忌事項がある場合にはそれを説明できる。 6) 造影剤の使用意義と有害事象について説明できる。 7) 核医学検査の特徴および注意事項を説明できる。 8) 癌治療における三大治療方法を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 9) 放射線治療の生物学的背景を説明できる。 10) 放射線治療の方法を列挙し、特徴を説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	担 当
1	薬物による病気の治療、 薬物の作用するしくみ(薬物受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)					事前学習：教本1. 1章、2章Aを読んでおく。 事後学習：講義の復習、課題レポート提出		講義	垣内 史堂
2	薬物の体内動態(薬物の投与経路、吸収、分布、代謝と排泄、体内動態の指標)					事前学習：教本1. 2章Bを読んでおく。 事後学習：同じ		講義	垣内 史堂
3	薬物の相互作用・ポリファーマシー、 薬効の個人差に影響する因子(年齢、性、妊娠、遺伝子)					事前学習：教本1. 2章C, Dを読んでおく。 事後学習：同じ		講義	垣内 史堂
4	薬物使用の有益性と危険性(用量による影響、副作用、薬物耐性・依存) 薬と法律(医薬品に関する法律、新薬開発)					事前学習：教本1. 2章E, Fを読んでおく。 事後学習：同じ		講義	垣内 史堂
5	放射線と医学、放射線防護と健康管理 医療における放射線医学の役割、歴史、放射線医学の総論的な知識を修得する。また、放射線障害や放射線防護を学ぶ					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：講義の復習、課題レポート提出		講義	吉井 信哉
6	X線・CT・MRI・超音波 X線CTを含めたX線診断の特徴ならび、MRIと超音波検査の特徴を学び、画像のなりたちを理解し、実際のCT・MRI・超音波検査に役立つ知識を身に付ける					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：同じ		講義	吉井 信哉
7	核医学・IVR血管造影 核医学検査や血管造影の特徴を学び、画像のなりたちを理解し、血管造影の診断技術を応用した治療手技IVRの必要性和手技を理解し、実際の検査に役立つ知識を身に付ける					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：同じ		講義	吉井 信哉
8	放射線治療 放射線治療の原理や基礎、照射法の種類など総論的な事項を学び、急性有害反応など実際に役立つ知識を身に付ける					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：同じ		講義	吉井 信哉
教本： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕薬理学(第1部総論部分)、 吉岡充弘、泉剛、井関健、横式尚司、菅原満、医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 青木学 その他、医学書院									
参考文献： 成績評価の方法、評価基準： 出席時間・授業参加状況等は定期試験受験のための必要条件とし、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目(レポート等)についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： この授業科目の内容は、1年生で履修した健康障害A, Bの各疾患について診断や治療に用いる薬物や放射線をまとめて学びます。医療現場で薬物と放射線の使用はきわめて有効ですが、同時に副作用など悪影響も少なくありません。基本的な薬物や放射線のはたらくメカニズムを理解しておくことは重要です。教科書にあらかじめ目を通しておくなど、毎回予習復習をするように心がけ、授業内容の理解に努めて下さい。Web上でも有益な情報が多く得られますが、うまく理解できないところは積極的に質問し、理解しておくことが肝要です。									

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習	
授業科目(英文)	医療支援技術 (Medical and Nursing Technologies)					ナンバリング		N-BN43	科目分類	専門分野
担 当 教 員	牛島典子・奈良かな子・勅使河原俊子・富田幸江・西 法子									
履 修 条 件	前提科目	生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント演習、看護方法論演習の単位取得済								
	そ の 他	なし								
授業概要： 健康、疾患、障害に対する診療の補助技術ついて、安全・安楽に行動するための法と理論的根拠について理解をして実践できるように学習する。具体的には、与薬法、検査法等の技術について看護の視点を含め学ぶこととする。										
授業目標： 1. 診療の補助に伴う援助を実践するために必要な知識と方法を学ぶことができる。 2. 診療の補助に伴う援助を受ける対象者を理解し、対象者の立場に立った援助が考えられる。 3. 診療の補助に伴う援助技術の特徴を理解し、基礎的技術が正確・確実に安全に実施できる。										
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態	担 当	
1・2	医療支援技術授業の進め方 診療の補助と医行為 安全確保の技術			事前：シラバス、講義に関する教科書を読み、事前に学習内容を確認して講義に臨む。 事後：講義後の事後課題を行い、課題の提出をする。				講義	牛島	
3・4	感染防止の技術① 無菌操作と滅菌物の取り扱い			事前：無菌操作・滅菌物の演習課題を行い、課題の提出をする。内容を理解して臨む。1年生で学習した感染防止を復習して臨む。 事後：演習後の評価・課題の提出をする。 滅菌手袋の着脱の練習をする。				講義 演習	奈良 他	
5・6	創傷管理の技術 感染防止の技術② 技術試験：滅菌手袋の着脱			事前：創傷管理の技術についての課題を行い、課題の提出をする。内容を理解して臨む。 事後：自己の技術の振り返り、課題の提出をする。				講義 演習	牛島 奈良 他	
7・8	排泄援助技術① 導尿			事前：導尿の演習課題を行い、課題の提出をする。内容を理解して臨む。 事後：演習後の評価・課題を提出する。				講義 演習	勅使河原 他	
9・10	排泄援助技術② 浣腸			事前：浣腸の演習課題を行い、課題の提出をする。内容を理解して臨む。 事後：演習後の評価・課題を提出する。				講義 演習	勅使河原 他	
11・12	食事援助技術 非経口的栄養摂取の援助			事前：非経口的栄養摂取の援助についての演習課題を行い、課題の提出をする。 内容を理解して臨む。 事後：演習後の評価・課題を提出する。				講義 演習	牛島 他	
13・14	呼吸・循環を整える技術① 酸素療法			事前：酸素療法の演習課題を行い、課題の提出をする。 内容を理解して臨む。 事後：演習後の評価・課題を提出する。				講義 演習	牛島 他	
15・16	呼吸・循環を整える技術② 排痰ケア（体位ドレナージ、咳嗽介助、ハフィン グ、吸引）			事前：排痰ケアの演習課題を行い、課題の提出をする。 内容を理解して臨む。 事後：演習後の評価・課題を提出する。				講義 演習	牛島 他	
17・18	与薬の技術① 与薬の基礎知識、輸血管理			事前：与薬の技術の課題を行い、課題の提出をする。 内容を理解して臨む 事後：講義後の課題を提出する。				講義	牛島	
19・20	与薬の技術② 皮下注射			事前：皮下注射の課題を行い、課題の提出をする。 内容を理解して臨む。 事後：演習後の評価・課題を提出する。				講義 演習	牛島 他	
21・22	与薬の技術③ 筋肉内注射			事前：筋肉内注射の課題を行い、課題の提出をする。 内容を理解して臨む。 事後：演習後の評価・課題を提出する。				講義 演習	牛島 他	
23・24	検査・処置における技術① 血液検査（静脈血採血）			事前：静脈血採血の課題を行い、課題の提出をする。 内容を理解して臨む。 事後：演習後の評価・課題を提出する。				講義 演習	牛島 他	
25・26	与薬の技術④ 静脈内注射			事前：静脈内注射の課題を行い、課題の提出をする。 内容を理解して臨む。 事後：演習後の評価・課題を提出する。				講義 演習	牛島 他	
27・28	検査・処置における技術② 死の看取りの援助			事前：講義に関する事前課題を行い、課題の提出をする。 内容を理解して臨む。 事後：講義後の事後課題を提出する。				講義	牛島	
29・30	医療支援技術のまとめ （選択演習）			事前：演習に関する事前課題を行い、課題の提出をする。 演習の技術を再確認して臨む。 事後：演習後の事後課題を提出する。				講義 演習	牛島 他	

教本： 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ：医学書院	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 演習参加状況、技術試験、小テスト、事前・事後課題等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。 なお、課題の提出は期限厳守であり、提出が遅れた場合には減点の対象となる。	
学生へのアドバイス： ①講義や演習に向けて事前課題を提示するため、事前課題を行っていることが演習実施の前提とします。 ②基本的に毎回小テストを実施するため、事前学習、事後学習を実施し、安全・安楽な技術、実践上の注意を修得してください。 ③対象者の体験をすることで援助の必要性を理解します。演習では怪我等の危険が伴うため、注意力が欠如せぬように体調を整え、真剣・慎重に実施してください。 ④授業・演習資料はインデックスを付けてファイリングし整理をしてください。最終回に確認をします。	

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	基礎看護ケア実践Ⅱ（生活の援助）（Basic Nursing PracticumⅡ）					ナンバリング	N-NP13	科目分類	専門分野
担 当 教 員	藤井智恵子・富田幸江・牛島典子・奈良かな子・勅使河原俊子・西 法子 他								
履 修 条 件	前提科目	基礎看護ケア実践Ⅰの単位取得済 医療支援技術の受験資格有							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。							
授業概要： 看護の対象である患者に対して、既習の知識、技術、態度を実際に適用し実践することを通して、看護学について基本的に理解することを目的とする。 特に対象理解に着目し、患者とのコミュニケーションおよび日常生活援助技術の一部を指導下において提供し、入院生活や病気がその人にどのような生活上の変化をもたらしているのか、またそれによって生じた基本的ニーズの未充足に対してケアすることによって、対象の生活行動が全人的に拡大していく過程について理解する。また、専門的援助過程、問題解決思考過程、看護技術の成立過程、チームとの連携についても考察し、学修を深める。この実習を通して個々の倫理的課題を明確にする。									
授業目標： 1．入院患者の生活環境を知り、入院生活や病気がその人に、どのような生活上の変化をもたらしているかについて全人的に理解する。 s．対象に行われている「日常生活の援助」が、看護過程に基づいて実施されていることを説明でき、対象に沿った看護過程が展開できる。 3．看護の専門性の一つである日常生活の援助により、患者の自然治癒力が促進されることの意味を理解できる。 4．対象に関わるヘルスケアチームと看護チームの連携のあり方を説明することができる。 5．看護を学ぶものとして倫理的配慮のもとに、対象と関わるができる									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			担 当
10日間	各自の実習指導者について実習を行う。 日程及び実習の展開は「基礎看護ケア実践Ⅱの要領」を参照すること（後日配布）。 第1日目～第2日目：学内にて実習オリエンテーションと自己学習 第3日目～第4日目：受け持ち患者に対して情報収集とアセスメント、看護ケアの実施 第5日目：学内にて看護過程の展開と看護計画の立案 第6日目～第9日目：看護過程に基づいた受持ち患者への看護計画の実践、最終日に最終カンファレンスを行い、実習の学びを発表する。 第10日目：学内にてまとめと報告会、最終個人面接を行う。					「基礎看護ケア実践Ⅱの要領」参照 看護方法論演習、フィジカルアセスメント演習、日常生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱの復習			藤井 他
教本： 看護学原論、生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、看護方法論演習、フィジカルアセスメント演習、医療支援技術で使用したテキスト						参考文献： 随時提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 実習態度、記録物等、別途定める実習評価基準に準ずる。 ●実習の前提として実習オリエンテーションへの出席も含むので、必ず出席すること。									
学生へのアドバイス： これまでの基礎看護学で学習した内容を基に実習を行いますので、実習前に復習をしておくこと。特に技術は繰り返し練習を行うこと。 体調を整えて実習に臨むこと。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護と倫理 (Ethics of Nursing Practice)					ナンバリング	N-BN33	科目分類	専門分野
担 当 教 員	大橋優美子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 今日、医療がますます高度化、専門化している現場で、科学的な医学知識と技術を疾病治療に応用する中、治療、回復過程自体に心身の苦痛を伴うことが余儀なくされていることがある。そうした場合、患者が求めるケアとの間に倫理的問題意識が発生する。現代医療倫理の歴史と背景、患者の権利と責務、インフォームド・コンセント、専門職業人としての看護師の倫理観、価値観、責任のあり方、ケアの倫理及び事例等をもとに学習する。									
授業目標： 1. 倫理思想の要点を説明できる。 2. 生命倫理の諸問題を看護師の立場で適切に理解し、説明できるようにする。 3. 人間に対する理解を深め、自分の考えを話すことができる。 4. すでに学んだ主要な看護関係法規の知識を把握した上で、看護師の職務を法的な側面から説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	1. なぜ倫理を学ぶのか 2. 他者理解と対話のための理論 ・ナラティブとは、医療現場でのナラティブ 3. 生命倫理とは何か。				事前：ナラティブ、倫理的判断の基準等について理解して講義に臨む。 事後：課題の復讐		講義	大橋	
2	1. 生命倫理の理論 2. 生命倫理と看護職の責務（インフォームド・コンセント、守秘義務と個人情報保護）				事前：生命倫理の概念について理解して講義に臨む 事後：課題復習する		講義	大橋	
3	1. 性と生殖の生命倫理 2. 死の生命倫理（死と医療、死についての生命倫理課題） 3. 先端医療と制度の生命倫理				事前：各倫理についてテキストを読み、講義に臨む。 事後：専門職としての看護倫を復習する		講義	大橋	
4	1. 看護倫理 1）看護倫理の原則、2）看護実践上の倫理概念、 3）看護実践と倫理 2. 専門職の倫理 ①社会から見た看護、②専門職に求められる倫理、 ③専門職の倫理綱領、④看護業務基準と倫理実践、 ⑤保健師助産師看護師法と倫理				事前：ICN・保助看法をテキストで読み、講義に臨む。 事後：自己の専門職としての看護倫理を説明できるように復習する		講義	大橋	
5	1. 倫理問題へのアプローチ ①看護実践における倫理問題の特徴、 ②倫理問題へのアプローチ法 2. 看護研究の倫理				事前：倫理問題のアプローチ方法を理解し、講義に臨む。 事後：復習する		講義	大橋	
6	事例分析 ケース 1				事前：事例を読み検討項目を自分なりにしぼり授業に参加 授業後：課題レポート		グループ討議演習	大橋	
7	事例分析 ケース 2				事前：事例を読み検討項目を自分なりにしぼり授業に参加 授業後：課題レポート		グループ討議演習	大橋	
8	事例分析 ケース 3				事前：事例を読み検討項目を自分なりにしぼり授業に参加 授業後：課題レポート		グループ討議演習	大橋	
教本： 1. 系統看護学講座「看護倫理」宮坂道夫 医学書院 2022年版					参考文献： 1. 「看護倫理 1・2・3」坂川雅子訳 いすず書房 2. 「ケアの倫理」ナース・サブリ編集委員会編 メディカ出版 3. 「看護倫理学」松本光子編集 スーパーヒロカワ その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、課題レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 倫理に関する諸問題の多くは、明解な答えができることはほとんど期待できず、極めて厄介なものですが、看護職者になる人にはぜひ、関心を持ち学んでほしいものです。医療が人々の生命・健康に直接関わるものだけに、医療職にかかわる法制度は複雑で多岐にわたり、看護師の職務遂行においても多くの問題に直面します。それゆえに法の制定されている趣旨を学ぶことにより理解を深めることができます。講義に参加し自らの今後の倫理的糧にしてください。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	リプロダクティブ・ヘルス援助論 (Reproductive health Nursing theory)					ナンバリング	N-DN13	科目分類	専門分野
担 当 教 員	和田佳子・増山利華								
履 修 条 件	前提科目	身体の構造と機能 A・B の科目を修得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 生殖及び周産期の援助の基本となるリプロダクティブヘルス・ライツの概念と共に生殖にかかわる生理機能や性・生殖に関係する心理・社会的な基礎知識を学修する。また、発達段階で起こりやすい生殖にかかわる健康問題を理解し健康的な生活への支援の基礎を学修する。									
授業目標： 1. 性及び生殖、母性（父性）にまつわる概念・理論が説明できる。 2. 女性（男性）の身体的構造と機能を身体的側面から説明できる。 3. 性の心理・社会的側面、心理的性の発達について説明できる。 4. 母子保健に関わる法律・制度・事業についての意義を理解し、社会保障や制度について説明できる。 5. 女性のライフステージ各期における特徴と課題が説明できる。 6. 性及び生殖に関わる看護における倫理について考えを述べられる。 7. 母性看護の看護展開方法が説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1・2	オリエンテーション 母性看護の基盤になる概念と理論 母子相互作用／愛着 リプロダクティブヘルス・ライツ／エンパワーメント／ヘルスプロモーション／等					事後：授業で示した概念と理論の理解		講義	和田
3	性及び生殖器の発達の身体的側面Ⅰ ・女性の生殖器系 ・男性の生殖器系					事前：生殖器の解剖生理復習 事後：生殖器の機能の理解		講義	和田
4	性及び生殖器の発達の身体的側面Ⅱ 月経のメカニズムと妊娠の成立					事前：生殖器の機能の理解 事後：性機能とホルモン復習		講義	和田
5	性の心理社会的側面、心理的性の発達 親子関係／性意識と性行動／第二性徴／アイデンティティの確立／性の多様性					事前：心理系基礎分野熟読 事後：授業で示した内容の復習		講義	和田
6	ライフステージ各期における性及び生殖器に関わる特徴と課題Ⅰ／胎児期・新生児期～思春期					事前：人の成長発達の復習 事後：ホルモンと成長発達		講義	和田
7	ライフステージ各期における性及び生殖器に関わる特徴と課題Ⅱ／・成人期					事前：人の成長発達の復習 事後：発達課題について		講義	和田
8	ライフステージ各期における性及び生殖器に関わる特徴と課題Ⅲ／・更年期					事前：人の成長発達の復習 事後：発達課題について		講義	和田
9	ライフステージ各期における性及び生殖器に関わる特徴と課題Ⅳ／・更年期～老年期					事前：人の成長発達の復習 事後：発達課題について		講義	和田
10	性及び生殖にかかわる社会保障Ⅰ ・社会の動向と母子保健：母子保健統計					事後：母子保健統計について		講義	和田
11	性及び生殖にかかわる社会保障Ⅱ ・法律・制度・事業					事後：母子保健の法律・事業の理解		講義	和田
12	性及び生殖器の発達の身体的側面Ⅲ-1 妊娠経過と妊娠中に起こりやすい異常					事前：性機能とホルモン予習 事後：妊娠中に起こりやすい異常復習		講義	和田
13	周産期看護（ウェルネス）の看護過程					事前：看護過程の基本復習 事後：演習課題		講義	和田
14	ウェルネスの看護過程演習					事前：演習課題 事後：演習課題		講義	和田
15	ウェルネスの看護過程演習 看護記録の書き方 まとめ					事前：演習課題 事後：演習課題		講義	和田
教本： 1. 森恵美、他編：系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学概論＜1＞、医学書院、2020。 2. 日本助産診断・実践研究会：マタニティ診断ガイドブック 第6版									
参考文献： 1. 大田操：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 その他は随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 基本的なことを覚えることは勿論ですが、授業のテーマを概念化することが大切です。自分の感じていること、考えていること言葉にできるようにしていきましょう。									

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	老年期の発達援助演習 (Gerontological Nursing Care: Assessment & Skills)					ナンバリング	N-DN53	科目分類	専門分野
担 当 教 員	小林由起子・浅霧博美・深田雅美・草地潤子								
履 修 条 件	前提科目	健康障害 A・健康障害 B、生活援助技術演習Ⅰ、生活援助技術演習Ⅱ、老年発達援助論、基礎看護ケア実践Ⅰの科目を履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 高齢者の健康障害に伴う生活機能のアセスメントとケアの技法を学習し、根拠に基づいた看護実践上の問題解決能力を習得する。 既習の知識と技術を、実際の高齢者ケアの具体的な場面で個別性にに応じて活用できるように、高齢者に対するコミュニケーションの技法（認知症高齢者、非言語的方法）、健康障害に伴うアセスメント技法（嚥下障害、低栄養・脱水、褥瘡、転倒・骨折、感染症など）、根拠に基づいた問題解決技法などについて学び、演習を通して、安全・安楽な柔軟性のあるケアの習得ができるようにする。									
授業目標： 1. 高齢者の特性に応じたコミュニケーションの技法を用いて、健康の課題についてアセスメントできる。 2. 高齢者の健康障害に伴う生活機能の変化をアセスメントし、ケアの技法が行える。 3. 高齢者とその家族への実践とケアの技法から問題解決能力を習得する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当
1・2	科目ガイダンス 評価基準説明 老年看護学におけるヘルスアセスメント CGA、FIM、フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア 高齢者の生活機能を整える看護 1）生活リズムを整える看護				事前：シラバスの内容を確認する 事後：テキスト 高齢者のヘルスアセスメント、高齢者の生活機能を整える看護「生活リズム」を熟読する			講義 演習	草地
3・4	高齢者の生活機能を整える看護 1）基本動作と環境のアセスメント 2）転倒のアセスメントと看護 3）廃用症候群のアセスメントと看護 4）高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 5）コミュニケーション障害を持つ高齢者の看護				事前：テキスト 高齢者の生活機能を整える看護「日常生活を支える基本的活動」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する			講義 演習	小林
5・6	検査・治療を受ける高齢者への看護 1）検査を受ける高齢者の看護 2）薬物療法を受ける高齢者の看護 3）手術を受ける高齢者の看護 4）リハビリテーションを受ける高齢者の看護				事前：テキスト「検査・治療を受ける高齢者への看護」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する			講義 演習	小林
7・8	高齢者の生活機能を整える看護 1）高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 2）清潔のアセスメント 3）清潔の援助 生活・療養の場における看護 1）介護保険施設における看護 2）地域密着型サービスにおける看護				事前：テキスト 高齢者の生活機能を整える看護「清潔」「生活・療養の場における看護」「保健医療福祉施設および居住施設における看護」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する			講義 演習	小林
9・10	認知機能障害のある高齢者の看護 1）認知症の看護の原則 2）認知症高齢者とのコミュニケーション 3）認知症高齢者の環境調整 4）認知症高齢者と家族へのサポート				事前：テキスト 認知機能障害のある高齢者の看護「認知症」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する			講義 演習	浅霧
11・12	高齢者の生活機能を整える看護 1）高齢者における食生活の意義 2）高齢者に特徴的な食生活の変調 3）食生活のアセスメント 4）食生活の支援				事前：テキスト 高齢者の生活機能を整える看護「食事・食生活」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する			講義 演習	浅霧
13・14	咀嚼・嚥下障害がある高齢者へのケア実践				事前：咀嚼・嚥下障害がある高齢者へのケアの事前課題を学習する 事後：咀嚼・嚥下障害がある高齢者へのケアについて演習課題を記載し学修する			演習	浅霧 他
15・16	高齢者の生活機能を整える看護 1）高齢者の排泄ケアの基本 2）高齢者の排尿障害のアセスメントとケア 3）高齢者の排便障害のアセスメントとケア				事前：テキスト 高齢者の生活機能を整える看護「排泄」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する			講義 演習	浅霧
17・18	老年期患者の看護過程の展開 アセスメント				事前：テキスト 看護過程の展開を熟読する 事後：事例に基づきアセスメントの課題を学習する			講義 演習	小林 他

19・20	健康逸脱からの回復を促す看護 1) 褥瘡のなりたちと臨床的特徴 2) 褥瘡の予防と看護 3) スキンｰケアのなりたちと臨床的特徴 4) スキンｰケアの予防と看護 5) 脱水のなりたちと臨床的特徴 6) 脱水の予防と看護	事前：テキスト 健康逸脱からの回復を促す看護「褥瘡・スキンｰケア」「脱水」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する	講義 演習	浅霧
21・22	排泄障害がある高齢者へのケア実践 皮膚障害がある高齢者へのケア実践	事前：排泄障害がある高齢者へのケア、皮膚障害がある高齢者へのケアの事前課題を学習する 事後：排泄障害がある高齢者へのケア、皮膚障害がある高齢者へのケアについて演習課題を記載し学修する	演習	浅霧 他
23・24	老年期患者の看護過程の展開 全体像	事前：事例に基づき全体像の課題を学習する 事後：講義内容を講義資料にて学修する	講義 演習	小林 他
25・26	高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療安全 2) 高齢者と救命救急 3) 高齢者と災害看護	事前：テキスト 高齢者のリスクマネジメントを熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する	講義 演習	草地
27・28	老年期患者の看護過程の展開 看護問題・優先順位、看護計画	事前：事例に基づき看護問題・優先順位、看護計画の課題を学習する 事後：講義内容を講義資料にて学修する	講義 演習	小林 他
29・30	老年期患者の看護過程の展開 看護計画 発表 まとめ	事前：事例に基づき看護計画の課題を学習する 事後：講義・演習内容を講義資料にて学修する	講義 演習	小林 他
教本： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 参考文献： 根拠と事故防止からみた老年看護技術 医学書院				
成績評価の方法、評価基準： 課題提出状況（10%）、老年看護過程（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。				
学生へのアドバイス： 老年発達援助演習では、さまざまな知識を統合し更に演習を通して学習します。ここでの学習は健康段階の高齢者看護に役立ちます。こつこつとnoteを整理し、2年生、3年生、4年生の実習にむけて備えましょう。				
2020、2021年度入学者科目名称		老年発達援助演習		

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	家族看護学 (Family Health Nursing)					ナンバリング	N-CN23	科目分類	専門分野
担 当 教 員	望月麻衣・大脇淳子・増山利華・渡部月子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 看護の対象として、地域で生活している家族を1つの単位として捉え、家族がセルフケア能力を高めることの重要性を理解し、援助方法を学ぶ。そして、家族自らが健康問題を解決し、より健康な生活を実践できるよう、事例を通して家族の役割・看護の役割を学修する。									
授業目標： 1. 家族の対象としての特徴を理解する。 2. 家族看護理解のための諸理論がわかる。 3. 家族看護における看護者の役割を学ぶ 4. 在宅療養者と家族の事例を通して、家族看護の実際を理解する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当
1	家族の対象としての特徴① 家族の概念 日本の家族の動向 家族の構造と機能				事前：シラバス内容を確認する 事後：家族の構造と機能を復習			講義	望月麻衣
2	家族の対象としての特徴② 定位家族から生殖家族の発達・機能				事前：母性看護学概論「家族」を熟読する 事後：授業内容の復習			講義	増山利華
3	家族の対象としての特徴③ 小児期の家族の機能				事前：「家族の特徴とアセスメント」を熟読する 事後：授業の復習			講義	大脇淳子
4	家族を看護するための基本姿勢				事前：「家族看護の基本姿勢」を熟読する 事後：看護者の役割の復習			講義	望月麻衣
5	家族看護理解のための諸理論 家族発達理論 家族システム理論 家族ストレス対処理論 等				事前：「家族看護学の理論」を熟読する 事後：家族看護学の理論の復習			講義	渡部月子
6	家族の全体像の把握 ジェノグラム・エコマップ				事前：自分の家族のジェノグラムを書く 事後：自分の家族のジェノグラムを修正する			講義	望月麻衣
7	家族看護における看護者の役割① 家族の情報整理				事前：面接場面の準備 事後：面接場面を振り返る			講義	渡部月子 望月麻衣
8	家族間後における看護者の役割② ー在宅療養者と家族の事例を通してー				事前：既習内容を確認する 事後：事例を振り返る			講義	渡部月子 望月麻衣
教本： 1 森恵美他編 母性看護学概論＜1＞、医学書院 2 丸光恵著、奈良間美保編、小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 3 はじめてみよう！家族看護 中山美由紀編著 大阪公立大学共同出版会									
参考文献： 随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（GW含む）等（10%）、レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 家族とは何か 少子高齢化や夫婦共働きや核家族に伴い、家族の存在は大きな変容を迎えました。在宅療養を継続している家族に、私たち看護者は何ができるのか、何をしなければいけないのか、一緒に考えていきましょう。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	在宅看護援助論 (Introduction to Home Care Nursing)					ナンバリング	N-CN23	科目分類	専門分野
担 当 教 員	渡部 月子								
履 修 条 件	前提科目	看護学原論を履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 在宅看護における対象と概念、訪問看護制度とその法的な枠組みや、訪問看護サービスの仕組みと訪問看護師の役割について学ぶ。地域で生活する在宅療養者とその家族の健康課題や、行われる支援について理解する。また地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置づけ、療養の場の移行に伴う継続看護の必要性、および地域包括ケアとして実践される多職種連携やケアマネジメントについて学ぶ。									
授業目標： 1. 在宅看護の理念・目的や特徴を学び、在宅看護の概要を把握できる。 2. 在宅看護が発展してきた必然性や社会的背景を知ることができる。 3. 社会から求められる在宅看護に関わる看護職の役割を理解できる。 4. 在宅看護における環境や生活の重要性を考えることができる。 5. 地域包括ケアシステムの中の在宅看護の位置づけと働きを理解できる。 6. 多職種との連携・協働や継続看護の必要性について知り、地域で活躍する看護職としての資質を養うことができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）		事前・事後学習（学習課題）				授業形態	担 当	
1	ガイダンス 在宅看護の概念、歴史と変遷 在宅看護の目的と特徴		事前：シラバスの確認、在宅看護に関する身近な事例を考える。テキストを読み予習してから授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
2	在宅看護をめぐる社会文化的背景		事前：日本社会の現状について自分なりの考えをまとめ授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
3	在宅看護の対象としての療養者・家族 権利・安全の保証		事前：テキストの訪問看護の対象に関する項目を読み在宅における家族看護のイメージをもって授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
4	在宅看護の法的基盤とシステム 介護保険制度・医療保険制度		事前：テキストの介護保険制度、医療保険制度に関する事項を読み予習してから授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
5	訪問看護制度の法的枠組み 訪問看護制度の理解		事前：テキストの訪問看護の制度に関する項目を読み予習してから授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
6	訪問看護ステーションの運営		事前：テキストの訪問看護の制度に関する事項を読み予習してから授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
7	在宅看護と他職種の連携		事前：テキストの関係職種の連携に関する事項を読み予習してから授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
8	在宅看護における連携 退院支援		事前：今までの実習で得た医療施設での看護と在宅での看護をつなぐイメージをもち授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
9	在宅医療		事前：今までの実習で得た医療施設での看護と在宅での看護をつなぐイメージをもち授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	外部講師 渡部月子	
10	地域包括ケアシステムにおける連携		事前：テキストの地域包括ケアシステムに関する事項を読み予習してから授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
11	訪問看護師の役割と活動①		事前：今まで学んできた中から訪問看護師の活動の実際について各自のイメージを持ち授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
12	訪問看護師の役割と活動②		事前：今まで学んできた中から訪問看護師の活動の実際について各自のイメージを持ち授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	外部講師 渡部月子	
13	社会資源と福祉用具の活用		事前：テキストの社会資源に関する事項を読み予習してから授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
14	在宅看護における看護過程		事前：地域など多様な場で生活する人の生活史をアセスメントする意義について考えてから授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
15	在宅看護における倫理的課題		事前：テキストの在宅看護における倫理に関する事項を読み予習してから授業に臨む。 事後：配布資料精読				講義	渡部月子	
教本： 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 参考文献： 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 その他は随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 在宅看護について学び、人々の地域における療養生活を深く理解することは、将来どのような看護の現場に就職しても必ず役に立つと考えています。本科目は、現代社会に求められている在宅看護の全体像を知り、看護職としてのひとつの基盤を構築するためのものです。積極的に参加することを期待します。									

開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	感情と行動 (Emotion and Human Behavior)					ナンバリング	N-PS34	科 目 分 類	基 礎 分 野
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 医療・福祉・教育といった対人援助の領域では、サービスの対象者の心のケアが重要である。この講義では、人間の心と感情を理解するために、思考・感情・行動に関する心理学的基礎を学ぶとともに、サービス業の感情労働についても触れ、他者理解と自己理解を深め、人々とよりよいコミュニケーションを築くための考え方と方法について学習する。									
授業目標： 1. 感情について理解を深める。 2. 感情と行動の関係を理解することにより、対人援助職で起こりうる課題に適応できる能力を身につける。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授 業 形 態		担 当
1	内的感情を示す様々なことば				事前：シラバスの確認 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
2	感情の生理学的基礎				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
3	感情概念と認知モデルの構造				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
4	認知的感情理論				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
5	感情の測定尺度				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
6	感情と記憶				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
7	感情経験の源と対人行動				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
8	ポジティブな感情と社会的行動				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
9	感情表出とコミュニケーション				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
10	共感と援助行動				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
11	感情の制御、開示と適応				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
12	パーソナリティ特性と個人差				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
13	感情労働の概念				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
14	感情労働による課題－ケーススタディから学べる				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講 義		菅 沼 憲 治
15	まとめ				事前：指定資料の予習 事後：なし		講 義		菅 沼 憲 治
教本： 1. セルフ・アサーション・トレーニング（増補改訂）東京図書									
参考文献： 1. 感情と行動・認知・生理－感情の社会心理学（対人行動学研究シリーズ）土田昭司、竹村和久（編著）誠信書房 2. 感情心理学・入門（有斐閣アルマ）大平英樹（編著）有斐閣アルマ 3. 感情と心理学－発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開 高橋雅延、谷口高士 北大路書房 4. 管理される心－感情が商品になるとき A.R.ホックシールド（著）、石川准、室伏亜希 世界思想社 その他は随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（50％）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 心の理解と共有（1年次必修）を復習した上で履修することをすすめる。事前に指定資料を予習し、講義を受けることを前提としている。									

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための教育学（Pedagogy for Nursing）					ナンバリング	N-ED14	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	大沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「人生をいかに生きるべきか」を考え、主張し、行動することは、グローバル化の進展しつつある今日、ますます重要になっている。この講義では、以上のことを念頭に置きながら、看護と教育の関係、教育の意義、思想、内容、方法、制度等について、看護師として必要な教育学の基礎的、基本的な概念等を学習する。									
授業目標： 教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史的変遷について学び、教育の基礎的理論を理解する。教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	看護と教育				事前：教育記事を読む 事後：ノートを読み返す		講義90分	大沢 裕	
2	家庭教育（家族の教育）				事前：家庭教育を調べる 事後：ノートを読み返す		講義90分	大沢 裕	
3	学校教育				事前：学校の特徴を調べる 事後：ノートを読み返す		VTR視聴45分・ グループ討論45分	大沢 裕	
4	諸外国の教育思想と歴史				事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義90分	大沢 裕	
5	教師論－看護師との比較				事前：教師に関する記事調べる 事後：ノートを読み返す		講義90分	大沢 裕	
6	教育における遺伝（素質）と環境の問題				事前：遺伝について調べる 事後：ノートを読み返す		講義90分	大沢 裕	
7	現代の教育問題－虐待、いじめ、体罰等				事前：虐待等の記事を探す 事後：ノートを読み返す		講義90分	大沢 裕	
8	生涯学習と今後の教育課題（AI時代と教育）				事前：生涯と学びを考える 事後：全授業を振り返る		講義90分	大沢 裕	
教本： 『教育の知恵60』（大沢裕編著、一藝社）					参考文献： 適宜、授業時に掲示する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの見方・考え方が身についているかを、複数回提出させるレポートの内容によって総合的に評価する。評価の配分基準：（各授業時の小レポート内容40％）、（期末のレポート内容（60％））									
学生へのアドバイス： 絶えず教育の時事的問題に関心を持ち、新聞記事を読んだり、インターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。									
2020、2021年度入学者科目名称			教育学						

開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義	
授 業 科 目 (英 文)	看護関係法令 (Nursing Legislation and Regulation)						ナンバリング	N-LA64	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	望月 麻衣									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	なし								
授業概要： 保健師助産師看護師法の成立過程とその変遷について詳しく概説することにより、法における職業の権限と役割、責務について看護の視点から考察する。 また、看護関係法規は医師法、薬剤師法、医療法などとともに医療における社会システムとして機能している。その仕組みを知ることにより、看護に課せられた社会的役割について考え、他の専門職との協働について考える機会とする。										
授業目標： 1. 法の概念と衛生法の概念について学び、その重要性を説明できる。 2. 医事法として、「看護の基盤となる法」、「医療的提供体制の基本となる法」、「医療関係資格と保健福祉資格法」について理解できる。 3. 薬務法について理解できる。 4. 母子、障害者、高齢者に関する保健衛生法、社会保険法、福祉法が理解できる。 5. 労働法について理解できる。										
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当	
1	法の概念・衛生法の概念 (法の概念、衛生法)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月	
2	【医事法①】 看護職の基盤となる法 (保健師助産師看護師法、看護師の人材確保に関する法律など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月	
3	【医事法②】 医療提供体制の基本となる法 (医療法・臓器の移植に関する法律など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月	
4	【医事法③】 医療関係資格法と保健福祉資格法 (医師法、薬剤師法など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月	
5	【薬務法】 薬剤に関する法 (医薬品医療機器等法など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月	
6	【保健衛生法・福祉法】 母子・障害者に関する法律 (母子保健法・障害者総合支援法など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月	
7	【保健衛生法・社会保険法・福祉法】 高齢者に関する法律 (介護保険法、老人福祉法など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月	
8	【労働法】 看護師を取り巻く労働に関する法 (労働基準法など)					事前：該当講義部分の教本を精読 事後：配付資料を精読し、まとめ		講義	望月	
教本： 1. 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令、医学書院						参考文献： 1. 「看護六法」 2. 「国民衛生の動向」 その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (10%)、小テスト (10%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目 (小テスト等) についてもすべて評価しない。										
学生へのアドバイス： 看護関係法規は理解が困難な科目であるが、看護師の業務にとっては非常に重要なものであるため、指定した教科書の内容は必ず事前に読んでおいてください。そして、医療・看護にかかわるニュースやトピックスについて、日頃から気にしてみてください。										
2020、2021年度入学者科目名称			看護関係法規							

開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	世界の医療保健制度 (Comparative Health Systems: A Global Perspective)					ナンバリング	N-LA64	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	松 浦 広 明								
履 修 条 件	前提科目	医 療 と 経 済							
	そ の 他	な し							
授業概要： 我が国における保健医療福祉制度の概念、理念について学習し、我が国と海外との保健福祉の概念、歴史、理念及び現状を踏まえて、その制度について比較し、人々の健康生活を保障するための保健福祉に関する法的根拠と実践システムについて理解をする。海外の状況を具体的に教授し、今後、我が国のよりよい実践システム構想についての施策を考える学習をする。									
授業目標： 1. 諸外国の医療福祉制度の事情とその違いについて学習する。 2. 自身で、各国の医療制度を調査・分析し、それを文章として書き、他者に対してプレゼンし、それをもとに議論する能力を身に付ける。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	担 当	
1	医療制度評価の基礎・OECD Health Statistics				事前：医療経済の授業の復習 事後：OECD(2020)を使ったエクセサイズ		講 義	松 浦	
2	アメリカの医療制度				事前：分担当所について調べてくる事 事後：なし		講 義	松 浦	
3	イギリスの医療制度						講 義	松 浦	
4	旧ソビエト連邦諸国の医療制度（ロシアの例を中心に）						講 義	松 浦	
5	フランスの医療制度						講 義	松 浦	
6	ドイツの医療制度						講 義	松 浦	
7	メディカルツーリズム				事前：プレゼンテーションの準備 事後：フィードバックを受けて反映させる事		演 習	松 浦	
8	まとめ／学生のプレゼンテーション						演 習	松 浦	
教本： なし			参考文献： 1. OECD (2017) 図表でみる世界の保健医療 OECDインディケーター (2015年版) 2. マーク・ロバーツ, ウィリアム・シャオ, ピーター・バーマン, マイケル・ライシュ (2010) 「実践ガイド 医療改革をどう実現すべきか」日本経済新聞出版社 3. WHO (2000) The World Health Report 2000 – health systems: improving performance, Geneva: World Health Organization 明石書店 4. Cohen, G (2014) “Patients with Passports: Medical tourism, Law and Ethics” Oxford University Press その他は随時提示する。						
成績評価の方法、評価基準： 授業における貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： この授業では、様々な国の医療制度について学んでいきます。シラバスでは、アメリカ、イギリス、旧ソ連圏の国々、フランス、ドイツの医療制度となっていますが、履修者の要望に応じて、それ以外の国の医療制度を対象にするよう変更する事もできます。初回の授業時にご相談ください。									

開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	公 衆 衛 生（Introduction to Public Health）					ナンバリング	N-MS64	科 目 分 類	専 門 基 礎 分 野
担 当 教 員	渡 部 月 子 ・ 望 月 麻 衣								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要： 臨床では、目の前にいる患者をいかに治療すべきかを考えるが、より多くの人々を健康にするためには、一人ひとりの患者の治療だけでなく、まだ、健康な人達をもサポートする包括的な保健医療システムが必要になる。本講義では、集団（人口）レベルでの健康の増進と疾病予防のために必要な社会的、経済的、環境的要因について学修する。									
授 業 目 標： 1. 公衆衛生の概念を理解する。 2. 公衆衛生の場での疫学について説明できる。 3 集団（人口）レベルの健康の増進と疾病予防について説明できる。 4. 日本国内だけでなく、地球規模の保健医療政策について説明できる。									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	担 当
1	公衆衛生の概念（公衆衛生を知る I） 公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史					事前：シラバスの内容理解 事後：公衆衛生の概念と歴史の復習		講義	渡部
2	公衆衛生の概念（公衆衛生を知る II） 公衆衛生の活動対象、公衆衛生のしくみ					事前：テキスト「公衆衛生の活動対象」を熟読 事後：公衆衛生の仕組みの復習		講義	渡部
3	疫学 疫学の概念、疫学で用いる健康指標					事前：テキスト「疫学・保健統計」を熟読 事後：健康指標について復習		講義	渡部
4	疾病予防と疫学 公衆衛生の場での疫学－集団を捉える、原因を分析する					事前：テキスト「疫学・保健統計」を熟読 事後：疾病予防と疫学について復習		講義	渡部
5	感染予防 感染症とその予防、わが国の感染症予防対策、院内感染と予防					事前：テキスト「感染症とその予防対策」を熟読 事後：感染予防について復習		講義	渡部
6	母子保健 母子保健の水準、母子保健の課題、母子保健活動と行政					事前：テキスト「母子保健」を熟読 事後：母子保健について復習		講義	望月
7	成人保健 健康増進法、健康日本21					事前：テキスト「成人保健」を熟読 事後：成人保健について復習		講義	渡部
8	高齢者保健 高齢化の現状と対策、高齢者保健に関する法制度と施策					事前：テキスト「高齢者保健」を熟読 事後：高齢者保健について復習		講義	渡部
9	精神保健 精神保健の現状と対策、精神保健の活動理念					事前：テキスト「精神保健」を熟読 事後：精神保健について復習		講義	望月
10	歯科保健、障害者・難病保健 歯科保健、障害者・難病保健の現状と対策					事前：テキスト「歯科保健」「障害者・難病保健」を熟読 事後：歯科保健、障害者・難病対策について復習		講義	渡部
11	生活環境 食品安全行政・生活衛生行政					事前：テキスト「環境と健康」を熟読 事後：食品安全行政・生活衛生行政について復習		講義	渡部
12	学校保健 学校における健康					事前：テキスト「学校と健康」を熟読 事後：学校保健について復習		講義	望月
13	産業保健 職場における健康					事前：テキスト「職場と健康」を熟読 事後：産業保健について復習		講義	望月
14	健康危機管理 健康危機管理の体制と実際					事前：テキスト「健康危機管理」を熟読 事後：健康危機管理について復習		講義	渡部
15	国際保健医療 経済格差と健康格差、開発途上国の健康問題とその対策					事前：経済格差と健康格差について予習 事後：国際保健医療について復習		講義	望月
教 本： 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院 参 考 文 献： 国民衛生の動向 2023/2024 厚生労働統計協会									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授業参加状況等（10%）、定期試験（90%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： この授業を通して公衆衛生の大切さを学んでください。参考図書をたくさん読んで、積極的に授業内容を理解するように努めてください。									

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	小児発達援助論 (Introduction to Pediatric Nursing)					ナンバリング	N-DN24	科目分類	専門分野
担 当 教 員	大脇淳子・大門明美・吉田裕子								
履 修 条 件	前提科目	ライフステージと発達看護論、看護学原論、健康障害 C							
	そ の 他	なし							
授業概要： これからの社会を担う子どもたちが人格あるひとりの人間として尊重される、子どもの権利擁護を基盤に、ライフサイクルにおける小児期の重要性を理解した上で子ども固有の成長・発達の論理とともに、成育看護の観点から子どもの最善の利益を護るための小児看護の理念、倫理と役割、小児医療・保健・福祉・教育との連携や協働、子どもを取り巻く環境の重要性について講義する。									
授業目標： 1. 小児看護の対象と理念、子どもの誕生、小児医療・看護の変遷、小児を取り巻く社会（小児保健・医療の動向、法律と政策）を説明する。 2. 子どもの権利擁護と小児看護の倫理に基づく看護を説明する。 3. 小児固有の成長・発達の論理を基に、乳児～思春期の成長・発達の特徴と生活行動の自立を支援する看護を説明する。 4. 小児期の健康を保持・増進するための小児各期のヘルスプロモーションを説明する。 5. 配慮が必要な子どもと家族の理解と保健・福祉・教育との連携と協働における看護の役割を考える。 6. 子どもの健やかな成長・発達を支援する成育医療・成育看護の未来を展望する。 7. 子どもの健やかな成長・発達を護るために子どもと家族を取り巻く社会環境のあり方に関心をもつ。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当
1	ガイダンス 小児看護の対象と社会 子どもの誕生、小児保健・医療と小児看護の変遷と現状				事前：なし 事後：講義内容の復習			講義	大脇
2	子どもの権利擁護と小児看護における倫理 (レポート課題の提示)				事前：小児看護における倫理を一読 事後：子どもの権利について復習する			講義	大脇
3	小児固有の成長・発達の論理(1) 子どもの成長・発達の概念と成長・発育の評価				事前：子どもの成長・発達を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脇
4	小児固有の成長・発達の論理(2) 子どもの成長・発達の理論（アタッチメント理論、心理・社会的発達の理論、認知的発達理論）				事前：母子関係・自我同一性・認知的発達の理論を調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇
5	※家族に子どもが誕生する事例を通して、乳児期～思春期の看護を学ぶ 乳幼児期における成長・発達と発育促進の看護(1)				事前：乳児・幼児期の成長の特徴と養育及び看護を一読 事後：事例（乳児）の課題に取り組む			講義	大脇
6	乳幼児期における成長・発達と発育促進の看護(2)				事前：乳児・幼児期の発達の特徴と養育及び看護を一読 事後：課題 1：乳児期の成長・発達の特徴			講義	大脇
7	乳幼児期における成長・発達の発育促進と看護(3)				事前：乳児・幼児期の発達の特徴と養育及び看護を一読 事後：課題 2：幼児期の成長・発達の特徴			講義	大脇
8	子どもと家族のヘルスプロモーション(1) 小児の予防接種と健康教育				事前：予防接種と学校保健を一読 事後：講義内容の復習			講義	大門
9	子どもと家族のヘルスプロモーション(2) 小児期の事故の特徴と予防、安全教育				事前：子どもの事故防止、事故・外傷と看護（※ 1） 事後：講義内容の復習			講義	吉田
10	学童期～思春期の成長・発達とヘルスプロモーション				事前：学童～思春期の成長・発達と養育及び看護を一読 事後：課題 3：学童～思春期の特徴（自主）			講義	大脇
11	子どもをめぐる法律と政策、子どもと家族の諸統計、学校保健				事前：子どもと家族を取り巻く社会を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脇
12	配慮が必要な子どもと家族の理解と看護(1) 発達障害				事前：障害のある子どもと家族の看護を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脇
13	配慮が必要な子どもと家族の理解と看護(1) 児童虐待				事前：子どもの虐待と看護を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脇
14	子どもの死の理解とEnd Of Life care				事前：終末期にある子どもと家族の看護を一読 事後：講義内容の復習			講義	大門
15	子どもの未来を支える成育医療・成育看護				事前：小児看護の課題を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脇
教本： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 1「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 2「小児臨床看護各論」 医学書院（※ 1） その他：「小児の健康障害」で使用したテキストおよび授業レジュメを持参する									
参考文献： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 1「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 2「小児臨床看護各論」 医学書院（※ 1） その他：「小児の健康障害」で使用したテキストおよび授業レジュメを持参する									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況・課題とレポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自身の小児期を想起し、身近な子どもと家族の様子や子どもと家族を取り巻く社会問題(新聞やニュース等)に関心を持ち、小児期の健やかな成長・発達に必要な環境の在り方を考えてみましょう。課題・レポート提出期限の遅れは、評価の対象となりませんのでご注意ください。健康障害Cで修得した小児期の生理・機能的知識を活用しますので、授業レジュメは持参してください。また、小児を看護するために、子どもの「モデル」としての態度を身に付けることを大事にしています。									

開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	成人期の発達援助演習Ⅰ（急性期・回復期） （Adult Health Nursing: Assessment & SkillsⅠ）					ナンバリング	N-DN34	科目分類	専門分野
担 当 教 員	川畑貴美子・下村晃子（嶋野ひさ子）・佐藤京子・阿部ケエ子・川原理香・山本貴子・藤井加奈子								
履 修 条 件	前提科目	医療支援技術、病態学総論、健康障害A・B、成人発達援助論を履修していること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 急激な健康破綻をきたした健康状態にある患者の身体面、心理面、社会面に及ぼす影響を理解し、生命の維持や健康の回復に必要な看護技術を学修する。 学修内容は、周手術期やクリティカルな健康状況における看護援助の方法や健康回復を促すためのリハビリテーションに関する援助方法、そしてこのような健康状態にある患者と家族に対する精神的援助の意味と介入方法について学ぶ。 重症・重篤な健康状態にある患者と家族を支援するにあたり、さまざまな職種との連携についてイメージでき、自分の考え方を整理することも学修のねらいとしている。									
授業目標： 1. 周手術期およびクリティカルな状況にある対象者への看護ケアを理解する。 2. 健康状態をアセスメントするための観察方法を理解する。 3. 患者と家族に対する精神面からの支援方法を理解する。 4. 健康の回復や合併症を予防するための援助方法を習得する。 5. 周手術期にある患者の看護過程を展開できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	担 当
1	(総論) 急性期における患者および看護の特徴					事前：急性期看護と患者の特徴について、テキストを精読し、準備して臨む。 事後：救急DVD視聴		講義	川畑
2	生命の危機的状況にある患者の看護								
3	周手術期の看護①					事前：周手術期とは理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめとDVD視聴		講義	川畑
4	周手術期の看護②								
5	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 (運動器) 運動器にかかわる変化／事故・外傷を含む					事前：運動器の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：事例②の説明		講義	佐藤
6	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 消化・吸収にかかわる変化 (下部消化管)／小腸・大腸・直腸					事前：下部消化管の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：事例②の説明		講義	川原
7	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 消化・吸収にかかわる変化 (上部消化管)／食道・胃					事前：上部消化管の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：事例①の説明		講義	川原
8	看護問題解決のための看護過程：事例演習 事例：①胃がんの手術患者 ②大腸がんの手術患者					事前：事例①②患者の理解に必要な知識を理解して臨む。 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
9	事例演習(1)(2)： 情報整理、分析、解釈、情報統合								
10	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 消化・吸収にかかわる変化／肝臓・胆嚢・膵臓					事前：肝・胆・膵の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ		講義	川畑
11	クリニカルパスと周手術期看護 (内分泌系、甲状腺疾患)					事前：クリニカルパスとは何か理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ		講義	佐藤
12	開心手術を受ける患者の看護 心疾患で手術を受ける患者の看護					事前：心疾患の手術に必要な病態を理解して説明できるように臨む。 事後：講義のまとめ		講義	阿部
13・14	看護問題解決のための看護過程 事例：①胃がんの手術患者 ②大腸がん手術患者 事例演習(3)(4)： 情報統合、アセスメント、全体像把握、関連図作成					事前：看護過程の展開のプロセスが理解できるように準備する。 事後：課題レポート提出		事例演習	川畑 佐藤 阿部
15	技術演習① 周手術期の看護 ・弾性ストッキング着用					事前：手術前後の看護のワークブックを学習する 事後：理解確認の小テスト		実技演習	全員
16	・術後ベッド作成（全麻下）								

17	開胸手術を受ける患者の看護 肺疾患で手術を受ける患者の看護	事前：肺疾患の手術に必要な病態を理解して説明できるように臨む。 事後：講義のまとめ	講義	山本
18	脳神経疾患で開頭 手術等を受ける患者の看護	事前：脳神経疾患で開頭術を受ける疾患の知識を確認して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ	講義	下村
19	がん患者の看護①	事前：がんに関する疫学とは何か理解して説明できるように準備して臨む。 がん疾患の症状や治療法などテキストを精読し知識を確認して臨む。 事後：講義のまとめ	講義	川畑
20	がん患者の看護②			
21	技術演習② ドレナージ・カテーテルの管理	事前：ドレナージ管理のワークブックを学習する。 事後：理解確認の小テスト	実技 演習	全員
22	・各種ドレナージやカテーテルの取り扱い ・ドレナージ挿入時の観察と管理			
23	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 (生殖器・乳房・前立腺) セクシュアリティにかかわる変化	事前：セクシュアリティにかかわる臓器の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ	講義	川原
24	看護問題解決のための看護過程 事例：①胃がんの手術患者 ②大腸がん手術患者	事前：看護過程の展開のプロセスが理解できるように準備する。 事後：課題レポート提出	事例 演習	川畑 川原 山本
25	事例演習(5)(6)：全体像把握、関連図作成 提示された看護問題を含めて事例全体の関連図作成と看護計画立案			
26	・周術期にある患者と家族の援助	事前：手術を受ける患者の家族の特徴を説明できるように準備する。 臓器移植と脳死について、理解して説明できるように準備して授業に臨む。 事後：脳死による臓器移植に賛成か否か考える。	講義	川畑
27	・臓器移植と脳死、再生医療 ・成人発達援助演習Ⅰのまとめ			
28	看護問題解決のための看護過程 事例：①胃がんで手術をうける患者	事前：看護過程の展開のプロセスが理解できるように準備する。 事後：発表後の課題レポート提出	事例 演習	全員
29	②大腸がんで手術を受ける患者			
30	事例演習(7)：看護過程展開の確認と発表準備 事例演習(8)(9)：発表、まとめ			
教本：		参考文献：		
1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2～11] (医学書院、東京)		1. 系統看護学講座 別巻、臨床外科看護総論・臨床外科看護各論 (医学書院、東京)		
2. 明石恵子ほか編集「経過別成人看護学② 周術期看護 第1版5刷」(メヂカルフレンド社)		2. 川本利恵子ほか監修 ナースのための術前・術後ケア (学研、東京)		
3. 池松裕子ほか編集「成人看護学 急性期看護論」(ヌーベルヒロカワ、東京)		3. しっかり身に付く看護過程改訂 第2版 照林社 他は随時提示する。		
4. 小松浩子ほか著 がん看護学 系統看護学講座 別巻 (医学書院、東京)				
5. NANDA 看護診断 定義と分類 医学書院 最新版				
成績評価の方法、評価基準：				
授業参加状況等 (10%)、小テスト・看護過程レポート (10%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外のすべての項目 (レポート等) も評価しない。				
学生へのアドバイス：				
急性・回復期にある対象の援助を実践するには、人体の構造や機能、疾病の成り立ちと治療について理解していることが大前提である。「身体の構造と機能」、「病態と治療」の学習内容を復習・整理しておくことが必要である。医療の高度化に伴って、周手術期患者を看護する上で、ME機器を使用している患者の観察や機器の操作方法、感染対策など、患者や自分自身の安全や安楽を守る技術の習得は必修条件である、技術演習は欠席しないようにすることが必要である。				
2020、2021年度入学者科目名称		成人発達援助演習Ⅰ(急性期・回復期)		

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	精神看護援助論 (Introduction to Mental Health Nursing)					ナンバリング	N-CN14	科目分類	専門分野
担 当 教 員	丸山 昭子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： さまざまな精神健康レベルにある個人、家族、グループを対象にした精神看護を実践するための基礎知識・技術・態度を、自己理解やコミュニケーション技術も含め修得することを目的とする。同時に、環境、文化的要因、セクシュアリティ、発達の危機、偶発的危機などが精神健康に及ぼす影響も学ぶ。また、精神の病気をもち個人が地域で共に生活することを支える保健・医療・看護・福祉のあり方や精神看護学の課題等について法的、倫理的観点から検討する。									
授業目標： 1. 精神保健学の枠組みと対象や理論について述べることができる。 2. 精神医療と看護の歴史の変遷および法律を学ぶことで、精神障害者の取り巻く環境を説明することができる。 3. メンタルヘルスの問題に目を向け、支援の方法を述べることができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	ガイダンス・精神保健学の枠組み					事前：テキスト1：第1章の精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
2	心の健康の概念 ー精神の健康・精神障害のとらえ方ー					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
3	心の危機的状況／精神の健康のマネジメント ーストレスと健康の危機・心的外傷・レジリエンスー					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
4	災害時の医療と看護／精神的健康管理					事前：テキスト2：該当ページの精読 事後：復習課題の作成 小テスト①の準備		講義	丸山 昭子
5	小テスト① 心の機能と発達					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
6	ライフサイクル各期における発達課題					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
7・8	集団の場における精神保健上の問題への支援					事前：テキスト1：該当ページ(7回目)、 テキスト2：該当ページ(8回目)の精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
9・10	病を患う人の精神状態と看護 ーリエゾン精神看護／看護師のメンタルヘルスー					事前：テキスト2：該当ページの精読 事後：復習課題の作成 小テスト②の準備		講義	丸山 昭子
11	小テスト② 諸外国における精神保健医療福祉の変遷と看護					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
12	日本における精神保健医療福祉の変遷と看護					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
13	精神障害と文化および社会学					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
14	精神保健上の問題にかかわる法律の動向と対策					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成 小テスト③の準備		講義	丸山 昭子
15	小テスト③ まとめ					事前：なし 事後：定期試験に備える		講義	丸山 昭子
教本： 1. 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院（テキスト1） 2. 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院（テキスト2）						参考文献： 参考文献は、講義初回ならびに随時提示する。 事前学習： 該当ページは授業内で指示する。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・復習課題等（20%）、定期試験（70%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： こころの健康について、幅広く学んでいきます。自分自身のこころを見つめ、こころの健康を保つために必要な援助を学ぶと共に、精神に問題を抱える人の保健・医療・社会の課題についても具体的な例を用いて学んでいきます。									

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	アディクション看護論（Addiction Nursing）					ナンバリング	N-CN34	科目分類	専門分野
担 当 教 員	丸山昭子・小野坂益成								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： アディクション（addiction）とは、日本語で嗜癖のことをいい、医学モデルでは「依存症」という言葉を用い、コントロール障害を特徴とする「疾患」である。アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存、共依存など、さまざまな依存症の基礎知識の修得、さらに摂食障害、DV、児童虐待、暴力など、直接は依存症ではないと考えられているものも学び、アディクション看護の技術・態度を修得することを目的とする。また、依存症を持つ個人を取り巻く、家族・地域などのサポートについて幅広い知識を修得する。									
授業目標： 1. アディクションの基礎知識を理解し、述べることができる。 2. アディクションに関連した諸理論を説明できる。 3. アディクション看護の技術・態度を学び、自己の関わり等を考えることができる。 4. 地域で生活している依存症患者を取り巻く、家族・地域などのサポートについて説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		担 当
1	オリエンテーション アディクションの文化的・社会的背景の理解			事前：アディクションの定義や種類について述べる ことができるように準備する。 事後：復習課題の作成			講義		丸 山 小野坂
2	嗜癖と健康との関連Ⅰ ー物質依存の定義および状態像ー			事前：物質依存の定義や種類について述べるこ とができるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
3	嗜癖と健康との関連Ⅱ ー行為・過程依存の定義および状態像ー			事前：行為・過程依存の定義や種類について述 べることができるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
4	嗜癖と健康との関連Ⅲ ー人間関係依存の定義および状態像ー			事前：人間関係依存の定義や種類について述べる ことができるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成・小テストの準備			講義		
5	小テスト コミュニケーションと支援における相互の関係性			事前：これまでの講義内容から、アディクション に対する自分の考えを述べるができる ように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義・ グループワーク		
6	ケアの質の保証と安全性の管理 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働			事前：依存症者への看護について、自分の考えを 述べるができるように準備し、授業に 臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
7	地域ケアシステム ー個人と家族ー ー地域における支援ー			事前：依存症者およびその家族への支援について、 自分の考えを述べるができるように準 備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義・ グループワーク		
8	社会におけるアディクションの課題と対策 まとめ			事前：これまでの授業資料を見直し、疑問点や不 明な点を明確にして授業に臨む。 事後：定期試験に向けての準備をする。			グループワーク発表・ 講義		
教本： プリントを配布する。									
参考文献： アディクション看護学 松下年子・日下修一 メヂカルフレンド社									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、復習課題・小テスト等（20%）、定期試験（70%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： アディクションは、スマホやゲームなど皆さんにとって身近なものも対象となります。依存がどうして起こるのか、依存による生活や健康への影響はどのようなものなのかを学び、あなた自身の生活を振り返るきっかけや、周りの方への支援の手掛かりが得られるように、授業を通して考えてみましょう。									

開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義	
授業科目(英文)	地域看護論（Community Health Nursing）						ナンバリング	N-CN24	科目分類	専門分野
担 当 教 員	渡部月子・望月麻衣									
履 修 条 件	前提科目	在宅看護援助論を履修していること								
	そ の 他	なし								
授業概要： 地域看護の理念、対象及び地域看護活動の理解に必要な理論と個人・集団・地域への支援のあり方を理解する。 事例を通して病院や施設から、自宅に帰った時の社会資源や関係機関との連携を学修する。										
授業目標： 1. 地域看護の理念を理解し、地域看護活動の全体像を把握することができる。 2. 地域看護学に関わる諸理論を理解し、地域看護について体系的に考えることができる。 3. 地域看護がさまざまな領域で展開されていることを知り、その重要性・必要性を理解できる。 4. 事例を通して地域社会資源の考え方と選択・活用について学ぶ。										
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業 回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	地域看護の概念、定義、目的					事前：シラバスの内容確認 事後：授業の復習		講義	渡部	
2	地域看護活動の場の特徴と看護職の役割： 行政（保健所・保健センター等）学校保健・産業保健					事前：課題に取り組む 事後：授業の復習		講義	外部講師 渡部	
3	地域看護活動における個人・家族・コミュニティへの支援方法： 家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援等					事前：課題に取り組む 事後：授業の復習		講義	望月	
4	地域看護活動に関連する諸理論：地域を捉える視点 プリシードプロシードモデル、コミュニティ・アズ・パートナーモデル					事前：課題に取り組む 事後：授業の復習		講義	渡部	
5	事例を通して地域の特徴と社会資源の活用、他職種との連携を考える①②③ ・地域情報の収集、分析 ・社会資源の理解と選択・活用 ・地域保健医療福祉システム及び関連する他職種との連携					事前：授業資料の熟読 事後：事例に関した情報の収集・分析		講義	渡部 望月	
6										
7										
8	事例を通して地域の特徴と社会資源の活用、他職種との連携を考える④ ・事例の報告					事前：事例発表の準備 事後：レポートの提出		講義	渡部 望月	
教本：なし 参考文献：国民衛生の動向 2023/2024 厚生労働統計協会 他随時提示する。										
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（GW含む）等（10%）、レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。										
学生へのアドバイス： 自分の暮らしている地域に興味関心を持ってください。毎日生活している地域を見回してください。新たな気づきがたくさん出てくると思います。皆さんの暮らしているまちは住みやすいですか？ 住民が生き生きと暮らしていますか？ 今、自分が地域の中でできることは何か。一緒に考えて見ましょう。 毎回予習・復習をして授業に積極的に参加してください。										

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	地域・在宅の看護援助演習 (Community and Home Care Nursing: Assessment & Skills)					ナンバリング	N-CN24	科目分類	専門分野
担 当 教 員	渡部月子・望月麻衣・高橋真由美・村井恵子								
履 修 条 件	前提科目	在宅看護援助論を修得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 在宅看護援助論で学んだ在宅看護の対象や介護保険法をはじめとする訪問看護に関する制度の知識を基に学修する。地域で療養しながら生活する人々と家族に対する在宅看護支援の実際を、講義・演習を通して知識と基礎的技術を修得する。また訪問看護ステーション・地域包括支援センター・訪問診療機関等の他職種との連携・協働について学ぶ。									
授業目標： 1. 生活援助を必要とする在宅療養者の特徴、観察方法、ヘルスアセスメント、看護技術に関連づけて学び、その一部を体験し、在宅看護における生活支援技術を体得する。 2. 社会資源の活用、ケアマネジメント、他職種連携や、在宅ケアチームにおける看護職の役割について学ぶ。 3. 病院と在宅における看護職の協働と退院支援、継続看護を理解する。 4. 疾患に特有な療養上の課題を抱えて生活する対象の特徴を理解し、観察方法、ヘルスアセスメント、看護技術及び倫理的課題について学び、要介護高齢者、認知症、がんの終末期支援について述べられる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1～4	ガイダンス シラバスに沿って授業計画の説明を受ける					事前：シラバスを読む 事後：配付資料の復習		講義	渡部
	家庭訪問の技術（訪問マナー）①②③④ 1. 在宅療養における看護方法としての訪問看護の意義を学ぶ 2. 療養の場であり生活の場である在宅の特徴を学ぶ 3. 訪問看護を行う看護職の態度・マナーを学ぶ					事前：配布資料の学修 事後：課題学修		講義	望月 高橋
5・6	さまざまな対象者への在宅看護① 疾病や障害を持つ小児への在宅看護 1. 在宅で療養する小児の特徴とケアについて学ぶ 2. 長期在宅生活を継続するために必要な家族への支援について学ぶ 3. 在宅で療養する小児の訪問看護の実際について学ぶ					事前：教本を読む 事後：疾病や障害、家族看護について学んだことをまとめる		講義	高橋
	さまざまな対象者への在宅看護② 認知症高齢者への在宅看護 1. 在宅で療養する認知症高齢者の特徴について学ぶ 2. 認知症高齢者を在宅で介護する家族への支援について学ぶ 3. 認知症高齢者に安全と安心をもたらす看護について学ぶ					事前：教本を読む 事後：在宅における認知症看護、家族看護について学んだことをまとめる			
7・8	さまざまな対象者への在宅看護③ 神経系難病の療養者への在宅看護 1. 難病対策について学ぶ 2. 神経系難病の療養者の身体的・精神的・社会的特徴を学ぶ 3. 家族介護者の現状を理解し看護支援について考える 4. 災害への平常時の備えと対応を学ぶ					事前：教本を読む 事後：配布資料の確認		講義	高橋
	さまざまな対象者への在宅看護④ 精神疾患を持つ療養者への在宅看護 1. 病院における精神科看護と訪問看護の違いを知り、在宅で生活する精神疾患の療養者の状況がイメージできる 2. 精神疾患療養者への看護の視点を学ぶ					事前：教本を読む 事後：精神疾患療養者の状況を考えて看護をまとめる			渡部
9・10	さまざまな対象者への在宅看護⑤ 回復期（リハビリテーション期）の療養者への在宅看護 1. 在宅におけるリハビリテーションの考え方を学ぶ 2. 生活機能・日常生活機能（ADL）のアセスメントを学ぶ 3. 状態に合わせた対応・調整について学ぶ 4. 合併症の予防と対応を学ぶ					事前：教本を読む 事後：回復期ケアについて学んだことをまとめる		講義	渡部
	在宅における看護過程の展開①					事前：教本を読む 事後：事前課題の学修			望月
11・12	さまざまな対象者への在宅看護⑥ 終末期の在宅看護 1. 終末期の療養者の身体的・心理的特徴と経過を学ぶ 2. 終末期の療養者の家族の特徴を理解する 3. 終末期の療養者の在宅看護について学ぶ					事前：教本を読む 事後：在宅における終末期ケアについて学んだことをまとめる		演習	望月
	食事と栄養① 1. 在宅療養者の食事と栄養の特徴について学ぶ 2. 嚥下障害のある療養者への食事の工夫を学ぶ 3. 胃ろう、経管・経腸栄養法を学ぶ 4. 口腔ケアの実際を学ぶ					事前：教本を読む 事後：課題プリントの学修			高橋

13・14	食事と栄養②③ 1. 在宅療養者の食事と栄養の特徴について学ぶ 2. 嚥下障害のある療養者への食事の工夫を学ぶ 3. 胃ろう、経管・経腸栄養法を学ぶ 4. 口腔ケアの実践を学ぶ	事前：食事の看護技術 事後：在宅における食事支援のまとめ	演習	高橋
15・16	在宅における看護過程の展開②③	事前事後：個人ワーク 課題学修	演習	全員
17・18	在宅酸素療法（HOT）・在宅人工呼吸法療養者の看護 1. 在宅酸素療法や人工呼吸療法の方法を学ぶ 2. 在宅酸素や人工呼吸療法時の観察と生活指導を学ぶ 3. 療養者の心理を把握し、思いに添う支援について知る 4. 災害への備えと対応を学ぶ	事前：教本を読む 事後：配付資料の復習	講義 演習	高橋
19・20	在宅輸液療法の療養者への看護（服薬管理含む）薬物療法 1. 栄養補給が必要な在宅療養者に対して行われる在宅輸液療法を学ぶ 2. 在宅輸液療法を行っている療養者への看護を学ぶ 3. 薬物療法管理（服薬管理）の実践を学ぶ 在宅における看護過程の展開④	事前：教本を読む 事後：配付資料の復習 事前事後：個人ワーク 課題学修	講義 演習	望月 全員
21・22	排泄支援①② 1. 在宅における排泄支援の特徴を学ぶ 2. 排泄障害（尿失禁・便失禁等）のケア方法について学ぶ 3. 排泄補助用具の選択方法、ストーマケアについて学ぶ 4. 膀胱留置カテーテル法について学ぶ	事前：排泄の看護技術 事後：在宅における排泄支援のまとめ	演習	望月 全員
23・24	移動の援助①② 1. 在宅看護における移動援助の目的と療養者の特徴について学ぶ。 2. 在宅看護に必要な移動におけるヘルスアセスメントの方法について学ぶ。 3. 在宅看護に必要な移動の援助方法の実践を学ぶ	事前：体位と移動についての看護技術を復習する 移動補助用具・転倒防止について調べる 事後：課題プリントの提出	演習	高橋 全員
25・26	在宅における看護過程の展開⑤ 清潔援助技術① 1. 清潔ケアの目的と療養者の特徴について学ぶ 2. 清潔ケアのアセスメントと評価について学ぶ 3. 清潔ケアの方法、他職種との連携について学ぶ	事前事後：個人ワーク 課題学修 事前：教本を読む 事後：配付資料の復習	演習	望月 全員 高橋
27・28	清潔援助技術（洗髪）②③ 1. 在宅で簡便にできるケリーパッドを作成する 2. 在宅療養者の状態や家族の生活に合わせた洗髪用具の選択、工夫について学ぶ 3. 在宅における洗髪方法について学ぶ	事前：洗髪についての看護技術を復習する 事後：課題プリントの学修	演習	高橋 全員
29・30	在宅における看護過程の展開⑥ 在宅看護の実践－訪問看護－ 訪問看護師の役割 訪問看護の魅力とやりがい	事前：個人ワーク、課題学修 事後：課題レポートの提出 事前：今までの学修の振り返り 事後：配付資料の復習	講義	全員 外部講師
教本：在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 参考文献：在宅看護実習ガイド（パーフェクト臨床実習ガイド） 山田雅子 照林社 他随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10％）レポート等（20％）定期試験（70％）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。				
学生へのアドバイス： この授業は必修科目です。講義と演習が連動して構成された科目ですので、欠席は内容の理解に影響を及ぼします。 体調管理をして欠席がないように臨んでください。				
2020、2021年度入学者科目名称		在宅看護援助演習		

Ⅵ シラバス(3年)

Ⅵ シラバス(3年)

Ⅵ シラバス(3年)

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	保健衛生統計 (Introduction to Health Statistics for nursing)							科目分類	基礎分野
担 当 教 員	大脇淳子・丸山昭子・松浦広明・渡部月子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 物事を筋道立てて考え、様々な社会現象を適確に把握することができる基礎になるものがデータである。データには量的なものや質的なものがあるが、データの種類に応じた適切な分析を行い、その結果からどのような判断をするべきかの手法を学修する。本講義では、医療・看護に関わる疫学・保健統計の見方・考え方の基礎的な内容とその活用法について概説する。また、人間の反応や数量化しにくいデータの扱い、保健統計の基礎となる統計学の考え方および統計処理法についても解説する。									
授業目標： 1. 保健衛生統計の概要を理解する。 2. 統計の基礎（統計手法の基礎とデータの読み取り方、など）を理解する。 3. 母子保健・精神保健、公衆衛生、医療と看護における保健衛生統計の活用方法を理解する。 4. 課題を通して、計量的データ解析の方法と結果の数字の意味を読み取る。									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	保健衛生統計とは					事前：シラバス内容を確認する 事後：事後の課題		講義	大脇
2	統計の基礎①：概要・母集団と標本					事前：統計の概要について調べる 事後：事後課題		講義	松浦 広明
3	統計の基礎②：主要な統計量 代表値・バラツキの統計量・関連の統計量・ 主な図表の特徴					事前：主な統計量について調べる 事後：事後課題		講義	松浦 広明
4	統計の基礎③：確率分布 χ^2 乗・T検定、オッズ比					事前：確率分布について調べる 事後：事後課題		講義	松浦 広明
5	公衆衛生における保健衛生統計					事前：公衆衛生の統計について調べる 事後：事後課題		講義	渡部 月子
6	精神保健における保健衛生統計					事前：精神保健統計について調べる 事後：事後課題		講義	丸山 昭子
7	母子保健における保健衛生統計					事前：母子保健統計について調べる 事後：事後課題		講義	大脇 淳子
8	医療・看護における保健衛生統計 課題レポートの提示、課題作成					事前：既習の学習内容を復習する 事後：課題レポートに取り組む		講義	大脇、丸山 渡部
教本： なし					参考文献： 1. 系統看護学講座 統計学、医学書院 2. やさしい保健統計学 改訂第5版増補、南江堂 3. 国民衛生の動向、その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（40%）、レポート（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： この科目は、医療、保健に関するさまざまな計量的データから考えられる問題点、推移や予想される出来事、対処すべきことなどを読み解く科学的方法論のひとつです。看護実践や研究においても、人の健康に関する保健統計の計量的データを正しく理解し活用するためには、統計学の知識を持つことが重要であり、この計量的データを読み解くためにはどの統計手法を用い、得られた解析結果をどう読み解くか、これらの力を備えることで見えてくる事象があります。その楽しさを一緒に学びましょう。									
2019年以前入学者科目名称			保健統計学						

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マルチメディア表現（Multimedia）							科目分類	基礎分野
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、デジタル時代における他との情報コミュニケーションについて、広報という形からの知見を高める。企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でのコミュニケーションについて、議論により理解を深める。									
授業目標： 現代社会のコミュニケーションについて、広報という立場から理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		担 当
1	産業社会とメディアの変容				事前：精読（11-29） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
2	デジタル時代に問われる広報コミュニケーション				事前：精読（33-45） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
3	コーポレートコミュニケーション				事前：精読（48-62） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
4	広報戦略の立案				事前：精読（66-78） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
5	ICTの活用とコミュニケーションデザイン				事前：精読（81-94） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
6	マーケティングコミュニケーション				事前：精読（97-110） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
7	インターナルコミュニケーション				事前：精読（113-124） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
8	CSRと地域社会への広報活動				事前：精読（127-138） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
9	成功するIR活動				事前：精読（141-152） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
10	グローバルコミュニケーション				事前：精読（156-168） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
11	電子自治体・行政広報の要点と実務				事前：精読（172-184） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
12	危機管理対応とリスク管理				事前：精読（187-197） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
13	コミュニケーション効果と効果測定				事前：精読（199-212） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
14	インターネット広報とオウンドメディアの活用				事前：精読（215-228） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
15	メディアリレーションズ				事前：精読（231-243） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分		鈴木 秀顕
教本： 『広報コミュニケーション基礎』（宣伝会議）					参考文献： 『広報・PR概説』（日本パブリックリレーション協会）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： <u>この科目は定員があります。履修登録をした上で第1週の授業に必ず出席してください。</u>									

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	医療安全管理 (Patient Safety Management)							科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	牛島典子・奈良かな子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 対象者の安全を守るために、医療現場における機器の保守管理、機器の操作、安全教育、法規などについて学習を深める。また、生命維持管理装置や輸液ポンプなどについて例示し、事故防止のための安全行動について具体的にイメージでき実践できるようにする。さらに、過去の事故事例やインシデントについて、データをもとに概説し、個々の安全に対する確認行動や支援システムについても言及する。									
授業目標： 1. 医療事故の構造、医療安全の考え方が理解できる。 2. 診療の補助や療養中のケアにおける医療事故の要因や対策を、様々な観点から考え意見交換ができる。 3. 組織的な安全管理体制、インシデントレポート、アクシデントレポートの意義について理解できる。 4. 看護学生として、事故防止対策や事故発生時の対応について理解できる。 5. 感染の危険を伴う病原体への暴露と感染予防策について理解し、正しく実践することができる。 6. 医療機器や医療品での暴露とその予防策について理解できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当
1	医療安全管理 1 医療安全推進の背景と経緯 医療事故発生のメカニズムと医療事故防止の考え方				事前：シラバスを参照し、本科目の授業内容の確認をする。医療安全を学ぶことについて自己の考えを明らかにし、授業に臨む。 事後：授業内容の復習			講義	牛島
2	医療安全管理 2 診療の補助の事故防止① GW：誤薬事例（内服管理）				事前：内服管理における看護師の役割について説明できるように授業に臨む。 事後：授業内容の復習			講義 GW	牛島
3	医療安全管理 3 診療の補助の事故防止② GW：誤薬事例（輸液管理）				事前：輸液管理における看護師の役割について説明できるように授業に臨む。 事後：授業内容の復習			講義 GW	牛島
4	医療安全管理 4 療養中のケアの事故防止① GW：転倒事例				事前：患者の転倒・転落における要因と看護師の対応について説明できるように授業に臨む。 事後：授業内容の復習			講義 GW	牛島
5	医療安全管理 5 療養中のケアの事故防止② GW：誤嚥事例				事前：患者の誤嚥の要因と看護師の対応について説明できるように授業に臨む。 事後：授業内容の復習 課題レポート（テーマは授業時に説明する）			講義 GW	牛島
6	医療安全管理 6 組織的な安全管理体制 看護学生の実習中の事故防止および事故発生時の学生の対応 看護ケアと看護記録				事前：前回授業まで授業の復習 事後：課題レポート（テーマは授業時に説明する）			講義	牛島
7	感染管理 1 感染の危険を伴う病原体への暴露と感染予防策 医療機器や医療品での暴露とその予防策 （職業感染、放射線被爆、ラテックスアレルギーの防止）				事前：感染成立の条件および院内感染防止の基本を理解したうえで授業に望む。 事後：授業内容の復習			講義 GW	奈良
8	感染管理 2 感染管理認定看護師の役割 標準予防策（スタンダードプリコーション）の実践： ガウンを使用して				事前：スタンダードプリコーションを理解したうえで授業に望む。 事後：授業内容の復習			講義 演習	奈良
教本： ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護後術Ⅰ：医学書院（1年生で購入済） ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ：医学書院（1年生で購入済） ・「医療安全のための標準テキストー日本看護協会ー」 https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/text.pdf ＊日本看護協会のホームページより上記のテキスト（PDF）をiPadにダウンロードし保存してください。									
参考文献： ・系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 川村治子 医学書院 ・医療安全 看護の統合と実践② メディカ出版 ・医療安全とリスクマネジメント 嶋森好子他著 ノーベルヒロカワ その他は随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 課題レポート・小テスト・グループワークの学習状況等（40％）、定期試験（60％）の総合評価とする。									
学生へのアドバイス： 医療事故の現状を理解し、事故はなぜ起きるのか、再発を防止するための対策をチームで考えることが重要です。授業内でのグループワークを通して、様々な視点での気づきを大切にしてください。 また、臨地実習において、学生も医療チームの一員であり、安全で質の高いケアの提供に努めることが求められます。そのため、本科目で得た知識を臨地実習で活用できるように学習に取り組んでください。									
2019年以前入学者科目名称			医療安全管理論						

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	リプロダクティブ・ヘルス援助演習（Reproductive health Nursing : Assessment & Skills）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	増山利華・和田佳子・箭内彩也佳								
履 修 条 件	前提科目	リプロダクティブ・ヘルス援助論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 周産期にある対象（妊婦・産婦・褥婦・新生児）の看護を中心として、看護を実践するために必要な知識・技術を修得し、生殖に伴う次世代につながる健康に目を向けた看護を学ぶ。									
授業目標： 1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的特性を理解できる 2. 妊婦・産婦・褥婦のセルフケアを促す看護と新生児の成長発達を促す看護が説明できる。 3. 妊娠期・分娩期・産褥期及び新生児期の生理的变化について理解し、アセスメントに必要な看護技術を修得できる。 4. 母児の健康な生活について理解し、それを支える産褥ケアや育児支援、母子保健のシステムについて理解できる。 5. 親子の愛着、絆の形成と役割発達等の発達課題と家族に及ぼす影響を理解し、家族の発達を支える看護を説明できる。 6. 家族の特徴を踏まえ、新しく形成される家族を支援するために必要な他職種との連携・協働を説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1・2	＊リプロダクティブ・ヘルス援助演習のオリエンテーション 1. 妊娠に伴う身体的・心理的・社会的変化と看護 1) 母体と胎児の生理的な身体の変化 2) 妊婦とその家族の心理的・社会的変化 3) 母体と胎児の健康状態のアセスメントと看護 2. 妊娠期に起こりやすい健康問題 1) 健康問題のメカニズムと妊婦と胎児に及ぼす影響 2) 健康問題のアセスメントと看護 3. 妊娠期の看護を支える看護技術 1) アセスメントに必要な情報収集に必要な看護技術 2) 保健指導に必要な看護技術					事前：既習の妊娠の成立・妊娠経過の予習 事後：妊娠期に起こりやすい健康問題の復習 妊娠期の看護に必要な技術の復習		講義 演習	増山
3・4									
5・6									
7・8	4. 正常な分娩経過と看護 1) 産婦と胎児の生理的な経過 2) 産婦と胎児のアセスメントと看護 5. 分娩期に起こりやすい健康問題と看護 1) 健康問題のメカニズムと産婦と胎児に及ぼす影響 2) 健康問題のアセスメントと看護 6. 分娩期の看護を支える看護技術 1) 安全を支援するために必要な看護技術 2) 安楽を支援するために必要な看護技術					事前：既習の正常な分娩経過の予習 事後：分娩時に起こりやすい健康問題の復習 分娩期の看護に必要な技術の復習		講義 演習	増山
9・10									
11・12									
13・14	7. 出生直後の新生児の看護 1) 出生直後の観察とアセスメント 2) 出生直後の看護 8. 早期新生児期の胎外生活適応への看護 1) 早期新生児の特徴と生理的变化 2) 早期新生児の健康と発育のアセスメントと看護 3) 新生児と家族の看護 9. 新生児の健康問題と看護 1) 健康問題のアセスメントと看護 10. 新生児期の看護を支える看護技術 1) 新生児の観察のために必要な看護技術 2) 新生児期の看護に必要な看護技術					事前・事後：新生児の解剖生理の予習・復習 ・早期新生児期に起こりやすい健康問題の予習・復習 ・新生児援助技術の復習		講義 演習	増山
15									
16									
17	11. 産後の退行的・進行的変化を促すための看護 1) 退行性変化（身体と生殖器）のアセスメントと看護 2) 進行性変化（乳房）のアセスメントと看護 3) 産褥期の心理的变化（母親役割適応）のアセスメントと看護 12. 産褥期に起こりやすい身体的・心理的健康問題と看護 1) 健康問題のメカニズムと褥婦に及ぼす影響 2) 健康問題のアセスメントと看護 13. 育児支援とセルフケアへの看護 1) 母子関係の成立 2) 退院後の生活支援 3) 家族発達への看護					事前：生理的な産褥経過の予習 産褥期に起こりやすい健康問題の予習 育児支援の予習		講義	増山
18									
19・20									
21・22	14. 産褥期の看護を支える看護技術 1) 褥婦を観察するために必要な看護技術 2) 褥婦期の看護に必要な看護技術 3) 産褥期の看護診断・看護計画 4) 新生児期の看護診断・看護計画					事前：産褥期の観察に必要な看護技術の手順書を作成する 事後：事前に作成した看護技術の手順書を完成させる		演習	増山
23									

	試験			
24	看護過程の展開 *技術演習のオリエンテーション	母性看護概論、これまでの学習の復習	演習	増山
25a・26a	演習1 Aグループ：看護技術 ①妊 婦：腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法・胎児心音聴取 ②褥 婦：子宮底・外陰部・悪露の観察と子宮底輪状マッサージ、乳房の観察、授乳時の抱き方、排気 ③新生児：バイタルサインと全身状態の観察 黄疸の測定、生理的体重減少率の算出、オムツ交換、ドライテクニック	事前：トレーナー役割を担当する項目を習熟する 事後：看護技術を復習	演習	増山
25b・26b	Bグループ：看護過程の展開		演習	増山
27a・28a	演習2 Bグループ：看護技術 ①妊 婦：腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法・胎児心音聴取 ②褥 婦：子宮底・外陰部・悪露の観察と子宮底輪状マッサージ、乳房の観察、授乳時の抱き方、排気 ③新生児：バイタルサインと黄疸の測定、オムツ交換、ドライテクニック	事前：トレーナー役割を担当する項目を習熟する 事後：看護技術を復習	演習	増山
27b・28b	Aグループ：看護過程の展開		講義 演習	増山
29・30	看護過程の展開 まとめ	事前：課題の看護過程を自己学習しておく	講義 演習	増山
教本： 1. 森恵美、他編：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論＜2＞、医学書院 2. 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック第5版 医学書院 3. 石村百合子編：根拠と事故防止からみた母性看護技術 第2版 医学書院		参考文献： 1. 平澤美恵子、村上睦子 監修：写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ 2. 太田操編：ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程 第3版、医歯薬出版 3. 新道幸恵、他編：新体系看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護、メヂカルフレンド社 4. 大平光子、他編：母性看護学Ⅱ 母と子そして家族へのよりよい看護実践、南江堂 5. 井上和美、他監修：病気がみえる、Vol.10、第2版、メディックメディア 6. 前原澄子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ、中央法規 7. 村本順子、他編：直前 母性看護実習 プレブック 看護過程の思考プロセス、医歯薬出版		
成績評価の方法、評価基準： 定期試験：客観試験（70%）、看護過程レポート（10%）、講義・演習態度（20%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についても全て評価しない。				
学生へのアドバイス： 周産期にある母子及びその家族を対象にしたウェルネスの視点での看護を学びます。柔軟な思考で学修に臨んでください。				
2019年以前入学者科目名称		ウィメンズヘルス援助演習		

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	小児発達援助演習（Pediatric Nursing：Assessment & Skills）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	大門明美・吉田裕子・大脇淳子								
履 修 条 件	前提科目	小児の健康障害、小児発達援助論の単位を取得していること。							
	そ の 他								
授業概要： 小児看護の対象は子どもと家族である。これまでに学んだ小児期の対象の捉え方、小児期の健康障害の基礎知識を活用し、成育医療・成育看護の観点からロールプレイやシミュレーション学習等を取り入れた演習により、様々な状況におかれた小児と家族に対する小児看護の倫理的態度を養いつつ、対象の健康回復や成長・発達への影響を最小にするためのアプローチの方法を学ぶ。									
授業目標： 1. 健康障害や入院による子どもと家族への影響について学び、倫理に基づいた援助の必要性を説明する。 2. 健康障害により様々な状況にある子どもと家族について学び、成長・発達に応じた小児看護の特徴を説明する。 3. 小児特有の健康障害を持つ小児と家族の健康レベルに応じた看護に必要な知識（社会資源等含む）を説明する。 4. 技術演習を通して、基本となる小児の看護技術および小児特有の看護技術を修得する。 5. 事例を通して小児看護過程の基本を修得する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1・2	ガイダンス 健康障害をもつ子どもと家族の看護、入院環境 ※演習オリエンテーション、演習ノート配付					事前：ガイダンスを読む 事後：講義内容の復習		講 義 （T1）	大脇
	病気や入院に対する子どもと家族の理解と看護 痛みを伴う子どもの看護					事前：子どもの入院環境・認知的発達について調べる 事後：講義内容の復習		講 義 （T1・2）	大脇
3・4	子どものコミュニケーションとIC・プレバレーション・入院中の遊びと学習					事前：子どもの権利、倫理的配慮について調べる		講 義 （T1・2） 技術	吉田
	乳児期：急性症状のある小児と家族の看護 事例：【急性胃腸炎】対象年齢 7か月 1. 急性胃腸炎（下痢・嘔吐症状）の病態、脱水のアセスメント 2. 小児特有の看護技術 ・フィジカルアセスメントⅠ：身体計測 ・発育評価 ・日常生活援助技術：清潔行動（臀部浴）					事前：演習ノートの事前課題を行う（予習学習） 事後：講義内容の復習		講 義 （T1・2） 技術	大門
5・6	演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）]					事前：演習ノートの事前課題を行う（予習学習） 事後：事例の課題をまとめる ★演習ノート課題提出		演 習 （T1・2） 技術	大門 吉田 大脇
	小児特有の看護技術 ・清潔行動（沐浴（臀部の清潔）＊下痢時の観察 ・オムツ交換、衣服の着脱 ・身体計測・成長・発達の評価（乳児期） ・授乳方法、離乳食								
7・8	幼児前期：急性症状のある小児と家族 事例：【川崎病】急性期 対象年齢：1歳4か月 1. 川崎病の病態、アセスメント、川崎病急性期にある子どもと家族の看護 2. 小児特有の看護技術 ・フィジカルアセスメントⅡ：バイタルサイン測定 ・基本技術：安全・安楽な環境の調整、点滴管理					事前：演習ノートの事前課題を行う（予習学習） 事後：講義内容の復習		講 義 （T1・2）	吉田
	演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）]					事前：演習ノートの事前課題を行う（予習学習） 事後：事後課題のまとめ、ケア計画立案 ★演習ノート課題提出		演 習 （T1・2） 技術	吉田 大門 大脇
9・10	小児特有の看護技術演習 ・バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント ・安全・安楽な環境の調整（環境整備） ・点滴管理（観察、滴下数の計算、溶解方法）								
11・12	小児看護過程の展開 幼児後期：呼吸困難のある子どもと家族の看護 事例：【気管支喘息】急性期 対象年齢 4歳 1. 基礎的知識の確認：成長・発達の特徴、病態（重症度）、検査・治療 2. 必要な情報の整理：情報収集（DVD活用）					事前：演習ノートの事前課題を行う（予習学習） 事後：講義内容の復習		講 義 （T1・2） 技術	大門
13・14	呼吸困難のある子どもと家族に必要な援助①（事例展開） 1. 患児の成長・発達の特徴をふまえた情報の分析・アセスメント、看護の方向性 ・3側面（身体的側・成長・発達・社会的側面（家族への影響） 2. 看護問題の明確化					事前：必要な情報を整理する 事後：3側面についてアセスメントする		講義 （T1・2） GW	大門
15・16	呼吸困難のある幼児期の子どもと家族に必要な援助②（事例展開） 1. 看護計画立案 ・看護目標、問題点、期待される結果、援助項目					事前：アセスメントし問題点を明らかにする 事後：アセスメントの追加・修正、看護計画を立案		講義 （T1・2） GW	大門

17・18	呼吸困難のある幼児期の子どもと家族に必要な援助③（事例展開） 1. ケア計画の立案 1) フィジカルアセスメント：事例をもとにしたバイタルサイン測定 2) 安楽に呼吸ができるための援助：吸入、酸素療法 *ブレパレーション含む	個々の学習をもとに、グループ間でケア計画を検討 発表に向けた準備	GW (T1・2) 技術	大門
19・20	演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）] シミュレーション学習（ロールプレイ）発表 ①適切に状態を把握するための（フィジカルアセスメント：バイタルサイン測定） ②安楽に呼吸ができるための援助（吸入、酸素療法）	事前：発表時の役割について 各自が責任をもって取り組む 事後：演習の振り返り 演習ノートの事後課題のまとめ ★演習ノート課題提出	講義 (T1・2) 技術	吉田 大門 大脇
21～23	学童期：慢性の経過をたどる子どもと家族の看護 事例：【ネフローゼ症候群】回復期 対象年齢：8歳 1. 基礎的知識の確認：ネフローゼ症候群の病態、治療、患児の成長・発達の特徴 2. 成人期移行とアドヒアランス向上にむけた患者教育	事前：演習ノートの事前課題を行う（予習学習） 事後：講義内容の復習	講義 (T1・2)	吉田
	成人期移行とアドヒアランス向上にむけた患者教育 ・退院後の生活に向けた指導案の作成 *発表に向けての準備	個々の学習をもとに、グループ間でケア計画を検討 発表に向けた準備	GW (T1・2) 技術	吉田
24・25	演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）] 成人期移行とアドヒアランス向上にむけた患者教育 ロールプレイ演習 ・事例の退院指導について作成したものをを用いて演習（ロールプレイ）	事前：発表時の役割をグループ間で決めて、各自が責任をもって取り組む 事後：演習後の振り返り 演習ノートの事後課題まとめ ★演習ノート課題提出	講義 (T1・2) 技術	吉田 大門 大脇
26・27	災害時の子どもと家族の看護	事前：テキストを一読しておく 事後：講義内容の復習	講義 (T1・2) 技術	大門
	生命危機状態にある小児と看護	事前：小児のBLS・気道異物除去について調べる 事後：講義内容の復習	講義 (T1・2) 技術	吉田
28～30	未熟な状態で誕生した子どもと家族の看護 【低出生体重児】	事前：NICU・ディベロップメンタルケアについて調べる 事後：講義内容の復習	講義 (T1・2)	大脇
	地域で生活する医療的ケアが必要な子どもと家族の看護 【障害児・医療的ケア児】	事前：障害児・医療的ケア児について調べる 事後：講義内容の復習	講義 (T1・2)	大脇
	成人移行期にある子どもと家族の看護	事前：慢性経過…看護を一読 事後：講義内容の復習	講義 (T1・2)	大脇
教本： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院(T1) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院(T2) 3. 根拠と事故防止からみた小児看護技術、浅野みどり編集 医学書院 ※授業形態の欄に、授業・演習で使用するテキストNoを、(T1、T2、技術)の様 に示す				
参考文献： 1. 病気の子どもへのブレパレーション、及川郁子・田代弘子編集、中央法規 2. 写真でわかる小児看護技術 改訂版第3版、山元恵子監修、インターメディア ※その他は随時提示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、事前・事後課題（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。				
学生へのアドバイス： 既習の知識を整理して主体的に学んでください。そのために、 事前学習の内容をよく読み早めに取り組ましましょう 。この科目では、様々な状態にある子どもと家族の看護を、特に小児特有の症状や疾患の事例を通して講義、ロールプレイ、演習を取り入れながら学びます。段階を追って積み重ねる構成になっていますので、「小児の健康障害」の授業資料を活用して事前学習した上で同資料を常に持参してください。また「 小児発達援助演習ノート 」は 実習の準備学習ともなるものです。大切に学習を積み重ねていってください 。				

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	成人発達援助演習Ⅱ（慢性期・終末期）（Adult Health Nursing：Assessment & SkillsⅡ）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	川畑貴美子・下村晃子（嶋野ひさ子）・佐藤京子・阿部ケエ子・川原理香・山本貴子・藤井加奈子								
履 修 条 件	前提科目	病態学総論、健康障害 A・B、運動器系の健康障害、成人発達援助論、成人発達援助演習Ⅰを修得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 成人期に起こりやすい健康問題、疾患や障害のうち、長期慢性的経過をたどり、さまざまな点で生活上のサポートや生涯にわたって生活のコントロールを必要とする対象への看護を学ぶ。国民の死因統計上の課題となる疾患、慢性難治性疾患、あるいは事故などにより身体機能を喪失した対象の個性に応じた援助方法（援助技術含む）、生活上の問題解決、病気の認知と受容過程、セルフケア能力を高める援助、家族へのサポート、社会的支援システムなどについて学修する。 終末期についてはがんをとりあげ、積極的な医学的治療が難しいと考えられる時期にあっても、がんの疼痛緩和などケアによって、終末期の充実した生活のありかたについて学修する。人間の根源的苦悩と向き合い、自己の状況の受容過程、その状況の中で積極的に生きることに向き合うケアの方法と、援助する側の人間としてのあり方について学ぶ。									
授業目標： 1. 慢性疾患をもつ患者、がんの終末期にある患者、身体機能を喪失した患者とその家族の生活状況と心理状態を説明できる。 2. 慢性疾患をもつ患者、がんの終末期にある患者、身体機能を喪失した患者とその家族に対する看護の必要性を説明できる。 3. 慢性疾患をもつ患者、がんの終末期にある患者、身体機能を喪失した患者とその家族に対する看護ケアと社会支援システムを説明できる。 4. 慢性疾患をもつ患者に必要な看護技術を習得する。 5. 慢性疾患をもつ患者とその家族を対象にした看護過程を展開できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	導入：慢性期の概念と看護の特徴、慢性疾患をもちながらの生活と慢性期のケアとは 1）慢性期疾患と機能障害 2）セルフケアマネジメント能力を高める方法					事前：慢性期看護と患者の特徴について、テキストを精読し、準備して臨む 事後：授業内容のまとめ		講義	下村
2									
3	呼吸器機能障害の看護ケア： 慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺炎、気管支喘息／呼吸方法、酸素療法、酸素化に必要なケア、日常生活・在宅療養への支援					事前：呼吸器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：授業内容のまとめ		講義	山本
4	脳神経系 脳梗塞患者の看護ケア 脳神経系の観察、随伴症状を伴うケア、回復過程に向けた看護の方向性					脳神経系の病態を理解して説明できるように準備する 事後：授業内容のまとめ		講義	下村
5	事例演習 1：看護過程の展開 （ミニ講座）事例①の説明 事例②の説明 事例①COPDと②脳梗塞 グループワーク 1. 情報の整理 2. アセスメント（分析・解釈・統合）					事前：事例①②患者の理解に必要な知識を学習して臨む 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
6									
7									
8	腎・泌尿器機能障害の看護ケア： 腎不全／透析、シャントの管理、薬物療法、食事療法					事前：腎排泄機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：授業内容のまとめ		講義	川原
9	感覚機能障害を有する人へのケア： 特発性難聴、メニエール病／ 感覚機能障害の種類、生活に及ぼす影響					事前：感覚器機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：授業内容のまとめ			
10	事例演習 2：看護過程の展開 事例①COPDと②脳梗塞・グループワーク 3. アセスメント（分析・解釈・統合） 4. 看護上の問題抽出（看護診断）					事前：事例①②患者の理解に必要な知識を学習して臨む 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
11									
12	循環器機能障害の看護ケア： 不整脈、冠動脈疾患（狭心症）、心不全 高血圧／ペースメーカー、薬物療法、食事療法、心臓リハビリテーション					事前：循環器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：授業内容のまとめ		講義	阿部
13	代謝機能障害の看護ケア：糖尿病、脂質異常症 ・食事療法 ・運動療法 ・薬物療法					事前：代謝機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：自己の食生活記録の実施		講義	佐藤
14	技術演習①： ・血糖測定 ・インスリン自己注射 ・学生自身の食生活記録の解釈					事前：糖尿病の看護のワークブックを学習する 事後：ワークブック追加修正		実技演習	全員
15									

16	事例演習 3：①COPDと②脳梗塞・グループワーク 5. 関連図作成 6. 看護計画の立案、発表準備	看護過程の展開が理解できるように準備する。グループワークを通して理解する。 事後：課題レポート提出	事例演習	全員
17				
18	栄養摂取・消化器機能障害者の看護ケア： 消化管・肝臓疾患等／薬物療法、食事療法	事前：消化器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：授業内容のまとめ	講義	川原
19				
20	技術演習②： ・輸液管理（輸液ポンプ、シリンジポンプ） ・ベッドサイドモニターの取り扱い	事前：輸液管理とモニターのワークブックを学習する 事後：ワークブック追加修正	実技演習	全員
21				
22	事例演習 4：①COPDと②脳梗塞・グループワーク 7. 発表準備と発表（グループ毎） 8. まとめ	看護過程の展開が理解できるように準備する。グループワークを通して理解する。 事後：課題レポート提出	事例演習	全員
23				
24				
25	血液・免疫系機能障害の看護ケア： 白血病、膠原病／薬物療法、輸血療法、移植療法、放射線療法、感染症の予防	事前：造血機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：授業内容のまとめ	講義	川畑
26				
27	脳神経機能障害と神経難病患者の看護ケア：脳梗塞 パーキンソン病 ALS、MG／薬物療法、在宅リハビリテーション、コミュニケーション方法の演習	事前：神経難病の病態を理解して参加する。 事後：課題レポート	実技演習	ゲストスピーカー
28				
29	がん患者のケア：身体的・心理的苦痛と苦痛緩和のための看護と治療に伴う看護、緩和ケアとリハビリテーション	事前：がん疾患や治療の知識を確認して、がん患者の特徴についてテキストを精読し説明できるように準備する。 事後：がんの病名告知を考える。	講義	川畑
30	終末期の看護ケア：補完代替療法、死後のケア、家族ケア ＊成人期の慢性期・終末期看護のまとめ			
教本： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1～15〕 医学書院 2. 慢性期看護論 ヌーヴェルヒロカワ 3. NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 原書第12版 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 がん看護学（医学書院、東京）		参考文献： 1. 成人看護学 慢性期看護 南江堂 2. 実践に役立つ看護過程と看護診断ーヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開ー ヌーヴェルヒロカワ 3. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 5. 緩和・ターミナルケア看護論 ヌーヴェルヒロカワ その他は随時提示する。		
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（5％）、レポート・事例記録物等（15％）、定期試験（80％）等で総合的に評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。				
学生へのアドバイス： 予習復習を必ず行うことにより知識・技術の必要性を熟知でき、成人看護の演習で自らの進歩に結びつける。 講義と演習には積極的に参加すること。				

開 講 年 次	3 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	精神看護援助演習（Mental Health Nursing : Assessment & Skills）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	小野坂益成・川下貴士・丸山昭子								
履 修 条 件	前提科目	精神看護援助論の単位を取得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 精神疾患を抱える対象者を、身体的および心理社会的側面を含めた全体的存在として捉えた上で、人権擁護の観点から、生活の質の向上と自己実現を促す精神看護援助過程を理解することを目的とする。精神疾患の特徴とその看護を知識として学んだ上で、セルフケア理論に基づいた看護過程を事例展開し、看護の方向性や看護計画を立案する。また、自らのコミュニケーションの傾向を把握し、対人関係について振り返ることで精神障害者と接する上での基盤とする。さらに、地域で生活する精神障害者の理解として、社会資源の活用や多職種の役割・連携について学ぶ。									
授業目標： 1. 精神障害をもつ人の身体・心理・社会的側面を述べることができる。 2. 精神疾患の特徴と治療および看護について説明できる。 3. 精神障害をもつ人の人権と安全を守るための看護について述べることができる。 4. 自分のコミュニケーションの傾向を把握し、振り返ることができる。 5. 精神看護の看護過程を理解し、事例を通してグループで看護の方向性をまとめることができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	ガイダンス 脳の仕組みと精神機能			事前：脳の解剖生理を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義	小野坂 川下 丸山	
2	精神疾患の基礎知識			事前：テキストの該当ページを精読し、精神疾患の原因と分類方法を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
3	統合失調症			事前：テキストの該当ページを精読し、統合失調症の原因・症状を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
4	統合失調症とその看護			事前：MSEについて復習し13項目を説明できるように準備する。 事後：復習課題の作成			講義		
5	気分障害			事前：テキストの該当ページを精読し、気分障害の原因・症状を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
6	気分障害とその看護			事前：統合失調症の授業でのMSE実施を振り返り、気分障害患者の事例にも適合できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
7	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害とその看護			事前：テキストの該当ページを精読し、神経症性障害の分類と症状、およびストレスについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
8	生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群			事前：テキストの該当ページを精読し、生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群の分類と症状が説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
9	成人のパーソナリティ・行動の障害とその看護			事前：既習の心理学で学習したパーソナリティとはどのようなものかを説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
10	器質性精神障害とその看護			事前：既習の病態学で学習した脳の機能・解剖生理について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
11	知的障害、心理的発達障害、児童期の行動・情緒の障害とその看護			事前：乳幼児期・学童期の発達段階について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
12	精神作用物質使用による精神・行動の障害とその看護			事前：精神作用物質について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
13	多職種によるチーム医療（リエゾン精神看護専門看護師）			事前：精神科におけるチーム医療について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
14	精神科における薬物療法			事前：精神科で使用される薬について、既習の薬理学をもとに説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		
15	精神療法・医学的検査と心理検査			事前：精神看護援助論で学習した意識・無意識についての復習と、人の性格パターンについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成			講義		

16	社会療法・精神科リハビリテーション	事前：精神科リハビリテーションについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習	小野坂 川下 丸山
17	地域精神保健活動における社会資源の活用	事前：精神科における地域医療・福祉について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義	
18	精神科における安全管理と入院環境	事前：精神科におけるリスクマネジメントについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義 演習	
19	援助関係の構築（患者－看護師関係）・プロセスレコード	事前：患者－看護師関係について、テキストの該当ページを精読し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義 演習	
20	プロセスレコードの活用	事前：プロセスレコードの実施方法について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習	
21	精神看護の看護過程(1) セルフケア理論の概要	事前：オレム・アンダーウッドのセルフケア理論について、テキストの該当ページを精読し、説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義 演習	
22	精神看護の看護過程(2) 情報収集・アセスメント・関連図・ケアプラン立案・評価について	事前：看護過程の必要性と一連の流れを説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習	
23	精神看護の看護過程(3) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：統合失調症の病態・治療、および看護について復習し、事例における看護過程が展開できるように準備して、グループワークに臨む。 事後：課題レポートの作成	演習	
24	精神看護の看護過程(4) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習	
25	精神看護の看護過程(5) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習	
26	精神看護の看護過程(6) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習	
27	精神看護の看護過程(7) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習	
28	精神看護の看護過程(8) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習	
29	グループ演習の発表	事前：グループワークの成果が他者に伝わるように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習	
30	グループ演習の発表 まとめ	事前：グループワークの成果が他者に伝わるように準備して臨む。 事後：これまでの講義資料を見直し、定期試験の準備をする。	演習	
教本：参考文獻： 1. 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 参考文献は、随時提示する。 2. 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10％）、復習課題（10％）、看護過程に関するグループワークの発表および個人の課題レポート等（20％）、定期試験（60％）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。				
学生へのアドバイス： 精神看護援助論の講義内容を適宜用いますので、その時使用したテキストや講義プリントを復習時に連動させて見直す習慣をつけるようにしてください。				

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	災害時精神的援助論（Disaster mental health and care）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	丸山昭子・小野坂益成・川下貴士								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 災害では、さまざまな原因によって多くの人の命や安全が脅かされ、災害に遭遇した人は身体的・精神的・社会的影響を受け、状況的危機に陥る。この授業では、それらの影響をふまえ、災害によって危機に直面した人への具体的な心のケアについて学ぶ。また、支援者側のメンタルヘルスについても検討する。									
授業目標： 1. 災害時における心のケアの必要性を説明できる。 2. 災害がもたらす身体的・精神的・社会的影響について説明できる。。 3. 災害派遣精神医療チームの活動について述べることができる。 4. 被災者を支援する側のメンタルヘルスについて検討できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	オリエンテーション 災害時における心のケアの必要性			事前：災害時における心のケアの必要性について、自分の意見を述べるできるように準備する。 事後：復習課題の作成			講義 グループワーク	丸山 小野坂 川下	
2	災害時の心のケアにおける個人とコミュニティ			事前：災害時の心のケアとして、個人とコミュニティの視点で述べるできるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
3	災害弱者と人権問題			事前：災害弱者について述べるできるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
4	災害派遣精神医療チーム（DPAT）の活動			事前：DPATについて述べるできるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
5	災害時の心理			事前：災害時の心理について、精神看護援助論（2年次）の授業資料を復習し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
6	サイコロジカルファーストエイド			事前：サイコロジカルファーストエイドについて、精神看護援助論（2年次）の授業資料を復習し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
7	支援者のメンタルヘルスとケア			事前：支援者のメンタルヘルスとケアについて自分の考えを述べるできるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
8	まとめ			事前：これまでの授業資料を見直し、疑問点や不明な点を明確にして授業に臨む。 事後：定期試験に向けての準備をする。					
教本： プリントを配布する。				参考文献： 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 （2年次購入済み）					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10％）、復習課題等（20％）、定期試験（70％）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 災害は、誰にでも突発的に起こりうるリスクがあります。災害は、人の心にどのような影響を及ぼすのか、どのような援助が必要なのか、また支援者の心のケアはどのようにすべきなのか、授業を通して受講者全員で考えてみましょう。									

開 講 年 次	3 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	看護研究方法論 (Research Method for Contemporary Nursing Research)							科目分類	専門分野	
担 当 教 員	大脇淳子・丸山昭子・大門明美・川下貴士									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	なし								
授業概要： 看護学研究の動向および研究方法～論文作成のプロセスを概説する。本授業の目的は看護研究の方法論の特徴を理解し、一つの研究的問いに対し関心を傾けて探求する基礎的能力を養い、研究方法の一連の過程を学ぶことである。また、内容と方法は、研究論文の種類と文献探索、研究計画書、研究手順、研究のまとめ方、研究発表等について演習を交えて学修する。										
授業目標： 1. 看護研究の特徴を説明する。 2. 看護研究における倫理について説明する。 3. 看護研究の進め方を説明できる。 4. 研究課題に関する文献検索・文献検討する。 5. 研究計画書を作成する。 6. 研究論文のまとめ方を説明する。										
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	オリエンテーション、看護研究とは				事前：第1・2・終章の予習 事後：看護研究とは何かを復習			講義	大脇	
2	研究デザイン、研究の倫理				事前：第4・5章の予習 事後：看護研究の倫理・デザインを復習			講義		
3	量的研究の特徴				事前：第5章（量的研究出デザイン）を予習 事後：量的研究の復習			講義	丸山	
4	研究課題と文献検索(1)：量的研究				事前：第3・5章（量的研究出デザイン）を予習 事後：リサーチクエスション・文献検索の復習			講義 演習		
5	文献クリティーク(1)				事前：第3章の予習 事後：文献クリティークの復習			演習		
6	質的研究の特徴				事前：第3・5（質的研究デザイン）を予習 事後：質的研究の復習			講義	大脇	
7	研究課題と文献検索(2)：質的研究				事前：第2・3・5章（質的研究デザイン）を予習 事後：リサーチクエスション・文献検索の復習			講義 演習		
8	文献クリティーク(2)				事前：第3章の予習 事後：文献クリティークの復習			演習		
9	研究計画書の作成(1)				事前：第8章の予習 事後：ワークの復習			講義 演習	大脇・丸山・ 大門・川下	
10	研究計画書の作成(2)				事前：ワークの予習 事後：ワークの復習			演習		
11	研究計画書の作成(3)				事前：ワークの予習 事後：ワークの復習			演習		
12	研究計画書の作成(4) ※終了時課題の提出				事前：ワークの継続 事後：研究計画書の復習			演習		
13	研究論文のまとめ方(1)：研究背景と研究目的				事前：第9章の予習：背景と目的 事後：課題：研究計画書の提出			講義	大脇	
14	研究論文のまとめ方(2)：研究方法・結果・考察・結論・限界				事前：第9・12章の予習：研究方法～結論（まとめ） 事後：研究方法～まとめの復習			講義		
15	文献研究の進め方				事前：第9章の予習 事後：文献研究の復習			講義	大脇・丸山	
教本： 1. 坂下玲子他：看護研究 系統看護学講座 別巻 第1版（最新版を）、医学書院										参考文献： 随時提示する。
成績評価の方法、評価基準： 授業・演習への参加状況等（40％）、課題等（60％）で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 皆さんにとって初めての看護研究ですので、わかりやすい講義を心がけます。研究は自分でやってみないと学べない分野ですので、ワークなど演習形式により、学生間で学びを共有しながら最終的に自身の研究への関心と探求するための看護研究の基礎的能力を養います。保健衛生統計学の知識も導入しますので、関連させながら授業に臨みましょう。										

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	健康教育論 (Introduction to Health Education)							科目分類	専門分野
担 当 教 員	渡部月子・望月麻衣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 看護師の教育的役割機能には、一次予防、二次予防、三次予防のための教育がある。この講義では、わが国の衛生を取り巻く状況を理解したうえで、様々な対象の健康段階に応じて活用できるように、教育・学修の機能とプログラムについて、基本的な理論と実践について学修する。									
授業目標： 1. 健康教育の目的・内容・方法について述べることができる。 2. 健康教育の対象となる人たちの①知識の修得と理解 ②態度の変容 ③行動の変容を図る方法を関連づけて健康教育を実践できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	オリエンテーション 健康教育の理念（患者教育の考え方）				事前：シラバス内容の確認 事後：患者教育の考え方について復習		講義	渡部	
2	健康教育に関する諸理論				事前：「保健行動と行動変容理論」を調査 事後：健康教育に関連する理論について復習		講義	望月	
3	健康教育の方法と教材				事前：健康教育の方法について調査 事後：健康教育の方法と媒体について復習		講義	渡部	
4	健康教育計画の企画、実施と評価				事前：作成する企画書案の作成 事後：企画書の作成		講義 演習	渡部	
5・6	健康教育の企画書・指導案・教材の作成 健康教育の媒体作成				事前：健康教育の教材の準備 事後：健康教育の教材作成 プレゼンテーションの準備		演習	渡部 望月	
7・8	健康教育の発表と評価 まとめ				事前：プレゼンテーションの練習 事後：授業のまとめ		講義 演習	渡部 望月	
教本： プリントを配布する					参考文献： 随時提示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、企画書・教材・発表（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 「健康教育論」は、健康の保持・増進、疾病の予防、早期発見・早期治療、治癒、社会生活の回復のすべて場面での健康教育について学ぶ授業です。看護師にとって必要なことは、保健・医療の専門家としての誇りと責任感をもち、患者の一番身近にいる相談相手であり健康教育者であるということを忘れずに進めることです。学ぶ内容は幅広くあるので、じっくりと学んでほしい。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	生殖・周産期看護ケア実践（Reproductive and perinatal nursing : Practicum）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	和田佳子・増山利華・箭内彩也佳								
履 修 条 件	前提科目	リプロダクティブ・ヘルス援助論、リプロダクティブ・ヘルス援助演習を履修していること。							
	そ の 他	ツベルクリン検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに、11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも実習条件として追加される。							
授業概要： 学んだ知識・技術を統合し、根拠に基づいた個別性のある看護実践を展開する。主な対象は、周産期にある妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族で、情報のアセスメント、看護計画を立案、看護援助の実践、評価の連続した過程を学ぶ。また、地域社会での母子支援を含めて次世代を育成するための看護や自らの性、家族の意義についても考える機会とする。									
授業目標： 1. 周産期にある妊・産・褥婦および新生児の健康状態をアセスメントして必要な看護を説明できる。 2. 母子相互作用を理解し、父母の協働や子どもの発育に必要な家族の機能や発達への支援を説明できる。 3. 母児の継続看護及び家族を含めた指導の必要性を説明できる。 4. 地域社会での母子支援の必要性を説明できる。 5. 実習を通して家族の機能について考え、自己の母性観・父性観を深めることができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		担 当	
1 週目 5 日間	初日：学内オリエンテーション、看護技術演習 助産院 環境整備、妊婦健康診査、分娩・産後ケア、母乳外来、育児支援等の見学 学内 妊娠期の看護診断、妊婦健康診査の実施、妊娠期の看護実践計画、保健指導案作成／実施					「生殖・周産期看護ケア実践実習手引き」参照		和田 他 ※実習施設ごとに分け指導する。	
2 週目 5 日間	母児の看護実践 周産期にある母児を受け持ち、看護過程の展開をする 看護計画に基づき、看護を実践する ＊一部実践もしくは見学の場合もある その他 機会を得ることができれば、妊娠期の看護、分娩期の看護、帝王切開時の看護を実践する 最終日：実習のまとめ、報告会								
教本： リプロダクティブ・ヘルス援助論、リプロダクティブ・ヘルス援助演習等で使用したテキスト						参考文献： 随時提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 看護過程の実践（看護計画・技術・看護記録を含む実践）、保健指導の立案等、実習態度および実習姿勢（実習の準備・事前学習、課題への取り組み、カンファレンスへの参加態度、報告・連絡・相談等の基本的態度等）により評価する。 ＊実習オリエンテーションや学内学習も評価対象とする。 ＊実習の準備・学習課題は、臨地実習ガイダンスにて配布する資料を参照する。実習初日のオリエンテーションで生殖・周産期ケアに関する基礎知識の確認テストを行う。									
学生へのアドバイス： 生殖・周産期看護ケア実践の実習では看護過程の展開が速いため、事前学習、準備を十分にして実習に臨んでください。欠席のないように健康管理に気をつけましょう。									
2019年以前入学者科目名称				母性看護学実習					

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	小児看護ケア実践（Introduction to Pediatric Nursing : Practicum）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	大脇淳子・大門明美・吉田裕子								
履 修 条 件	前提科目	小児の健康障害、小児発達援助論、小児発達援助演習、基礎看護ケア実践Ⅰ・Ⅱの単位を取得していること。							
	そ の 他	IGRA検査陰性、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で抗体がある、または陰性で予防接種が完了している者。COVID-19、インフルエンザの予防接種を完了していることが望ましい。							
授業概要： 本科目は、健康な子どもの看護と健康障害をもつ小児の看護で構成する。まず、健康な子どもの成長・発達過程の実際と健やかな成長・発達の促進に向けた発達支援の実際を学修する。次に健康障害により療養生活を送る小児と家族を受け持ち、対象の健康レベルや発達段階に応じた身体的側面、成長・発達の側面、社会的側面への影響を分析し、成育看護の観点からその影響を最小にするための看護実践を通して、自己の小児看護観を育む。									
授業目標： 1. 小児各期の成長・発達と生活行動の特徴を理解し、健やかな成長・発達の促進する看護を実践する。 2. 健康障害や療養生活が小児と家族（きょうだいを含む）に及ぼす影響を分析する。 3. 健康障害のある小児と家族を看護の対象と捉え、小児の健康回復と成長・発達を促進する看護を実践する。 4. 子どもの権利擁護と小児看護の倫理に基づく看護を学ぶ学生として責任ある行動をとる。 5. 成育看護を見据えた多職種との連携・協働における看護の役割について考える。 6. 成長・発達や健康レベルに応じた子どもと家族（きょうだいを含む）との関わりを通して対象への理解を深め、倫理に基づく小児看護観を育む。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			担 当
5 日間	健康な子どもの発達支援実習：1 単位 【実習施設】 松蔭幼稚園 【実習方法】 初日ガイダンス。2～4 日目は幼稚園で年齢の異なるクラスで実習する。5 日目は学内で実習報告会を行う。 【実習内容】 幼稚園では、成長・発達段階の異なる幼児クラスで集団生活を送る健康な幼児の成長・発達の特徴と発育支援の実際を学ぶ。 ※詳細は「小児看護ケア実践要領」参照					【事前】 ①小児各期（特に幼児期）の成長・発達の特徴 ②発育・発達評価および生活行動を促進する看護（発育支援）方法 【事後】 健康な子どもの発達支援実習の学びのレポート			大脇 大門 吉田
5 日間	健康障害のある小児と家族の看護実習：1 単位 【実習施設】 厚木市立病院・伊勢原協同病院・平塚市民病院・海老名総合病院・東海大学医学部付属病院 【実習方法】 実習 1 日目～4 日目は病棟実習、5 日目は学内で小児病棟実習のまとめを行う。 【実習内容】 健康障害のある小児と家族 1 名受け持ち、健康レベルや発達段階に応じた看護を実践する。 ※詳細は「小児期の看護ケア実践要領」参照					【事前】 ①小児各期の成長・発達の特徴 ②健康な子どもの発達支援実習②と同様 ③小児に特有な疾患の病態生理・検査・治療・処置・看護 ④小児期の予防接種、事故防止 ⑤他職種との連携と協働、看護の役割 【事後】 健康障害のある小児と家族の看護ケア実践の学びのレポート			
実習方法 1）1 グループ3－5 名程度で 2 週間実習する。（別紙 領域看護ケア実践の学生配置表参照） 2）実習開始直前に実習施設別オリエンテーションおよび看護過程の復習と事例に基づく小児看護技術演習を実施する。									
教本： 小児発達援助論、小児発達援助演習、健康障害 C で使用したテキスト					参考文献： 小児期の看護関連科目の講義レジュメ、その他、随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 実習態度（30％）、援助の実際（40％）、実習課題レポート・記録物（30％）等、別途定める小児期の看護ケア実践評価基準に準ずる。									
学生へのアドバイス： 1）健康障害 C、小児発達援助論、小児発達援助演習で学修した知識・技術を活用した実習になります。 まずは、対象となる子どもと接して関係性を築くことから始めましょう。 2）感染症に罹患した（疑い含む）場合は実習を中断する場合があるので、実習前 2 週間、実習中の自己の健康管理および行動には十分注意しましょう。 また、実習後 2 週間も健康管理、行動を記録し、異常があれば必ず報告しましょう。									
2019年以前入学者科目名称				小児看護学実習					

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	3	時 間 数	135	授業形態	実習
授業科目(英文)	急性期・回復期看護ケア実践（Adult Health Nursing：Practicum I）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	佐藤京子・下村晃子・川原理香・阿部ケエ子・山本貴子・藤井加奈子・川畑貴美子・（嶋野ひさ子）								
履 修 条 件	前提科目	成人発達援助論、成人発達援助演習Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学ケア実践Ⅰ・Ⅱを履修していること。他、必要な科目を履修していること。							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性であること、または予防接種が完了していること。予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。11月以降の実習においては、インフルエンザの予防接種を受けていることも実習条件として追加される。							
授業概要： 成人期や老年期の急性期・回復期、特に周手術期にある対象と援助の人間関係を形成する。 対象の疾病の成り立ちと回復を促進する根拠となる知識と技術を身につけ、健康レベルの改善、QOLの向上を目指す看護を実践する。看護過程の展開に沿って対象者のニーズに合わせた看護計画を立案し実践・評価できる能力を養う。実習を通して自己の看護観について考える機会とする。									
授業目標： 1．成人期および老年期の対象の特徴とそれぞれの健康特性を、身体・心理・社会・スピリチュアルの各側面から理解できる。 2．根拠に基づいて健康上の諸問題を統合的に把握し、看護問題を見いだすことができる。 3．周手術期にある対象および家族に必要な看護が計画できる。 4．計画にそって、療養生活を支援できる。 5．自己の看護実践を客観的に評価することができる。 6．保健医療福祉チームにおける、看護師の役割および多職種の連携が理解できる。 7．看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる。 8．看護に対する自己の考えを振り返ることができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
5 日間	第1日目：学内にて実習オリエンテーションと自己学習 第2日目以降：病棟実習 受け持ち患者の看護計画の立案と看護ケアの実施 病棟カンファレンス					実習事前演習 （基礎看護技術確認）		学内演習	佐藤 京子 下村 晃子 川原 理香 阿部ケエ子 山本 貴子 藤井加奈子 川畑貴美子 （嶋野ひさ子）
5 日間	病棟実習 看護過程に基づいた受け持ち患者への看護ケアの実施 病棟カンファレンス・中間カンファレンス（関連図発表） 第2週目水曜日：学内において個別指導と個人面談（中間） 木・金曜日病棟実習					詳細は「急性期・回復期看護ケア実践要領」参照。 成人発達援助論、看護過程および成人発達援助演習Ⅰの復習。		実習と見学	
5 日間	第13日目まで：病棟実習 受け持ち患者の看護過程の展開と看護ケアの実施 病棟カンファレンス 最終カンファレンス：看護要約と自己の看護観のまとめ 第14・15日目：学内でのまとめと最終個人面談、課題レポート作成								
教本： 成人発達援助論、成人発達援助演習Ⅰ・Ⅱ、健康障害A・B、運動器系の健康障害、小児の健康障害等で使用したテキスト						参考文献： 実習病棟での対象把握に必要な文献は、随時提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 実習への態度・参加状況、実習課題レポート・記録物を評価する。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席を含む。									
学生へのアドバイス： 積極的で真摯な姿勢で実習に取り組むこと。報告・連絡・相談を徹底すること。 言葉遣いや身だしなみ等マナーを守ること。個人情報の順守と守秘義務の徹底 成人発達援助論、成人発達援助演習Ⅰ、健康障害A・B、運動器系の健康障害、小児の健康障害で学習した知識を元に実習を行う。									
2019年以前入学者科目名称			成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）						

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	3	時 間 数	135	授業形態	実習
授業科目(英文)	慢性期・終末期看護ケア実践（Adult Health Nursing：PracticumⅡ）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	下村晃子・佐藤京子・川原理香・阿部ケエ子・山本貴子・藤井加奈子・川畑貴美子・（嶋野ひさ子）								
履 修 条 件	前提科目	成人発達援助論、成人発達援助演習Ⅰ、成人発達援助演習Ⅱ、基礎看護学ケア実践Ⅰ・Ⅱを履修していること。他、必要な科目を履修していること。							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性であること、または予防接種が完了していること。予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。11月以降の実習においては、インフルエンザの予防接種を受けていることも実習条件として追加される。							
授業概要： 成人期や老年期の慢性期・終末期にある対象と、援助の人間関係を形成する。 対象の疾病の成り立ちと回復を促進する根拠となる知識や技術を身につけ、健康レベルの改善、QOLの向上を目指す看護を実践する。慢性疾患を持ち疾病のコントロールを必要とする患者および家族の特徴を理解し、看護過程の展開に沿って対象者のニーズに合わせた看護計画を立案し実践・評価できる能力を養う。実習を通して自己の看護観について考える機会とする。									
授業目標： 1．成人期および老年期の対象の特徴とそれぞれの健康特性を、身体・心理・社会・スピリチュアルの各側面から理解できる。 2．根拠に基づいて健康上の諸問題を統合的に把握し、看護問題を見いだすことができる。 3．対象および家族に必要な看護が計画できる。 4．計画にそって、療養生活を支援できる。 5．自己の看護実践を客観的に評価することができる。 6．保健医療福祉チームにおける、看護師の役割および多職種の連携が理解できる。 7．看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる。 8．看護に対する自己の考えを振り返ることができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
5 日間	第1日目：学内にて実習オリエンテーションと自己学習 第2日目以降：病棟実習 受け持ち患者の看護計画の立案と看護ケアの実施 病棟カンファレンス					実習事前演習 （基礎看護技術確認）		学内演習	下村 晃子 佐藤 京子 川原 理香 阿部ケエ子 山本 貴子 藤井加奈子 川畑貴美子 （嶋野ひさ子）
5 日間	病棟実習 看護過程に基づいた受け持ち患者への看護ケアの実施 病棟カンファレンス・中間カンファレンス（関連図発表） 第2週目水曜日：学内において個別指導と個人面談（中間） 木・金曜日病棟実習					詳細は「慢性期・終末期看護ケア実践要領」参照。 成人発達援助論、看護過程および成人発達援助演習Ⅱの復習。		実習と見学	
5 日間	第13日目まで：病棟実習 受け持ち患者の看護過程の展開と看護ケアの実施 病棟カンファレンス 最終カンファレンス：看護要約と自己の看護観のまとめ 第14・15日目：学内でのまとめと最終個人面談、課題レポート作成								
教本： 1．系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1～11] 医学書院 2．成人看護学 慢性期看護論（第3版）ヌーベルヒロカワ 3．NANDA-I 看護診断 定義と分類 2015—2017原書第10版 医学書院									
参考文献： 実習病棟での対象把握に必要な文献は、随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 実習への態度・参加状況、実習課題レポート・記録物で評価する。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席を含む。									
積極的に真摯な姿勢で実習に取り組むこと。報告・連絡・相談を徹底すること。 言葉遣いや身だしなみ等マナーを守ること。個人情報の順守と守秘義務の徹底 成人発達援助論、成人発達援助演習Ⅱ、健康障害A・B、運動器系の健康障害、小児の健康障害で学習した知識を元に実習を行う。									
2019年以前入学者科目名称			成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）						

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	3	時 間 数	135	授業形態	実習
授業科目(英文)	老年看護ケア実践 I (Gerontological Nursing Care Practicum I)							科目分類	専門分野
担 当 教 員	草地潤子 他								
履 修 条 件	前提科目	老年発達援助論、老年発達援助演習を修得していること							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の各抗体検査陰性で予防接種が完了していること、冬季実習においてはインフルエンザの予防接種を受けていること							
授業概要									
亜急性期病棟・リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟に入院している高齢者が、早急にその方の望み場における生活を実現するための基礎的看護実践能力を涵養する。高齢者が身体的・精神的・社会的に健全な発達・成熟を継続できるように、日常生活行動ならびにヘルスプロモーションに向けた援助方法について学ぶ。またこれらに関わる関連職種の役割について理解を深め、かつ連携の仕方とケア・コーディネーションができる方法について学ぶ。									
授業目標									
1. 病院・施設における高齢者の個別的な環境や成長発達について説明できる。 2. 健康障害を持つ高齢者の病態生理・症状・治療・二次障害・健康段階を説明できる。 3. 高齢者の疾病に伴う心理状態や入院についての適応状態を説明できる。 4. 高齢者が生活しやすく安全性に配慮した援助ができる。 5. 高齢者の闘病意欲を向上につながる適切な援助ができる。 6. 食事・起居動作・歩行・対話など、基本的な生活動作を観察し、高齢者の可能な身体機能を活用し、日常生活能力を維持・向上するための援助ができる。 7. 介護老人保健施設の理念および機能ならびに役割が理解できる。 8. 介護老人保健施設における看護の特徴や、専門職チームの中での看護の役割について、考えを深めることができる。 9. 外来に通院しながら療養する高齢者の地域における療養生活について説明できる。 10. 実習を通して自己の高齢者看護観について考えを形成することができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
3 週間	【病院実習】 ・各実習病院のオリエンテーションを受け、1グループ5～6名が2週間で病棟実習を行う。 ・学生は高齢患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。この期間で看護の基盤となる情報を職員や指導者のシャドウイング、記録物および高齢者とのコミュニケーションから把握する。 ・作成したアセスメントをアドバイスを踏まえて修正する。また高齢患者の看護問題について看護計画を立案し実施する。 ・実習指導者とともに受け持ちの看護実践を行う。 ・行った看護援助を評価修正し、高齢者に適した援助を検討していく。 【介護老人保健施設】 ・各実習施設のオリエンテーションを受け、1もしくは2日間、入所高齢者とコミュニケーションを通じ、施設での日常生活について理解を深め、看護師のケア実践を見学する。 【外来・退院支援】 ・各実習病院のオリエンテーションを受け、1日間、高齢者の在宅療養に関する支援の実際を学ぶ。					「老年看護ケア実践 I 要領」参照		実 習	草地 潤子 他
教本： 随時提示する					参考文献： 随時提示する				
実習評価の方法、評価基準 実習への参加状況・情意状態、実習課題レポート・記録物等、別途定める実習評価基準に順ずる。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席も含む。									
学生へのアドバイス ・高齢者のこれまでの生活をふまえ、その方の個別性も含めた支援を考えよう。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	精神看護ケア実践（Mental Health Nursing : Practicum）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	丸山昭子・小野坂益成・川下貴士								
履 修 条 件	前提科目	精神看護援助論、精神看護援助演習の単位を取得していること							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。冬季実習においてはインフルエンザワクチンの接種が条件となる。							
授業概要： 精神疾患を持つ人の入院中から退院支援までの回復の段階に応じた看護を理解し、指導の下に実践する。また、精神障害者の地域生活支援について、多職種と協働する必要性と方法を精神科デイケアや精神科訪問看護、精神科グループホーム等の実習を通して体験的に学ぶ。									
授業目標： 1. 患者との接し方を理解し、対話の実際を通して、治療的な人間関係を保つことができる。 2. 薬物、作業、レクリエーション療法を通して患者に接することができる。 3. 人権の尊重と行動の制限について述べることができる。 4. 院内・院外における生活場面で、患者の安全と事故防止について述べることができる。 5. 障害者理解を通して、自己の考え方を振り返ることができる。 6. 地域で生活する精神障害者を支援する多職種の活動を記述できる。 7. 看護理論の枠組みに沿って、系統的に対象者の情報を整理し、看護の方向性を記述できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			担 当
10日間	詳細は、「精神看護ケア実践要領」参照 実習期間中、4 日間は病棟、2 日間はデイケア、1 日はグループホームまたは精神科訪問看護等で実習する。初日にガイダンスを行い、それぞれの実習の最終日にはまとめ及び個別面接を学内にて行う。					「精神看護ケア実践要領」参照			丸山 小野坂 川下
教本： 精神看護援助論、精神看護援助演習で使用したテキスト									
参考文献： 随時提示する。									
成績評価の方法、評価基準： 実習への参加状況（40％）、実習課題レポート・記録物（60％）等、別途定める実習評価表で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 精神看護援助論、精神看護援助演習で学習した内容を、事前に復習しておいてください。									
2019年以前入学者科目名称			精神看護学実習						

VII シラバス(4年)

VII シラバス(4年)

Ⅶ シラバス(4年)

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	災害・救急時医療と看護（Disaster and Emergency Nursing Management）							科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	吉井信哉・佐藤京子・奈良かな子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 生命が危機に直面する三次救命救急を必要とする状況は、疾患から引き起こされるのみならず、事故や災害によっても起こり得る。ここでは、救命救急処置および看護に必要な基礎知識として、心肺蘇生法とそれらを必要とする病態や救命救急医療システムについて学習する。また、保健医療従事者に必要とされる一次および二次救命救急の技法を、演習を通して習得する。さらに、災害や緊急事態発生時の危機管理と対処方法、トリアージについて实际的に学ぶ。									
授業目標： 1. 災害医療と救急医療の違いを理解しつつ、災害時、急変時など看護師として実際に自ら考え行動が出来るような思考を養う。 2. 災害時（小規模から大規模災害時）に国、県、市町村長がどの様に行動をして災害の対応を行うかを知り、その際にはどのような医療・看護が必要となるのかを理解する。 3. 災害の際の指揮・命令系統、情報伝達を理解し、国県が指導して行っている災害救助チーム（DMAT ¹⁾ 、DPAT ²⁾ 、JMAT ³⁾ 、DMORT ⁴⁾ ）の機能・機構を理解する。 4. 災害時における外傷例を理解する。 5. 災害サイクルの理解と生活支援や災害からの復興や、被災災害地域の保健衛生・健康管理、看護の知識を理解する。 6. 救急医療において基本的な医療現場で用いる意識レベルの評価、熱傷の評価、包帯法やBLS（Basic Life Support：一次救命処置）による演習を行い、実際に評価・実行できるようにする。BLSにおいては事前学習、座学、演習、筆記試験、実技試験を行い、合格者には日本救急医学会認定BLS修了認定証が授与される。 1) Disaster Medical Assistance Team 2) Disaster Psychiatric Assistance Team 3) Japan Medical Association Team 4) Disaster Mortuary Operational Response Team									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	災害看護・救急看護について 看護からみた救急看護と災害看護の違いと災害看護・救急看護の診るべき点をあげ、災害時であればどうするのか、病院での急変時はどうするか学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	佐藤、奈良、吉井
2	災害について、災害医療と災害への準備 (治療面からみた、災害についての理解と災害医療の原則を理解、災害サイクルと災害の準備と看護の役割、災害時の対応について)。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	吉井、奈良、佐藤
3	災害サイクル中期から長期の生活支援、災害地から撤収、回復に係る、被災災害地域の保健衛生・健康管理、看護の知識を学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	奈良、吉井、佐藤
4	災害時・被災下における疾病について 災害時の疾患や被災下における慢性疾患の対処方法などについて。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義・演習	吉井、奈良、佐藤
5	看護だからできる災害者の避難所におけるサポート(1) 看護としての災害者の災害時における生活環境改善やサポートについて学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義・演習	奈良、吉井、佐藤
6	看護だからできる災害者の避難所におけるサポート(2) 看護としての災害者の災害時における生活環境改善やサポートについて学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	奈良、吉井、佐藤
7	災害時・緊急疾患について 災害時に認められる疾患についてDMAT Dr. より症例を踏まえて学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー、 (吉井、奈良、佐藤)
8	DMAT Nurse 災害派遣医療チーム（DMAT）の看護師として災害現場での活動事例もしくはDMAT Nurseとして活躍されている看護師より学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー、 (吉井、奈良、佐藤)
9	DPAT・心のケア・DMORTについて 災害時には急性疾患が注目されるものの、心身的ストレスが災害後に大きな問題になっていることが分かってきた。心的ストレスに対し災害派遣精神医療チーム（DPAT）による患者への対応や、被災者のPost Traumatic Stress Disorder (PTSD) を初めとする精神疾患発症の予防などを支援する専門チームの災害時の働きなどを理解するとともに、DMORT（災害遺族・遺体対応）についても理解をする。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー、 (吉井、奈良、佐藤)
10	熱傷、意識レベルの評価、演習前授業ならびテスト包帯法について 熱傷について学び、成人・小児の熱傷算定方法を学ぶ。 意識レベルの評価：JCS、GCSを中心とした意識レベルの評価。 包帯法の演習前の座学を行う。					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義	吉井、奈良、佐藤

11	止血法・包帯法の実際を学ぶ 三角巾を用いた外傷時の保護方法や活用法を学ぶ	事前：プリント内容の理解、(事前学習は必ず行ってから演習に望むこと) 事後：授業内容の復習	演習	ゲストスピーカー、 吉井、奈良、佐藤
12	BLS・脳卒中の評価、意識レベル評価の知識確認 BLSの座学による授業を行う。そのため理解の確認のため授業時にテストを行う。不合格者はBLS終了認定証の発行は行わない。意識レベルの評価の確認を行う。	事前：プリント内容の理解、(事前学習は必ず行ってから演習に望むこと) 事後：授業内容の復習	演習	吉井、奈良、佐藤
13	BLS (Basic Life Support：一次救命処置) vol. 1 1ブース3～4名の受講生(学生)とインストラクター1名に対し1体の蘇生人形を用いて演習を行う。発見から意識の確認、胸骨圧迫、ポケットマスクやバグバブルマスクを用いた人工呼吸法と、AEDを用いた蘇生を座学、実地を用いて学び、実際に急変時に行えるようインストラクターの指導の下、実練習を行う。	事前：テキスト内容の予習 事後：授業内容の復習	演習	ゲストスピーカー、 吉井、奈良、佐藤
14	BLS (Basic Life Support：一次救命処置) vol. 2 前演習学んだ蘇生方法を引き続き学びつつ、実際に急変時に行えるようにメガコードを用いた合否試験を行う。筆記試験・実技試験合格者には日本救急学会認定BLS終了認定証が授与される。	事前：テキスト内容の予習 事後：授業内容の復習	演習	ゲストスピーカー、 吉井、奈良、佐藤
15	災害や外傷時の歯科医師としての活動と治療について	事前：なし 事後：授業内容の復習	演習	ゲストスピーカー、 吉井、奈良、佐藤
教本： 災害看護学（新体系看護学全書）：辺見 弘（編集）、山西文子（編集）、メジカルフレンド社 松蔭大学BSLコース・コンセンサス：吉井信哉（編集）⇒ 授業の際配布 参考教本： ・災害看護（ナースング・グラフィカー看護の統合と実践3）：酒井明子（編集） ・災害看護―看護の専門知識を統合して実践につなげる（看護学テキストNiCE）：酒井明子（著）、 ・MCLS-CBRNEテキスト-CBRNE現場初期対応の考え方：日本集団災害医学会（監修）、大友康裕（編集） ・JRC蘇生ガイドライン2015： ・DMAT標準テキスト ・改訂第4版日本救急医学会ICLSコースガイドブック：山畑佳篤（著）、小倉真治（監修） その他、随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： ・演習については必修である。 ・授業評価・レポート・その他（包帯法・BLS・避難所のサポート演習を含め）にて評価する。なお、授業参加（出席）は最低条件である。 ・一次救命処置の演習として日本救急医学会認定のBLSコースを開催する。本コースにおいては座学、事前試験、演習／実地試験を行い合格者に認定証を発行する。本コースの不合格者であっても、他の評価にて総合的に単位認定を行うため、BLSコース不合格者であっても単位は不合格とは限らない。BLSコース修了（不合格であっても）他の蘇生シュミレーションコースの受講は可能となる。なお、2年以内に他施設で日本救急医学会BLSコースを受講し認定（プロバイダー）されている場合には本コース受講にて更新とする。しかし、他AHA BLSコース、消防所や運転免許証でBLSコースなどの受講・認定をしていても、本コースの更新とは認められない。本コースを受講・認定試験合格にて初めて認定される。本BLSコースにおいて不合格者は再試験・再実地試験は行わない。なお、学期末試験においては同コースの内容も試験を行う。本BLSコース修了認定後2年以内に日本救急医学会認定BLSコースを受講しアシスタントインストラクターとして指導することが望ましい。				
学生へのアドバイス： ・病院実習にて臨床経験し、実際の医療現場は体験したと思いますが、周知のごとく人の急変は日頃あまり多くはありません。BLSはその遭遇が少ない急変時の対応の1つです。しかし、せっかく修得した知識も半年もすれば低下します。知識の持続はヒトに教えたり、振り返ることにより持続します。これを機に看護師になっても継続してBLSなどのセミナーに参加し知識を継続してください。 ・災害については本授業では概要を中心に話します。これから学生の皆さんが就職する各医療機関・教育機関における災害対策には多くの違いがあります。また、災害は規模や周囲の環境によっても対応が様々です。BLS同様に継続して意識し学ぶよう心掛けてください。				
2019年以前入学者科目名称		災害・救急看護		

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選択・必修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護理論と実践（Nursing Theory and Practice）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	富田 幸江								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 看護理論は看護の見方・考え方の方向性を示し、看護実践の理論的思考に活用されることについて学ぶこととする。また、本科目では、理論についての一般的な概念を学んだあとに、看護理論家による代表的な看護理論を取りあげて学修する。さらに、看護理論における中範囲理論を含め、理論構築の過程など理論学修に必要な概念や、それぞれの看護のメタパラダイムや理論内容について、実習でかかわった事例を含めて学修する。									
授業目標： 1. 理論についての一般的な考え方と看護理論家による代表的な看護理論について説明することができる。 2. 看護理論における中範囲理論を含め、理論構築の過程について説明することができる。 3. 看護の見方・考え方が、看護実践で看護師の理論的思考に活用されていることを説明することができる。 4. 実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることによって、自己の看護観を明確化することができる。 5. 看護学生アイデンティティの確立が看護専門職の成長につながっていくことの意味を説明することができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当
1	・理論の一般的な考え方を基本とした看護理論の考え方 ・看護理論家による代表的な看護理論とその特徴 看護の哲学：ナイチンゲール 近代看護の創始者：ヘンダーソン、ウィーデンバック				事前：看護理論の考え方、看護理論家の看護の考え方の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出			講義	富田
2	・看護理論家による代表的な看護理論とその特徴 ヒューマンケアリングの看護理論： トラベルビ、ペブロー、オレム、ワトソン、ベナー				事前：看護理論家の看護の考え方の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出			講義	富田
3	・看護理論家による代表的な看護理論とその特徴 セルフケア理論：オレム、適応システム理論：ロイ				事前：看護理論家の看護の考え方の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出			講義	富田
4	・看護理論における中範囲理論と理論構築の考え方 ケアリング、アイデンティティ、ストレス対処など				事前：中範囲理論の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出			講義	富田
5	・看護理論が及ぼす看護実践での理論的思考への活用 ・事例検討：実習でかかわった事例を看護理論で意味づけことにより、自己の看護観の明確化を図る。				事前：実習での事例を看護理論で意味づけられるよう、本授業の内容を復習し、授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出			講義	富田
6	事例検討 実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることにより、自己の看護観の明確化を図る。				事前：実習での事例を看護理論で意味づけられるよう、本授業の内容を復習し、授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出			講義 演習	富田
7	事例検討 実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることにより、自己の看護観の明確化を図る。				事前：実習での事例を看護理論で意味づけられるよう、本授業の内容を復習し、授業に臨むこと 事後：課題レポートの提出			講義 演習	富田
8	・看護学生としてのアイデンティティの確立と看護専門職としての成長 ・自己の看護観を明確にすることの意味				事前：本授業で学習した内容を復習し、看護理論の適応と看護の専門性について考え、授業に臨むこと 事後：定期試験に向けての復習			講義	富田
教本： 看護理論 筒井真優美編集 南江堂					参考文献： 「看護覚え書」 F. ナイチンゲール（日本語訳本） その他 随時提示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加態度（欠席、遅刻等含む）・小テスト・課題レポート（30%）、筆記試験（70%） なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 本授業を通して、4年間で学習した看護の考え方を看護理論の学習を通して深め、看護専門職として誇りが持てるよう授業に取り組んで下さい。事例検討では、積極的な討議となるよう期待します。									

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	45	授業形態	実 習
授業科目(英文)	老年看護ケア実践Ⅱ（Gerontological Nursing Care PracticumⅡ）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	草地潤子 他								
履 修 条 件	前提科目	老年発達援助論、老年発達援助演習を修得していること							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の各抗体検査陰性で予防接種が完了していること、冬季実習においてはインフルエンザの予防接種を受けていること							
授業概要： 地域で生活している高齢者が健康づくりに取り組むためのさまざまな援助方法の中から、プログラムの企画、実施を通して、高齢者のヘルスプロモーションの必要性が理解できる。そして地域包括ケアシステムにおける「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける」ことを実現する方法について学ぶ。									
授業目標： 1. 地域社会で暮らしている人々の生活や健康のとらえ方について知る。 2. 個人が自分自身で健康を高めていく力を強くする働きかけ（以下ヘルスプロモーションとする）に関連する施設における実際の体験を通し、地域在住高齢者の健康課題とニーズについて理解を深める。 3. 地域で実施されているヘルスプロモーション支援の実際から支援環境や支援者への介入方法について看護の視点で考えることができる。 4. 地域在住高齢者が抱える健康課題に対するプログラムの企画、実施を通し、高齢者に対するヘルスプロモーション的援助方法の在り方について考察する。 5. 実習を通して自己の高齢者看護観について考えを形成することができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1 週間	第1日目 学内オリエンテーション インタビューの練習 厚木市保健福祉センターの見学 第2日目 地域活動高齢者の健康ニーズの聞き取り 地域活動高齢者の健康アセスメント 第3日目 厚木市寿荘における高齢者の趣味活動の参加観察 第4日目 地域活動高齢者へのヘルスプロモーションプログラムの作成 第5日目 地域活動高齢者へのヘルスプロモーションプログラムの実践 面接					「老年看護ケア実践Ⅱ要領」参照		実習	草地潤子 他
教本： 随時提示する 参考文献： 随時提示する									
成績評価の方法、評価基準： 実習への参加状況・情意状態、実習課題レポート・記録物等、別途定める実習評価基準に順ずる。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席も含む。									
学生へのアドバイス： 高齢者のこれまでの生活をふまえ、その方の個性性をも含めた支援を考えよう。									

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	実習		
授業科目(英文)	在宅看護ケア実践（Home Care Nursing: Practicum）							科目分類	専門分野		
担 当 教 員	渡部月子・望月麻衣・高橋真由美・村井恵子										
履 修 条 件	前提科目	在宅看護ケア実践実習以外の各看護学領域の実習を履修していること。									
	そ の 他	IGRA検査が陰性であること、また麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の予防接種が完了していること。									
授業概要： 在宅療養者が生活する地域の訪問看護ステーション等において、少人数のグループで臨地実習を行う。訪問看護師とともに療養者の自宅に同行訪問を行い、療養者宅における看護ケアの実践を学ぶ。療養者や家族の健康課題や生活課題を把握し、在宅看護による健康の維持・増進について学ぶとともに地域包括ケアシステムに基づく多職種との連携や継続看護の重要性につて深く理解する。また、地域で訪問診療を実施する病院・診療所において臨地実習を行い、在宅療養生活を支える医療と看護の実践について学ぶ。											
授業目標： 1. 訪問看護活動を通して、在宅療養者とその家族への理解を深めるとともに、生活の場に応じた看護技術の提供を学ぶ。 2. 在宅療養者が生活する地域のケアシステムや介護保険制度、保健・医療・福祉領域の社会資源について理解を深め、関係機関・関連職種との連携の実践を学ぶ。 3. 在宅における看護実践と領域別実習で実施した看護実践を統合し、継続看護の視点から看護の機能と役割について学ぶ。 4. 地域で訪問診療を実施している病院・診療所の医師・看護師が実際に行っている活動とその必要性について学ぶ。											
授業計画、事前学習・事後学習、形式											
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		担 当			
2 週間 (10日間)	1 週目 初日：学内オリエンテーション 2～5 日目：訪問看護ステーションでの臨地実習 訪問看護師とともに同行訪問を行う 訪問事例から 1 事例の看護過程を展開する 2 週目 6 日目：記録の整理、事例のまとめ 7～9 日目：在宅診療病院・診療所での臨地実習 在宅診療医及び看護師等と同行訪問を行う 地域包括支援センターでの臨地実習 地域包括支援センターの概要を理解し、センターの事業等に参加する 10 日目：最終カンファレンス・まとめ					「在宅看護ケア実践」要領参照		渡部 望月 高橋 村井			
教本： 在宅看護概論・在宅看護援助演習で使用したテキスト、資料										参考文献： 随時提示する。	
成績評価の方法、評価基準： 実習への参加状況、実習目標の達成度、記録物、実習態度等、別途定める実習評価基準に準じて評価する。											
学生へのアドバイス： 地域で生活する療養者の自宅に訪問するので、訪問マナーや倫理的配慮にはとくに留意し、積極的な姿勢で実習すること。各自健康管理に十分注意すること。											
2019年以前入学者科目名称			在宅看護実習								

開 講 年 次	4 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	看護マネジメント論 (Introduction to Nursing Management)							科目分類	専門分野
担 当 教 員	川畑貴美子・佐藤京子・(嶋野ひさ子)								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 看護マネジメントとは、看護の目的を効率的、効果的、そして創造的に果たすための機能です。看護職が、高齢化や重症化によるケアニーズの増大、生き残りをかけたヘルスケア組織の経営圧力の中で、人々の尊厳をまもり、ケア専門職としての責任を果たしていくためには、看護管理がこれまで以上に重要になります。看護職自身の自律を支え促進し、多様性を踏まえた協働の仕組みをつくり、市民とともにケアを創造していく看護管理を学びます。									
授業目標： 1. これからの看護には、すべての看護職に看護管理能力が求められることを理解する。 2. 看護マネジメントは、看護・ケアの価値を基盤とした管理を理解する。 3. 看護マネジメントには組織への視点とともに、組織を取り巻く社会への視点も必要であることを理解する。 4. 看護マネジメントの重要な要素として、看護師自身の専門職としての成長が不可欠であることを理解する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当
1	人々の生活と看護のかかわり ・看護職の多様な活動の場とマネジメント ・看護職の活動の変遷				事前：多様な看護職の活動の場とは何かテキストを精読し理解して授業に臨む。 事後：授業内容の復習			講義	川畑
2	看護管理の基本となるもの ・看護管理の定義 ・看護管理の基盤となる知識				事前：看護職と管理について、病院機能とは何かを、テキストを精読し理解できるように準備する。 事後：授業内容の復習			講義	川畑
3	看護管理の組織と方法論 ・専門職とは								
4	看護師の仕事とその管理 ・看護管理の目的 ・看護管理で重要なこと				事前：看護管理とは何か、テキストを精読し理解できるように準備する。 事後：授業内容の復習			講義	川畑
5	看護の質向上 ・看護管理と倫理				事前：看護の質、倫理とは何か、テキストを精読し理解ができるように準備する。 事後：授業内容の復習			講義	佐藤
6	医療安全の概念とシステム思考と方法 ・医療・看護の質の評価								
7	看護師の仕事とその管理 ・病院機能とモノ・情報・コスト管理 ・看護管理提供システム				事前：モノの管理、ケアシステムについてテキストを精読し理解ができるように準備。 事後：授業内容の復習			講義	川畑
8	看護管理に求められる能力 ・セルフマネジメントのスキル ・コミュニケーションスキル				事前：看護管理に必要な能力について、テキストを精読し、実践場面での理解ができるように準備する。 事後：授業内容の復習			講義	佐藤
9	看護管理能力の基盤となる理論								
10	看護学活動を取りまく法律・制度 ・看護管理に関連する法律 ・医療・福祉・看護政策の動向				事前：医療・看護に関係する法律、医療制度と経済について理解できるように準備。 事後：授業内容の復習			講義	川畑
11	看護職とキャリア学 ・社会人と専門職 ・生涯教育と看護職のキャリア				事前：看護職のキャリア、医療・看護の質保障とはどのようなことか理解できるようにテキストを精読し準備する。。 事後：授業内容の復習			講義	佐藤
12	看護と経営：医療と経済 ・看護にかかる医療・介護制度								
13	看護政策の動向、看護の専門機関・職能団体 看護マネジメントのまとめ				事前：看護政策とは何か、テキストを精読し理解ができるように準備する。 事後：授業内容の復習			講義	川畑
14	看護管理と病院経営 看護のトップマネジメントの実際を学び、組織理念・看護提供システム・人的資源活用の機能など				事前：病院組織と看護職との関連等、理解できるように準備する。 事後：講演内容の復習			講演	ゲスト スピーカー
15									
教本： 1. ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 吉田千文・志田京子・武村雪絵・手島 恵編（MCメディカ出版）					参考文献： 1. 看護管理学習テキスト 第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論 井部俊子監修 日本看護協会出版会 2021年度版 2. 看護管理学習テキスト 第3版 第2巻・第3巻・第4巻・第5巻 増野園恵他著 日本看護協会出版会 2021年度版 その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（5％）、レポート等（10％）、定期試験（85％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日々の看護を提供する看護職の実践を支えているのは看護管理です。それぞれの単元の内容をテキストで予習し、毎回の授業を復習し、自分の考えを深めましょう。									
2019年以前入学者科目名称			看護マネジメント						

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	看護マネジメント実践（統合実習）（Nursing Management Practicum）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	◎冨田幸江・川畑貴美子・丸山昭子・大脇淳子・藤井智恵子・渡部月子・草地潤子・和田佳子・嶋野ひさ子・下村晃子・小林由起子・増山利華・佐藤京子・牛島典子・奈良かな子・大門明美・吉田裕子・小野坂益成・望月麻衣・川原理香・阿部ケエ子・浅霧博美・川下貴士・山本貴子・勅使河原俊子・高橋真由美・西 法子・深田雅美・藤井加奈子・箭内彩也佳・村井恵子								
履 修 条 件	前提科目	看護科学領域における看護の基礎、リプロダクティブ・ヘルスの看護、小児期の看護、成人期の看護、老年期の看護、精神の看護、在宅の看護の実習を、すべて履修していること。							
	そ の 他	IGRA検査で陰性の者、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で抗体がある者または陰性で予防接種が完了している者。							
授業概要： 看護マネジメント実践は、各専門領域での実習を踏まえ、既修の看護に関する知識・技術・態度を統合し、病院・施設または地域場で看護マネジメントが実践できる基礎的能力を養う。 そのため、本看護実践の経験を通して、集団および個人へのヘルスニーズに焦点を当て、看護マネジメントなどの実際について学修する。									
授業目標： 1. 看護チームにおける看護マネジメントの視点を学び、組織の方針に基づいた役割を理解し、看護実践に活かすこと的能力を養う。 2. 複数の対象がもつニーズを理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための問題解決能力を養う。 3. 看護専門職者としての保健医療福祉の関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を養う。 4. 看護専門職者としての倫理観と責任感を養う。 5. 実践の中で自己の課題に気づき、解決に向けて主体的な学習ができる。 なお、授業目標の学習の視点は、別冊「看護マネジメント実践 実習要領」を参照のこと。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		担 当	
1 週目 5 日間	・実習 1 日目は学内ガイダンス、実習に関する事前学習等を行う。 ・実習 2・3・4・5 日目は臨地での実習を行う。 実習 2 日目には実習施設でのオリエンテーションを受ける。 ・日程及び実習の展開は、学生が実習する看護学領域や実習施設毎の実習計画により実施する。					詳細は、看護マネジメント実践（統合実習）の実習要項および、「各領域看護マネジメント実践 実習要領」を参照のこと		上部に記載	
2 週目 5 日間	・実習 6・7・8・9 日目は臨地で実習を行う。 ・9 日目は臨地で、病棟実習指導者を交えたまとめのカンファレンスを行う。 ・10日目の最終日は学内にて、実習に関するまとめや報告会、実習評価等を行う。								
実習の方法 1. 看護学領域ごとに、看護マネジメント実践（統合実習）の目的・目標を達成するための実習を開講する。 2. 個々の学生が、実習への興味、関心、将来の計画に沿って、一看護学領域を選んで履修する。 3. 看護マネジメント実践（統合実習）の全体オリエンテーションの他に、実習領域別で事前オリエンテーションを実施する。 4. 各看護学領域別に、担当教員、実習指導者の指導の下に実習を行う。 5. 実習領域における看護実践の場の特性を生かし、対象に必要な看護をマネジメントする能力を習得するため、いずれかの看護実践を体験する。 ・看護師と共に看護チームの一員として行動し、複数患者への看護を体験する。 ・病院・病棟の看護体制の特性を生かした看護のあり方を学習する。 ・実習施設の理念に基づく看護管理、特に、看護管理者、リーダー看護師の役割と機能を、シャドーイングを通して学習する。 ・退院後の在宅・外来看護に向けた継続看護の実際を見学する。 ・チーム医療・他職種との協働による、患者の健康回復を促進するための看護のあり方を学習する。 ・訪問看護ステーションの看護について学習する。 ・療養環境の整備・医療安全の視点での看護について、実習を通して学習する。 6. 学生は助言を受けながら看護チームの一員として看護実践をした後、自己の看護マネジメント実践（統合実習）のあり方について振り返り（評価）、その学びを深める。 7. 看護学の実習領域は以下の7領域とする。 看護の基礎、リプロダクティブ・ヘルスの看護、小児期の看護、成人期の看護、老年期の看護、精神の看護、在宅の看護 8. 各領域の学生人数は4～14名程度に配置する。（別紙実習配置表参照） 9. 実習終了後に「将来の看護職者として私が目指すこと」というレポートを作成し提出する。 実習の日程： 実習を行う時期は7月中旬から8月上旬であるが、各看護学領域によって異なる。									
教本： 4 年次までの学習で使用したテキストおよび資料					参考文献： 実習施設での対象把握に必要な文献は、随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 実習の出席状況、態度、課題提出状況など、実習課題レポート・記録物等、別途定める実習評価基準に準じて評価する。実習での態度は学内実習オリエンテーションへの出席も含む。									
学生へのアドバイス： 看護マネジメント実践（統合実習）の実施までに修得した、すべての知識・技術・態度を統合し、卒業後、看護専門職として、看護に従事するための基盤を作る重要な実習です。各自看護への情熱をもって真剣に取り組むことを期待します。									
2019年以前入学者科目名称			統合看護実習						

開 講 年 次	4 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	4	時 間 数	120	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	看護研究 (Nursing Research)							科目分類	専門分野
担 当 教 員	丸山昭子・大脇淳子・川畑貴美子・藤井智恵子・富田幸江・渡部月子・草地潤子・和田佳子・嶋野ひさ子・下村晃子・増山利華・佐藤京子・小林由起子・奈良かな子・小野坂益成・牛島典子・望月麻衣・川原理香・阿部ケエ子・吉田裕子・浅霧博美・大門明美・山本貴子・川下貴士・勅使河原俊子・高橋真由美・西 法子・深田雅美・藤井加奈子・箭内彩也佳・村井恵子								
履 修 条 件	前提科目	3 年次までの必修科目が履修単位取得済であること							
	そ の 他								
授業概要： 学生 of これまでの学習の集大成として、個々の看護現象に対する関心や問題提起について、テーマを設定し研究過程を踏まえることにより、研究能力を涵養する授業科目である。 領域別臨地実習や統合実習において疑問に感じたり深めたい事柄を科学的に考察し、まとめることにより、看護の意図的な取り組みの論理性、実践の正確な記述、結果の適切な分析や評価のあり方など、看護研究の基礎的方法の習得を図りながら、研究計画に基づき実践し、論文としてまとめ発表する。									
授業目標： 1. 看護に対する研究的関心を書き表すことができる。 2. 関心のある課題について文献検討をし、テーマを焦点化できる。 3. 適切な研究方法を選択し、看護研究計画を立てることができる。 4. 看護研究計画に基づき、研究データの収集ができる。 5. 収集されたデータを客観的に整理・分析できる。 6. 研究結果に基づいた考察ができる。 7. 行われた研究を執筆要領に従って論文としてまとめることができる。 8. 研究着手から論文発表までの過程を倫理的に遂行できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		担 当	
前 期	ガイダンス 担当教員の紹介 - 情報収集を行い、研究テーマを設定することができる - 文献検索を行い、研究目的を明確にすることができる - 研究目的にそった研究方法を選択することができる - 研究計画書を作成できる（人を対象とした研究では倫理委員会審査を受ける） - 研究計画に基づき調査（データ収集）を実行できる - 収集された情報（データ）を整理し、分析できる					事前事後の課題は個人の進捗状況に合わせ、指導教員が個別に指示する。		上記科目担当者から個別に選任される	
後 期	- 分析したデータをまとめ、結果として表すことができる - 研究結果を読みこみ考察することができる - 研究プロセスと結果・考察を研究論文としてまとめることができる - まとめた研究論文を他者にわかるように発表できる								
教本： 教本は定めない。必要に応じて担当教員が資料を紹介する。 参考文献： 3 年次の看護研究方法論での資料 各学生の研究テーマに合った文献を指導教員が紹介する。									
成績評価の方法、評価基準： 看護学科共通の看護研究評価表をもとに授業目標の達成度を指導教員が評価する。									
学生へのアドバイス： 看護における自分の関心事や疑問を、研究という形で探求してみましょう。仕上げるまでに、思ったよりも時間がかかります。タイム管理をしっかりと行いましょう。									

開 講 年 次	4 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際医療と看護（Global Health and Nursing Practice）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	三浦左千夫・増山利華								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国内外を対象とした日常生活レベルでの基本的な健康管理システムとそれをサポートする国際協力について学ぶ。特に、プライマリヘルスケアシステムとその国の教育システム、国民の意識、経済力、気候風土と文化の関連性について考察し、地域差についてどのようなバランスをとるべきかを考える。									
授業目標： 1. 寄生虫感染症を通じ輸入感染症の危険性、感染予防の知識を向上する。 2. 寄生虫感染症の流行地の公衆衛生学的背景と我が国の差異について理解を深める。 3. 国際看護の基盤となるに多文化理解の必要性を理解できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1 (4/11)	輸入感染症とは？ 寄生虫感染症蠕虫総論					事前：輸入感染症とは？ 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
2 (4/11)	寄生虫感染症（線虫感染症～ノーベル医学賞まで）					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
3 (4/25)	寄生虫感染症（吸虫感染）国際協力ー住血吸虫対策					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
4 (4/25)	寄生虫感染症（条虫感染）					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
5 (5/9)	寄生虫感染症（原虫総論）病原体媒介節足動物					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
6 (5/9)	原虫感染症 I アメーバ感染症～マラリア感染症					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
7 (5/16)	原虫感染症 II 先天性感染（国際協力母子保健）					事前：母子感染とは？ 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
8 (5/16)	我が国におけるシャーガス病の現況（しのびよるシャーガス病）					事前： 事後：忍び寄るシャーガス病と言われる理由は？		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
9	1. 国際看護 1) 海外で展開される国際看護 ・国際協力の現状 2) 国内における国際看護 2. 看護と多文化理解 1) 多文化理解が看護に及ぼす影響					事前： 事後：身の回りにある多文化について考える		講義	増山 利華
教本： 1. 医動物学 有蘭直樹・吉田幸雄 著 南山堂					参考文献： 1. 顧みられない熱帯病 北 潔 2. 実践グローバルヘルス 日本国際保健医療学会編 杏林書院 3. その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等、小テスト・レポート等、定期試験等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 寄生虫疾患を通じて世界巡りを楽しみながら輸入感染症を理解すると同時に国際医療協力への道を探る。									
2019年以前入学者科目名称			国際医療と看護協力						

開 講 年 次	4 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	先端医療と看護（Advanced medicine and Nursing）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	大脇淳子・川畑貴美子・丸山昭子・増山利華・下村晃子								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他	※ 5 名以下の履修の場合は開講しない							
授業概要： 最先端で高度な医療技術が臨床の場では数多く利用されている。これらの医療を受けている患者を理解するためには、まず、診断治療に利用されている医療を理解することが必要である。具体的には、遺伝子診断、臓器移植、人工臓器や再生医療、低侵襲治療を受けている患者の倫理的配慮も踏まえた援助について考える。									
授業目標： 1. 医療の歴史の変遷及び先端医療の定義・法的基盤を説明できる。 2. ライフステージ（周産期・小児期・成人期）に特徴的な先端医療と看護を説明できる。 3. 精神医療の先端医療と看護を説明できる 4. 先端医療における看護の役割を説明できる。 5. 生命倫理を基盤に先端医療を受ける対象に対する倫理的態度と取り巻く環境に関心をもつ。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当
1	ガイダンス 現代医療の歴史と変遷、先端医療の定義・法的基盤				事前：医療の歴史、先端医療について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇
2	妊娠・周産期の先端医療と看護：生殖医療				事前：母性看護学各論 第2章 出生前からのリプロダクティブヘルスケアを熟読する 事後：講義内容の復習			講義	増山
3	小児期の先端医療と看護：新生児医療				事前：新生児医療について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇
4	成人期の先端医療と看護：臓器移植と再生医療				事前：臓器移植について基礎知識を準備する 事後：講義内容の復習			講義	川畑
5	成人期の先端医療と看護：神経難病医療				事前：一般的な神経難病の検査・治療・福祉について調べる 事後：講義内容の復習			講義	下村
6	精神医療における先端医療と看護：精神医療の変遷と地域移行				事前：精神医療の地域包括ケアシステムについて調べる 事後：講義内容の復習			講義	丸山
7	先端医療における生命倫理と倫理的課題				事前：生命倫理と医の倫理について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇
8	先端医療と看護倫理、看護の役割（レポート課題について）				事前：看護倫理について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇
教本： なし					参考文献： 1. 生命倫理と医療倫理（第4版）、伏木信次／榎則章、金芳堂（2020） 2. シリーズ生命倫理学、先端医療、シリーズ生命倫理学編集委員会【編】／霜田 求／虫明 茂【責任編集】、丸善出版（2012） その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（10%）・課題レポート等（90%）等で総合評価する。 レポート課題については、別途提示する。									
学生へのアドバイス： 先端医療の発展は、これまで治療困難な病を抱える人々を病から解放することで生活の質を向上させている。一方で、法的整備や倫理的問題など、常に人々の健康観や生命の尊厳に基づく倫理観を基盤とした多様な議論を必要とする。 この授業をきっかけに、先端医療への興味・関心を持ち、先端医療に携わる医療者としての看護の役割と、自身の倫理観の構築に役立てることを期待する。									

開 講 年 次	4 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	先端医療（Introduction to Advanced Medical Technologies）							科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	垣内史堂・吉井信哉								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 最先端かつ高度な医療技術が臨床の場で数多く利用されている。これらの医療を理解することは、看護実践をする上で重要な課題となっている。この講義では、特に診断・治療に利用される先端医療技術、診断機器の実際を学習し、それぞれの原理、機能、成果、問題点等について理解を深める。具体的には、先端画像診断、遺伝子診断と治療、遠隔医療、カテーテル治療、内視鏡下治療、臓器移植、人工臓器、人工材料、再生医療、医療ロボット、アンチエイジング等について学習する。									
授業目標： ・最先端の医療について専門医師からのレクチャーを受ける									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	先進医療（1）頭痛について概論					事前： 事後：授業内容の復習		講義	吉井
2	先進医療（2）頭痛について各論					事前： 事後：授業内容の復習		講義	吉井
3	先進医療（3）脳血管障害の最先端治療					事前： 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー、 （吉井）
4	先進医療（4） 3次救急医療における治療と死について					事前： 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー、 （吉井）
5	先進医療（5）末梢血管の外科的治療					事前： 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー、 （吉井）
6	先進医療（6）患者・家族と共によい終末を					事前： 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー、 （吉井）
7	先進医療（7）頭痛について各論					事前： 事後：授業内容の復習		講義	ゲストスピーカー、 吉井
8	先進医療（8）免疫治療について					事前： 事後：授業内容の復習		講義	垣内(吉井)
教本：参考文獻： 配布資料、プリント等									
成績評価の方法、評価基準： ・授業参加状況（リアクションペーパーの返答等）授業の際に提出する。レポート等で総合評価する場合は、レポートは講義内容と自ら調べた内容を総合して提出すること（自ら調べた内容については参考文献ないし参考図書は必ず記載すること）。 ・授業中の私語、スマートフォン（私用での使用）、授業中の無断退出は禁止とする。									
学生へのアドバイス： 周知のごとく医療は日進月歩であり、最先端の医療の治療にて今まで克服できなかった病気が克服できるようになったり、侵襲が強かった治療も侵襲が軽減され多くの苦痛を受けなくなってなったりとしている。また、先進の治療ばかりに注目されるが、人としてどのような終末を迎え、どのような終末が人にとってよいか、治療ばかりに目が向いてしまうが、よりよい人生の最後を迎えるのが良いのか、今回の授業を受け、違う視点から医療を学んでほしい。また、新しいことや人の終末をふまえ 興味を持ち、常に学ぶ姿勢も養ってほしい。									
2019年以前入学者科目名称			先端医療概論						

開 講 年 次	4 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	卒 業 演 習 (Nursing Professional Development : Seminar)							科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	大 脇 淳 子 ・ 川 畑 貴 美 子 ・ 丸 山 昭 子 ・ 藤 井 智 恵 子 ・ 富 田 幸 江 ・ 渡 部 月 子 ・ 草 地 潤 子 ・ 和 田 佳 子 ・ 嶋 野 ひ さ 子 ・ 下 村 晃 子 ・ 増 山 利 華 ・ 佐 藤 京 子 ・ 小 林 由 起 子 ・ 奈 良 可 奈 子 ・ 小 野 坂 益 成 ・ 牛 島 典 子 ・ 望 月 麻 衣 ・ 川 原 理 香 ・ 大 門 明 美 ・ 吉 田 裕 子 ・ 浅 霧 博 美 ・ 阿 部 ケ エ 子 ・ 山 本 貴 子 ・ 川 下 貴 士 ・ 勅 使 河 原 俊 子 ・ 高 橋 真 由 美 ・ 西 法 子 ・ 深 田 雅 美 ・ 藤 井 加 奈 子 ・ 箭 内 彩 也 佳 ・ 村 井 恵 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	4 年 次 前 期 ま で の 専 門 分 野 の 領 域 別 科 目 の 単 位 を 全 て 修 得 し て い る こ と (ケ ア 実 践 を 含 む)。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本 学 の 定 め た 卒 業 時 の 到 達 目 標 に 照 ら し、学 生 自 身 が 客 観 的 振 り 返 り、自 ら の 到 達 度 を 評 価 し、そ の 評 価 結 果 を も と に す で に 学 ん だ 専 門 科 目 (看 護 の 基 礎、発 達 と 看 護、女 性 と 看 護、地 域 社 会 と 看 護、看 護 の 統 合 な ど) の 不 足 し て い る 知 識、技 術、情 意 を 主 体 的 に オ ム ニ バ ス 形 式 で 学 習 し、正 確 に、内 容 を 補 充 す る と と も に、自 ら の 能 動 的 学 習 能 力 (読 解 力、理 解 力、判 断 力、文 章 力 な ど) を 獲 得 で き る よ う に 学 修 す る。									
授 業 目 標 : 1. 専 門 分 野 に お い て、講 義 ・ 演 習 ・ 実 習 を 踏 ま え て 卒 業 す る に ふ さ わ し い 知 識 ・ 技 術 な ど を 持 っ て い る か を 総 合 的 に 確 認 で き る 2. 卒 業 時 の 到 達 目 標 を 見 据 え て 試 験 方 式 で 知 識 ・ 技 術 の エ ビ デ ン ス を 自 己 評 価 で き る。 3. 学 生 個 人 が、自 分 の 弱 い と こ ろ を 探 索 で き、そ れ を 修 復 す る 努 力 が 出 来 る。 4. こ れ を 機 会 に、学 習 す る 能 動 的 能 力 な ど を 修 正 で き る。									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当	
1	看 護 の 基 礎 1 (看 護 学 原 論)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	富 田、藤 井 他	
2	看 護 の 基 礎 2 (日 常 生 活 援 助 演 習 I ・ II、看 護 方 法 論 演 習 を 一 部 含 む)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	藤 井、富 田 他	
3	看 護 の 基 礎 3 (医 療 支 援 技 術、フ ィ ジ カ ル ア セ ス メ ン ト 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	富 田、藤 井 他	
4	小 児 期 の 看 護 1 (小 児 発 達 援 助 論、小 児 発 達 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	大 脇、大 門 他	
5	小 児 期 の 看 護 2 (小 児 発 達 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	大 脇、大 門 他	
6	小 児 期 の 看 護 3 (小 児 発 達 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	大 脇、大 門 他	
7	成 人 期 の 看 護 1 (成 人 発 達 援 助 論)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	川 畑	
8	成 人 期 の 看 護 2 (成 人 発 達 援 助 演 習 I 急 性 期 ・ 回 復 期)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	下 村、川 畑 他	
9	成 人 期 の 看 護 3 (成 人 発 達 援 助 演 習 II 慢 性 期 ・ 終 末 期)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	川 畑、下 村 他	
10	老 年 期 の 看 護 1 (老 年 発 達 援 助 論)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	草 地 他	
11	老 年 期 の 看 護 2 (老 年 発 達 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	草 地 他	
12	老 年 期 の 看 護 3 (老 年 発 達 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	草 地 他	
13	リ プ ロ ダ ク テ ィ ブ ・ ヘ ル ス の 看 護 1 (リ プ ロ ダ ク テ ィ ブ ・ ヘ ル ス 援 助 論)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	柴 田	
14	リ プ ロ ダ ク テ ィ ブ ・ ヘ ル ス の 看 護 2 (リ プ ロ ダ ク テ ィ ブ ・ ヘ ル ス 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	和 田、増 山 他	
15	リ プ ロ ダ ク テ ィ ブ ・ ヘ ル ス の 看 護 3 (リ プ ロ ダ ク テ ィ ブ ・ ヘ ル ス 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	和 田、増 山 他	
16	精 神 の 看 護 1 (精 神 看 護 援 助 論)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	丸 山	
17	精 神 の 看 護 2 (精 神 看 護 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	丸 山、小 野 坂 川 下	
18	精 神 の 看 護 3 (精 神 看 護 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	丸 山、小 野 坂 川 下	
19	地 域 在 宅 の 看 護 1 (在 宅 看 護 援 助 論、関 連 す る 法 規)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	渡 部	
20	地 域 在 宅 の 看 護 2 (在 宅 看 護 援 助 演 習)				事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		試 験 ・ 講 義	渡 部、望 月 他	

21	地域在宅の看護 3（在宅看護援助演習）	事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習	試験・講義	渡部、望月 他
22	最終試験		試験	大脇 他
教本： 1. 各授業で使用了もの全ての教本 レジユメ 資料等				
成績評価の方法、評価基準： ＊授業参加状況（10％）、最終試験（90％）、の総合評価とする。 最終試験は看護科学領域7つを総合し、100点満点とする。 ＊この単元の単位取得には、7領域ごとの時間の2／3以上の出席が絶対条件です。				
学生へのアドバイス： 国家試験の過去問題及び各領域の定期試験、小テストの試験問題を全て復習し、最後のまとめでしての自己の知識力を振り返り、国家試験受験への準備とすることが出来ます。				

開 講 年 次	4 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	医療系アドバンスセミナー (Advanced Medical Seminar)							科目分類	専門分野
担 当 教 員	垣内史堂・吉井信哉								
履 修 条 件	前提科目	身体の構造・機能 A, B、病態学総論、健康障害 A, B、運動器系の健康障害、小児の健康障害、精神・心理の健康障害を修得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本学の定めた卒業時の到達目標に照らし、学生自身が客観的に振り返り、自らの到達度を評価し、その評価基準結果をもとにすでに学んだ小児、成人。老人に慢性期・急性期に発達する諸疾病の各種病態に焦点をあて学習した知識を確認し、その後新しく採用された検査、治療などについて追加講義し 4 年間の知識を総合的に問う学習とする。専門基礎科目（解剖整理、病理学、微生物学、薬理学、栄養学、公衆衛生など）の不足している知識・技術・情意を主体的に学習し、正確に、内容を補充するとともに、自らの能動的学習能力（読解力、理解力、判断力、文章力など）を獲得できるように学習する。									
授業目標： 1. 各臓器についてそれぞれの構造と機能、およびその異常と疾患との関連を確認し、説明できる。 2. それらの疾患が他の臓器の形態・機能の異常とどう関連するかを確認し、説明できる。 3. 個別の臓器によらない疾患について、病態を確認し、説明できる。 4. それぞれの疾患について、症例もみながら、治療の流れを知り、治療について概略を説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	呼吸器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
2	生体の化学と酸塩基平衡、ホメオスタシスについてについて					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
3	循環器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
4	消化器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
5	血液・造血器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
6	脳・神経系の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
7	膠原病に関わる主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
8	内分泌臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
9	アレルギーに関わる主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
10	代謝系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
11	感染症および皮膚に関わる主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
12	腎・泌尿器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
13	感覚器（眼科領域）の構造と機能・主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	垣内
14	感覚器（耳鼻科領域）の構造と機能・主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
15	模擬試験（到達度判定）							演習	垣内・吉井
注① 当該分野のこれまでの教科書を復習してくること。 注② 当日よく確認できなかったことを、これまでの教科書・プリントを参照して解決しておく。									
教本： 特になし。随時プリントを配布する。			参考文献： 1. 「身体の構造と機能 A, B」および「健康障害 A・B、運動器系の健康障害、小児の健康障害、精神・心理の健康障害」で使用した教科書 2. https://nurseful.jp/nursefulshikkanbetsu/ 「ナースフル疾患別シリーズ」など、WEB上に無料で閲覧できるサイトも多い。 その他は随時提示する。						
成績評価の方法、評価基準： 授業への出席は単位認定の前提条件とし、授業参加状況等（15%）、小テスト・レポート等（15%）、定期試験（75%）等で総合評価する。 課題等が出された場合には、次の講義でそれを基に討論を行う予定である。必ず準備してくること。									
学生へのアドバイス：									

開 講 年 次	4 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	産業保健（Introduction to Occupational Health and Safety）							科目分類	専門分野
担 当 教 員	藤井智恵子・望月麻衣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 産業の場で働く人々の健康に関する様々な問題を理解し、作業や職場環境が健康に及ぼす影響について学ぶ。既存の資料を使用した地区診断の実際、関係機関との連絡調整、行政施策を理解し、産業保健における看護職の役割について学ぶ。									
授業目標： 1. 労働者の健康を守る法規、衛生行政管理体制、事業場の安全衛生組織を説明できる。 2. 産業構造の変化に伴い、労働者の健康障害の推移、業務上疾病の統計的データから労働者の健康状態を述べるができる。 3. 事業場における健康診断と事後指導、健康相談、健康づくり、メンタルヘルス不調者への対応における産業看護職の役割を述べるができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	産業保健の概要－産業保健の歴史、産業における看護職の役割－ 産業看護の新定義				事前：シラバスの内容の確認 事後：産業保健の目的と定義についてまとめる		講義	藤井智恵子	
2	産業保健を取り巻く現状－業務上疾病の統計データから労働者の健康状態を分析する。労働者を取り巻く法律、第14次労働災害防止計画				事前：「業務上疾病」について熟読 事後：労働者を取り巻く法律についてまとめる		講義	藤井智恵子	
3	個人へのアプローチ－人と仕事との調和への支援－				事前：「人と仕事との調和への支援」を熟読 事後：人と仕事との調和への支援についてまとめる		講義	藤井智恵子	
4	職業性疾病とその予防				事前：「職業性疾病」を熟読 事後：職業性疾病についてまとめる		講義	藤井智恵子	
5	作業関連疾患とその予防				事前：「作業関連疾患」について熟読 事後：作業関連疾患とその予防についてまとめる		講義	藤井智恵子	
6	働く人のメンタルヘルスとその予防策				事前：「働く人のメンタルヘルス」について熟読 事後：働く人のメンタルヘルスとその予防策についてまとめる		講義	望月 麻衣	
7	表層的ダイバーシティ（性別や年齢、障がいなど）に対するアプローチ				事前：「表層的ダイバーシティ」について熟読 事後：表層的ダイバーシティに対するアプローチについてまとめる		講義	藤井智恵子	
8	産業保健の専門性－産業保健に求められるコンピテンシー、産業保健の役割を果たすための心構え－についてグループワークでディスカッションをして学びを深める				事前：「産業保健の専門性」についてまとめる 事後：「産業看護職の専門性の役割」についてまとめる		講義 グループワーク	藤井智恵子 望月 麻衣	
教本： 1. 国民衛生の動向 2023／2024 厚生労働統計局 2. 労働衛生のしおり 令和5年度版 中央労働災害防止協会 その他は随時提示する。					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10％）、レポート等（30％）、最終レポート（60％）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 産業保健は労働者を対象とします。労働者人口は、6,400万人、年齢層は18歳～60歳代が中心です。働く人の健康問題に関心を持ち、新聞にも目を通しましょう。									